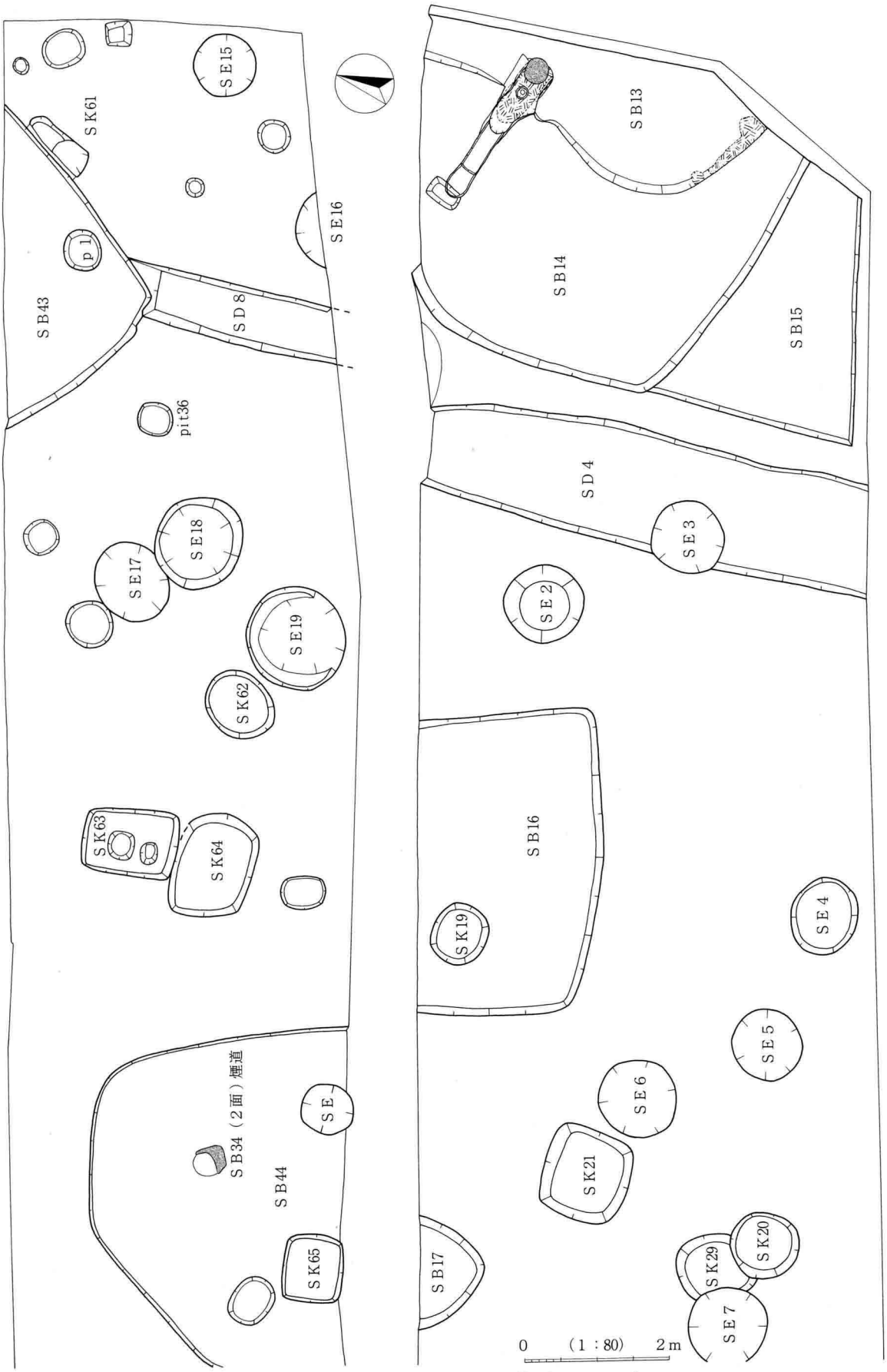


図180　Ⅶ区１次面遺構実測図⑧（S＝1/80）

N－2地点 SK58　N-２地点の南壁際で検出されたため、遺構南壁は確認されていない。南側のS-３地点では検出されなかったことより、両調査区が交差する中央未調査部分にて収束すると予測され、およそ3.8×2.5mの長方形土坑と想定される。柱穴・貼床・カマド等の居住に関わる施設は認められず、土坑中央部に多量の滑石製臼玉とともに土器群が緩い円弧を描くように列をなして検出された。土師器高杯・小型丸底土器を主体とし、これに壷・甕・椀が加わる。土器群は２～３カ所のまとまりとして把握できるが、特に器種の偏りはみられない。完形で残存する個体は小型器種数点にみられるものの、大半が欠損している。接合関係は基本的に周辺の破片により復元される確率が高いが、比較的離れた破片が接合した高杯が１点ある。図181中に杯部と脚部にトーンを付した高杯が該当し、それぞれの杯部と脚部が接合して完形に復元された。これは偶然移動したとするには距離が大きく、意図的な破砕の可能性を示すものと考えられる。

滑石製臼玉は出土総数130点で、遺構検出時より土器取り上げ後まで出土しているが、土器群の精査時に最も出土した。出土状況は土器群を取り巻くようであるが、分布に規則性は見いだされない。さらにいずれもが単独でかつ円孔面（平坦面）を表にして出土し、連珠状の出土状態は全く確認されなかった。このほか、勾玉２・管玉２・土玉１・赤玉１・ガラス玉４の出土があり、玉類は総数140点にのぼる。勾玉・管玉はいずれも土器片上より出土し、土玉やガラス玉は臼玉と同様な出土状況である。なお、図181中のドットは玉類の出土位置を示し、●は勾玉、■は管玉、▲はガラス玉で、小円は臼玉の出土位置を示している。

石製模造品は２点（鏡形・勾玉形）が確認されている。鏡形は遺構検出時に出土しているため、出土詳細箇所は不明であるが、本遺構に伴うことが確実である。勾玉は土器群に混じって出土している。

鉄製品は不明小片１点の出土が認められた。覆土中よりの出土である。

写真162　ＳＫ58遺物出土状況（南から）

写真163　ＳＫ58遺物出土状況（北から）

写真164　ＳＫ58遺物出土状況（東から）

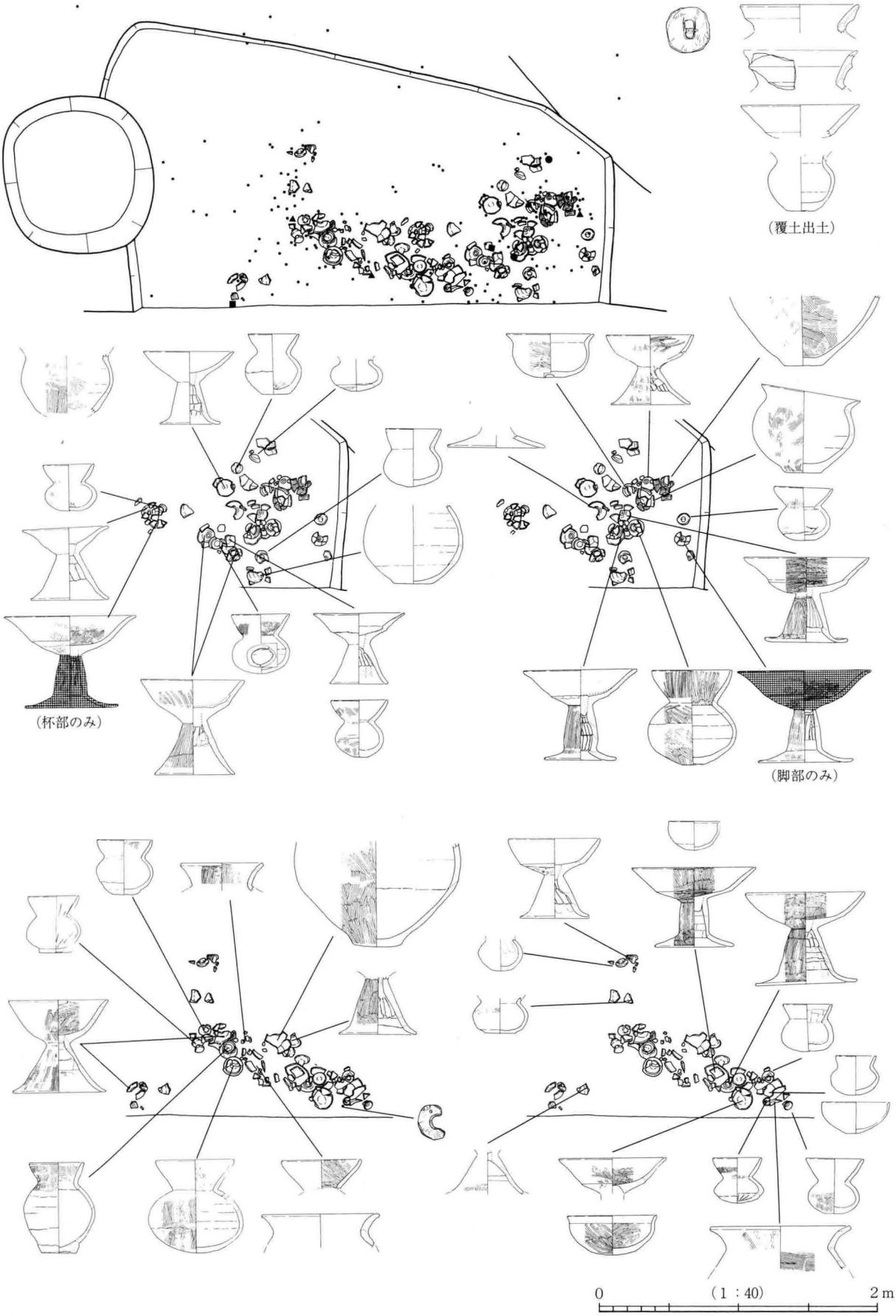


図181　N-２地点ＳＫ58遺物出土状況実測図（S＝1/40）

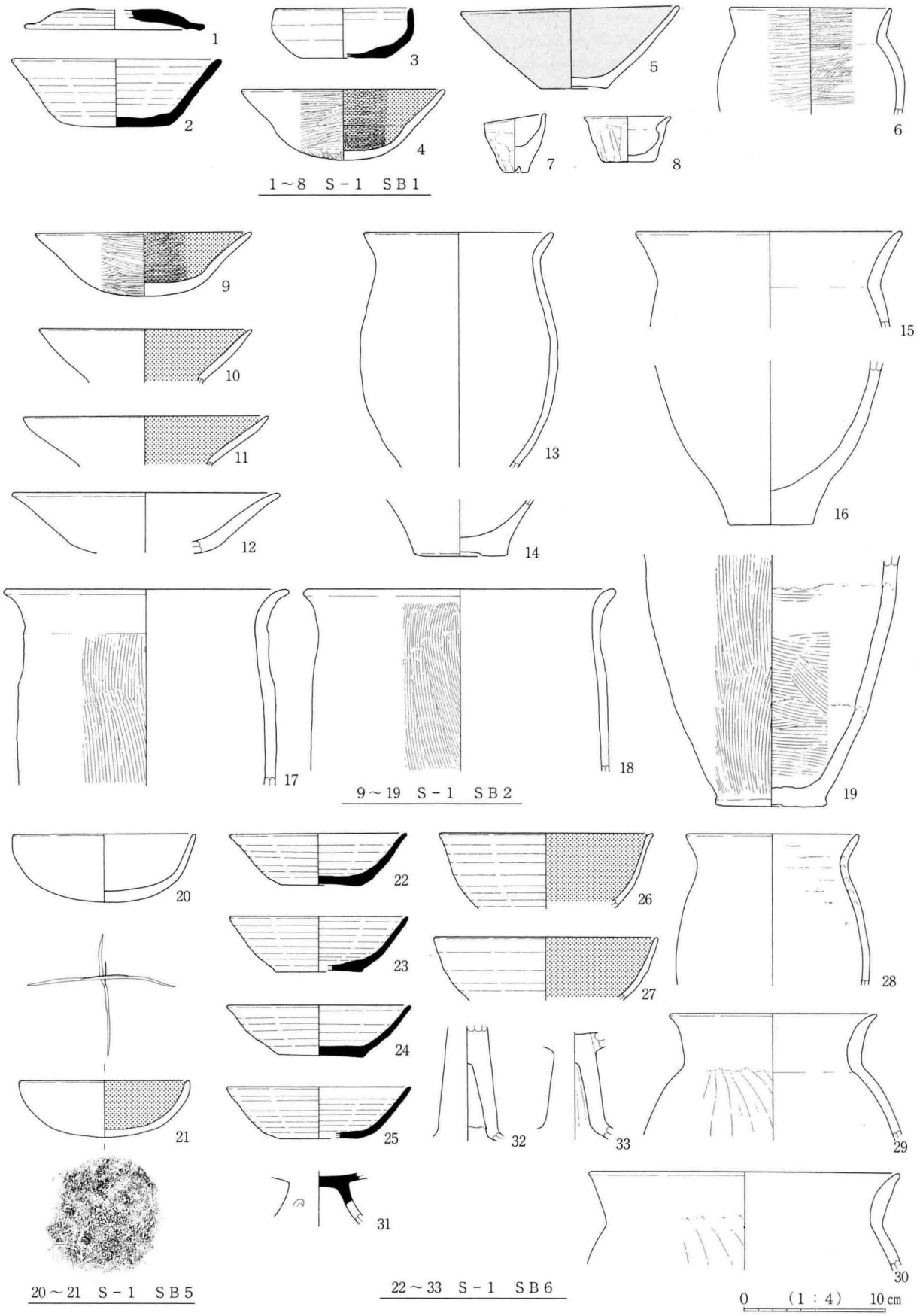


図182　Ⅶ区１次面出土土器実測図①（S＝1／4）

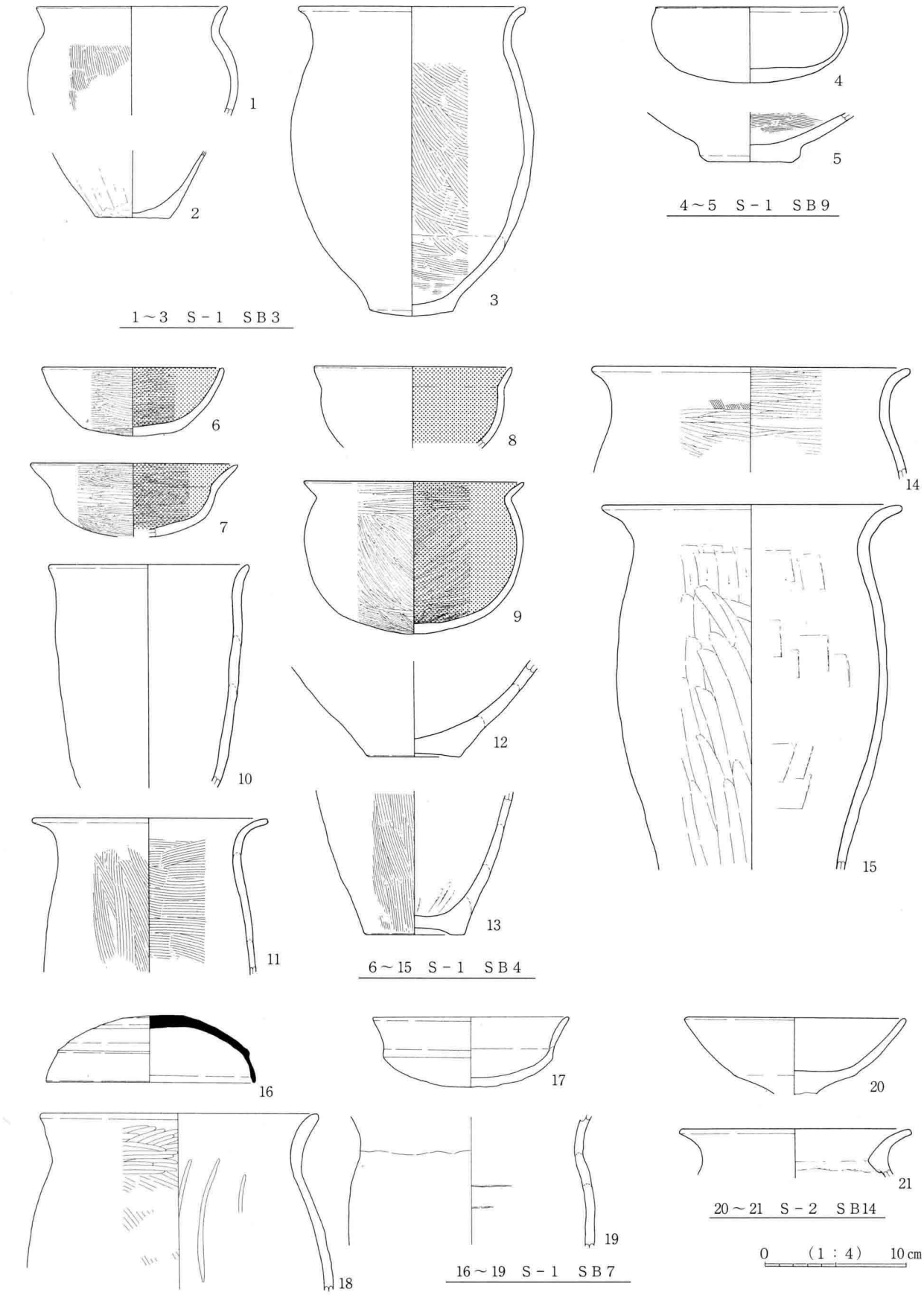


図183　Ⅶ区１次面出土土器実測図②（S＝1／4）

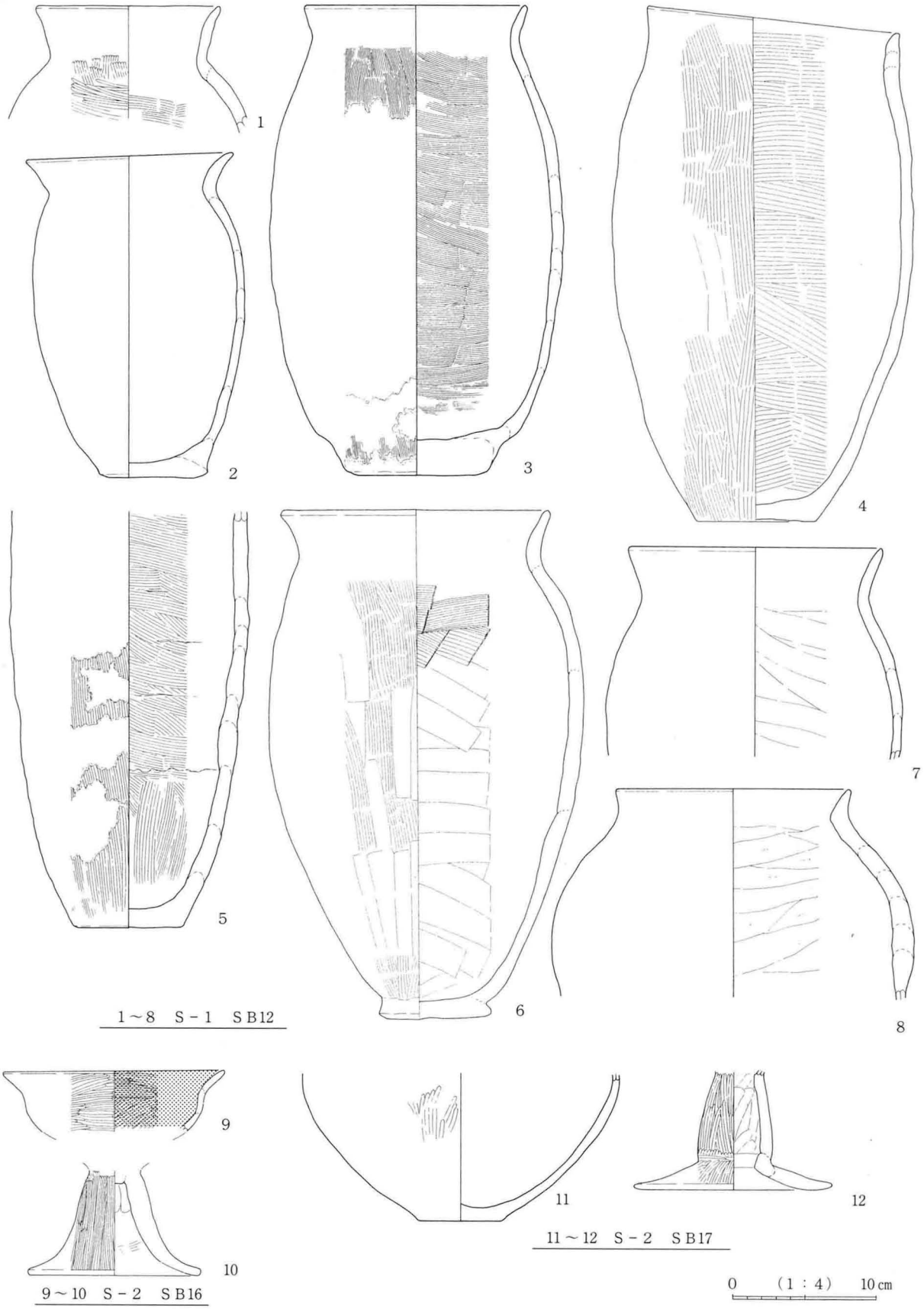


図184　Ⅶ区１次面出土土器実測図③（S＝1／4）

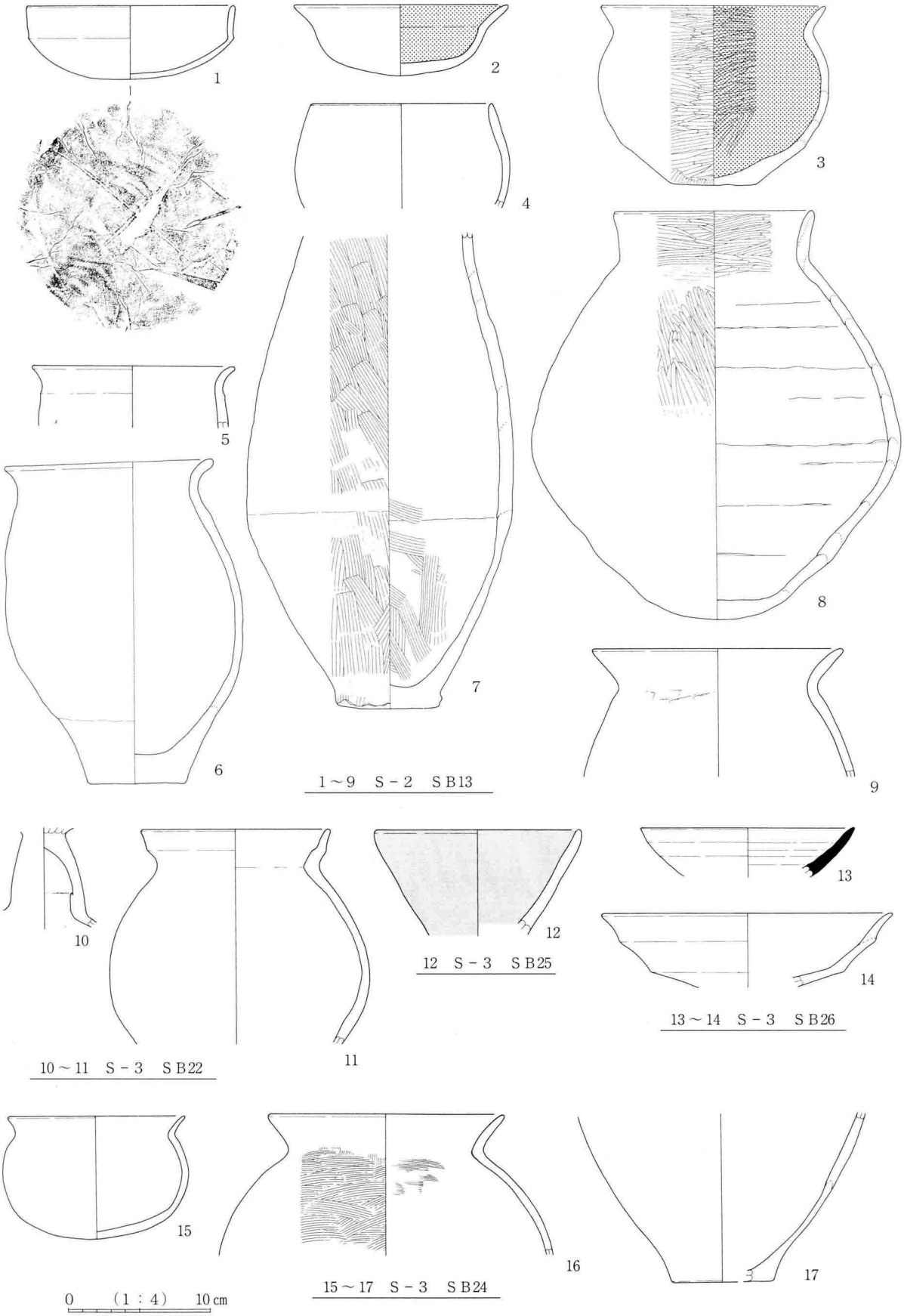


図185　Ⅶ区１次面出土土器実測図④（S＝1／4）

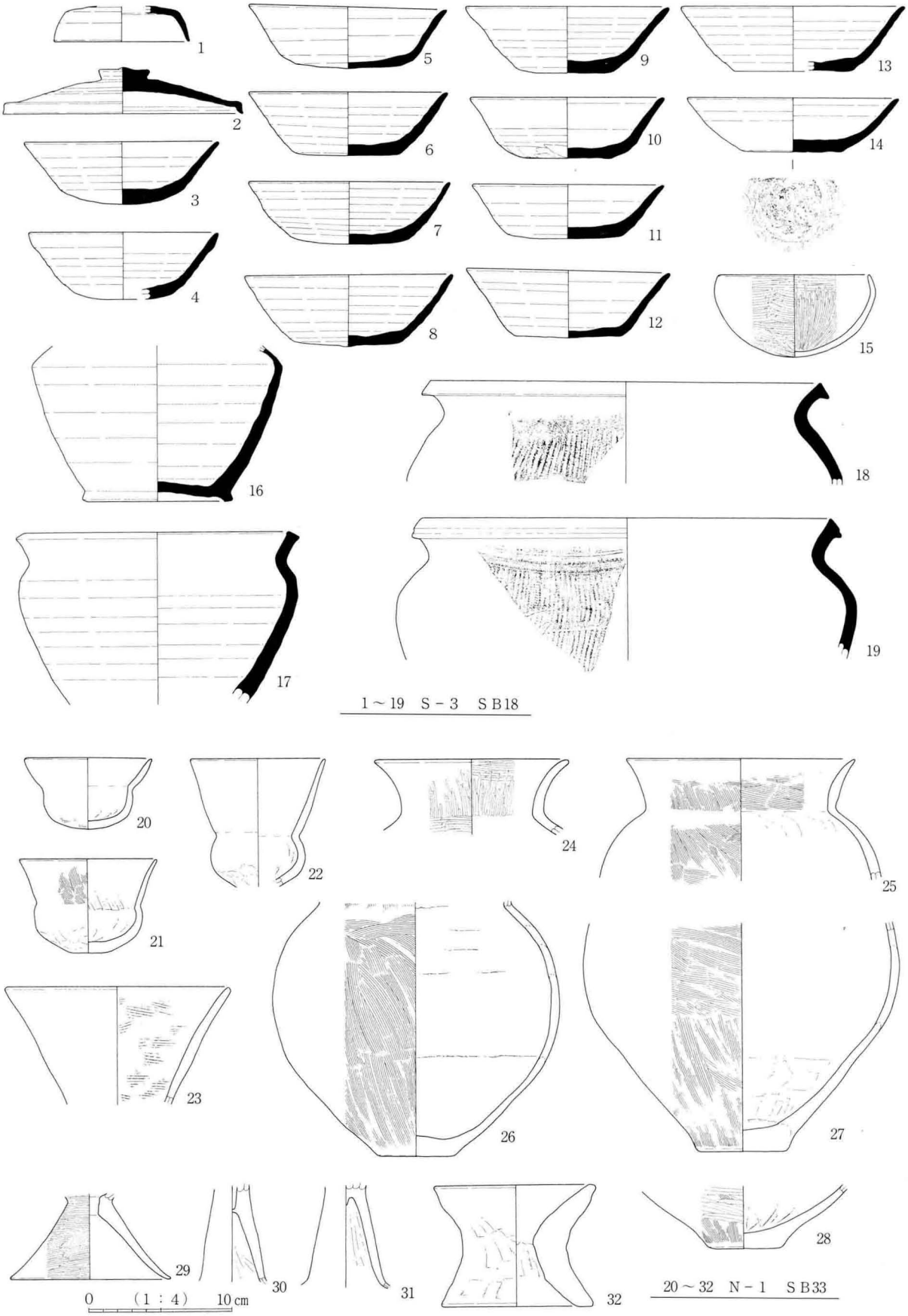


図186　Ⅶ区１次面出土土器実測図⑤（S＝1／4）

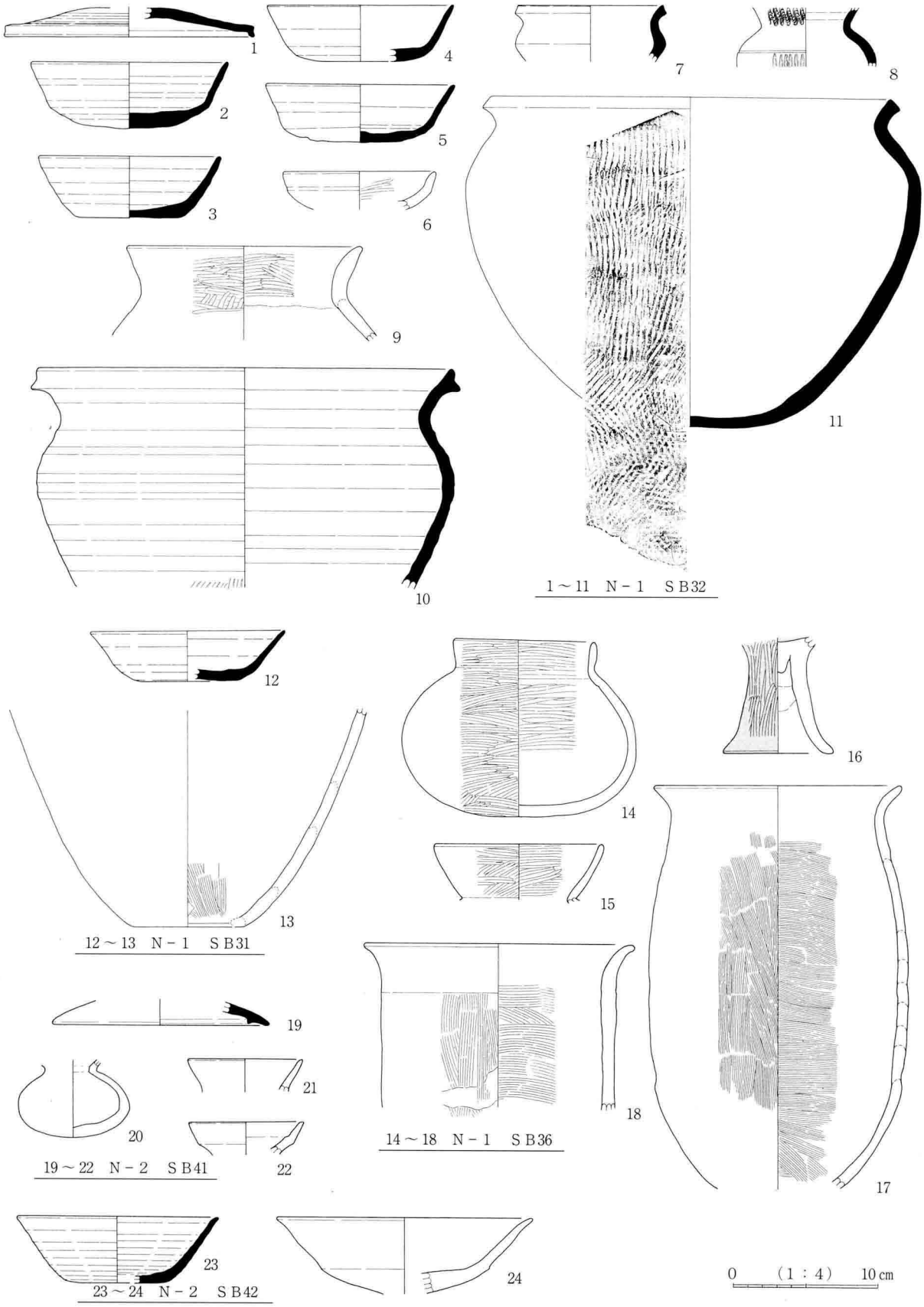


図187　Ⅶ区１次面出土土器実測図⑥（S＝1／4）

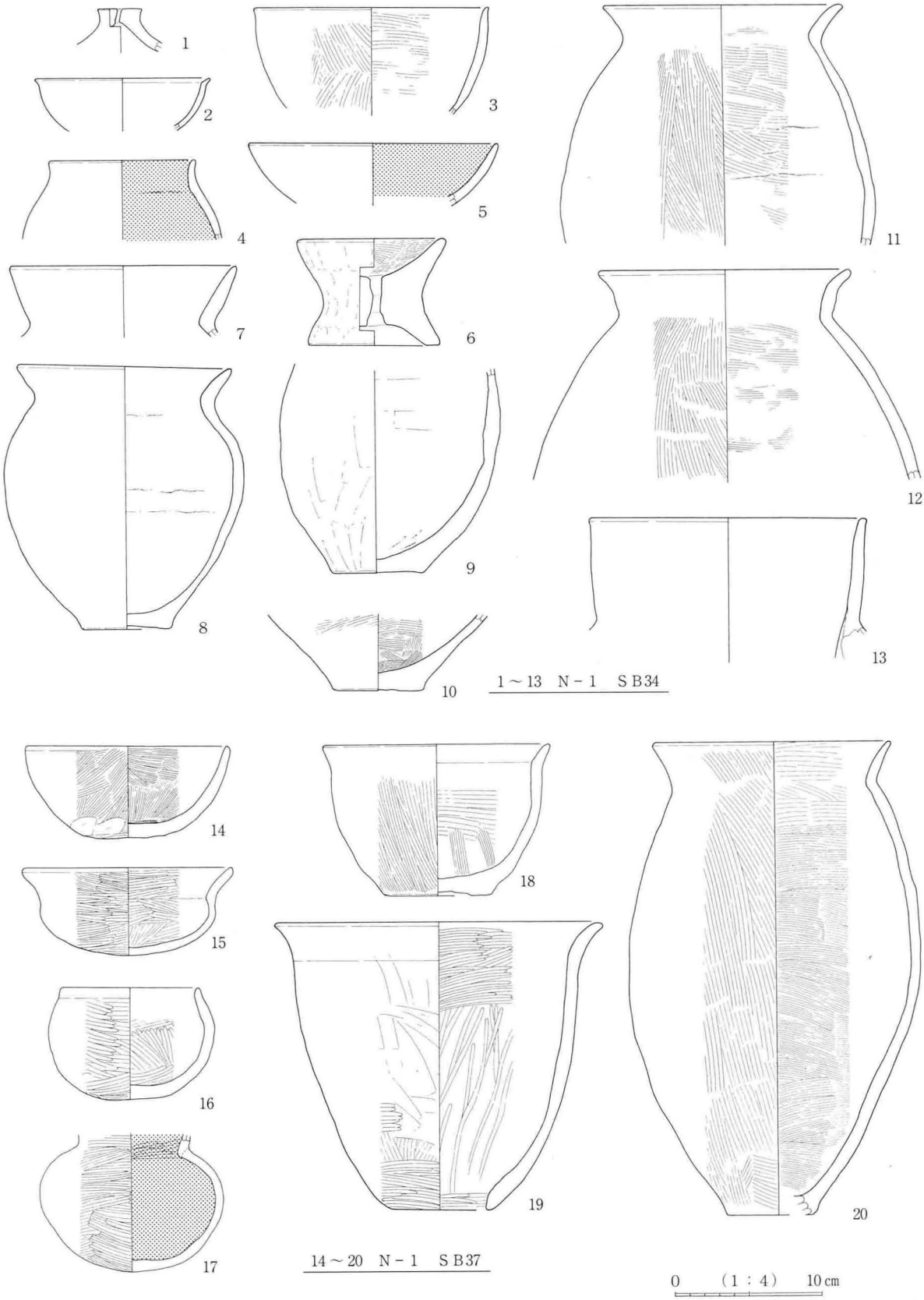


図188　Ⅶ区１次面出土土器実測図⑦（S＝1／4）

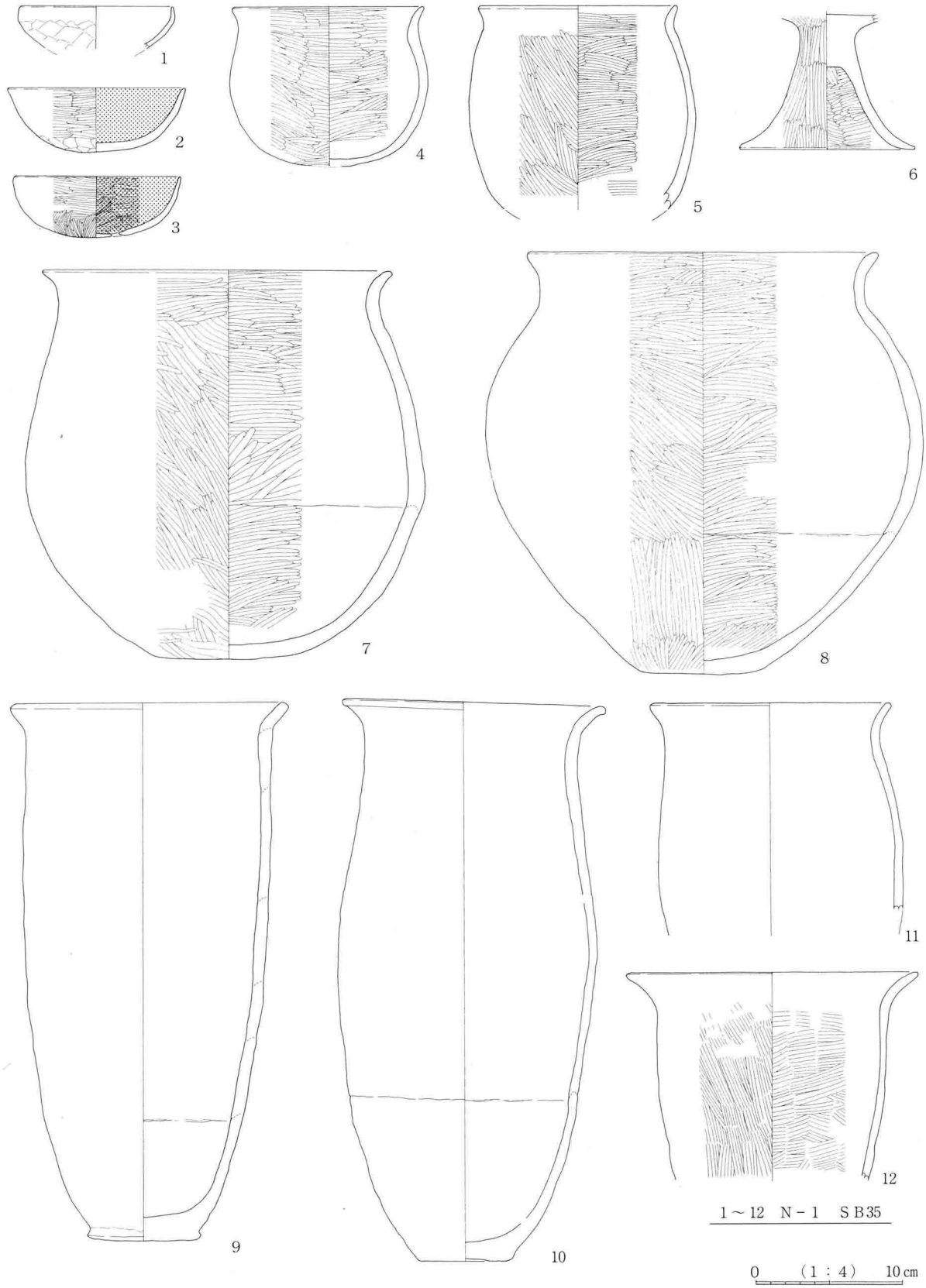


図189　Ⅶ区１次面出土土器実測図⑧（S＝1／4）

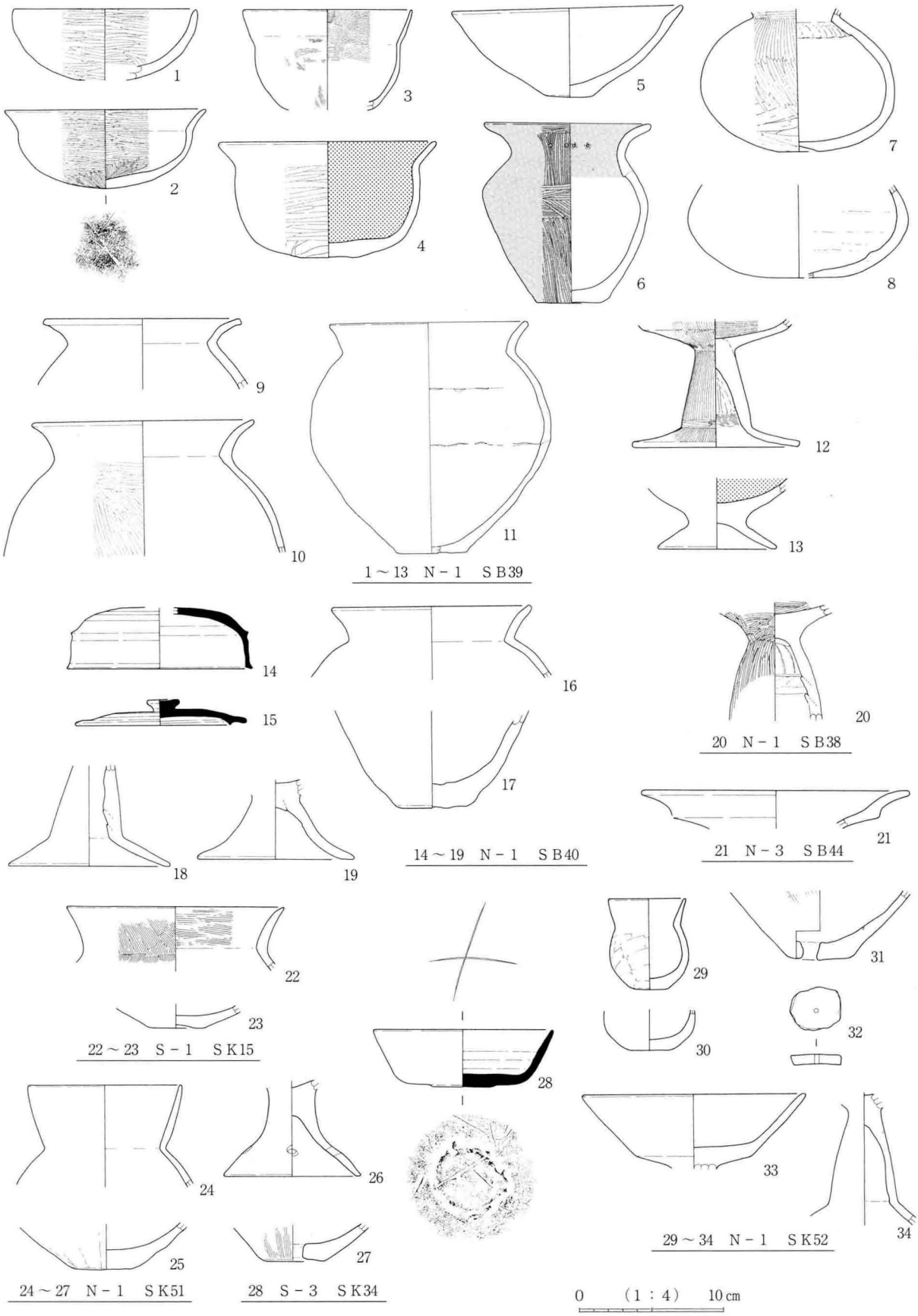


図190　Ⅶ区１次面出土土器実測図⑨（S＝1／4）

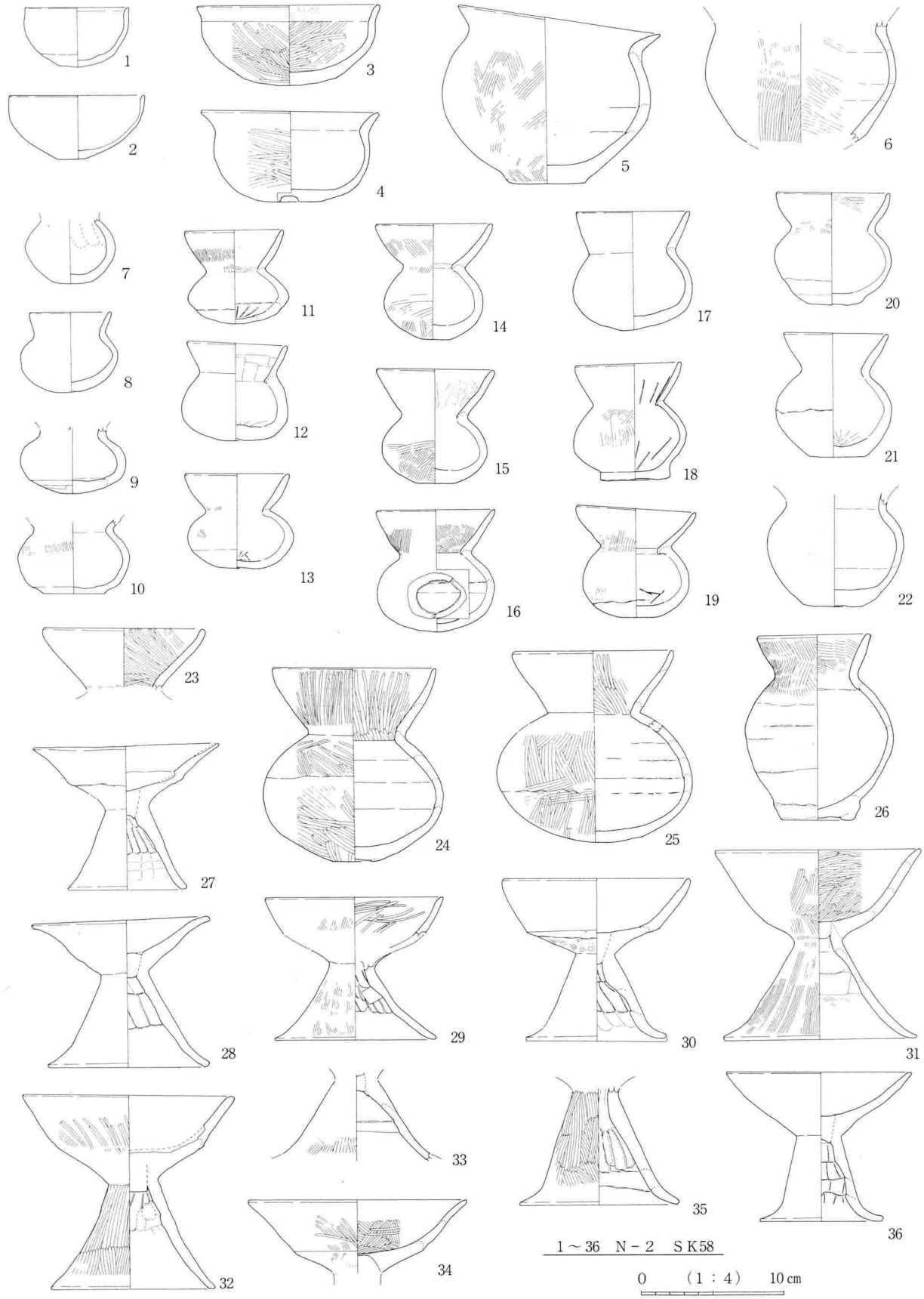


図191　Ⅶ区１次面出土土器実測図⑩（S＝1／4）

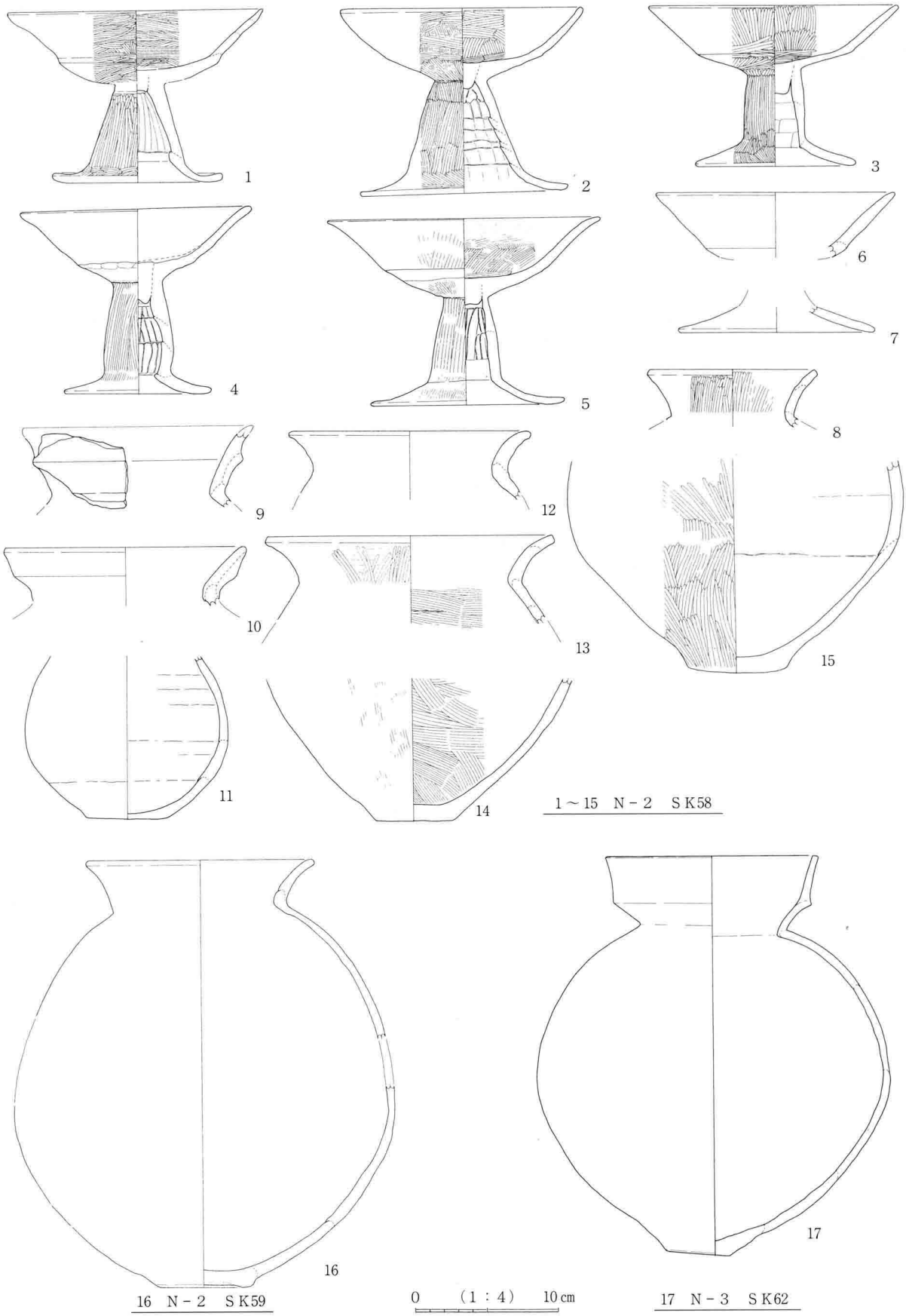


図192　Ⅶ区１次面出土土器実測図⑪（S＝1／4）

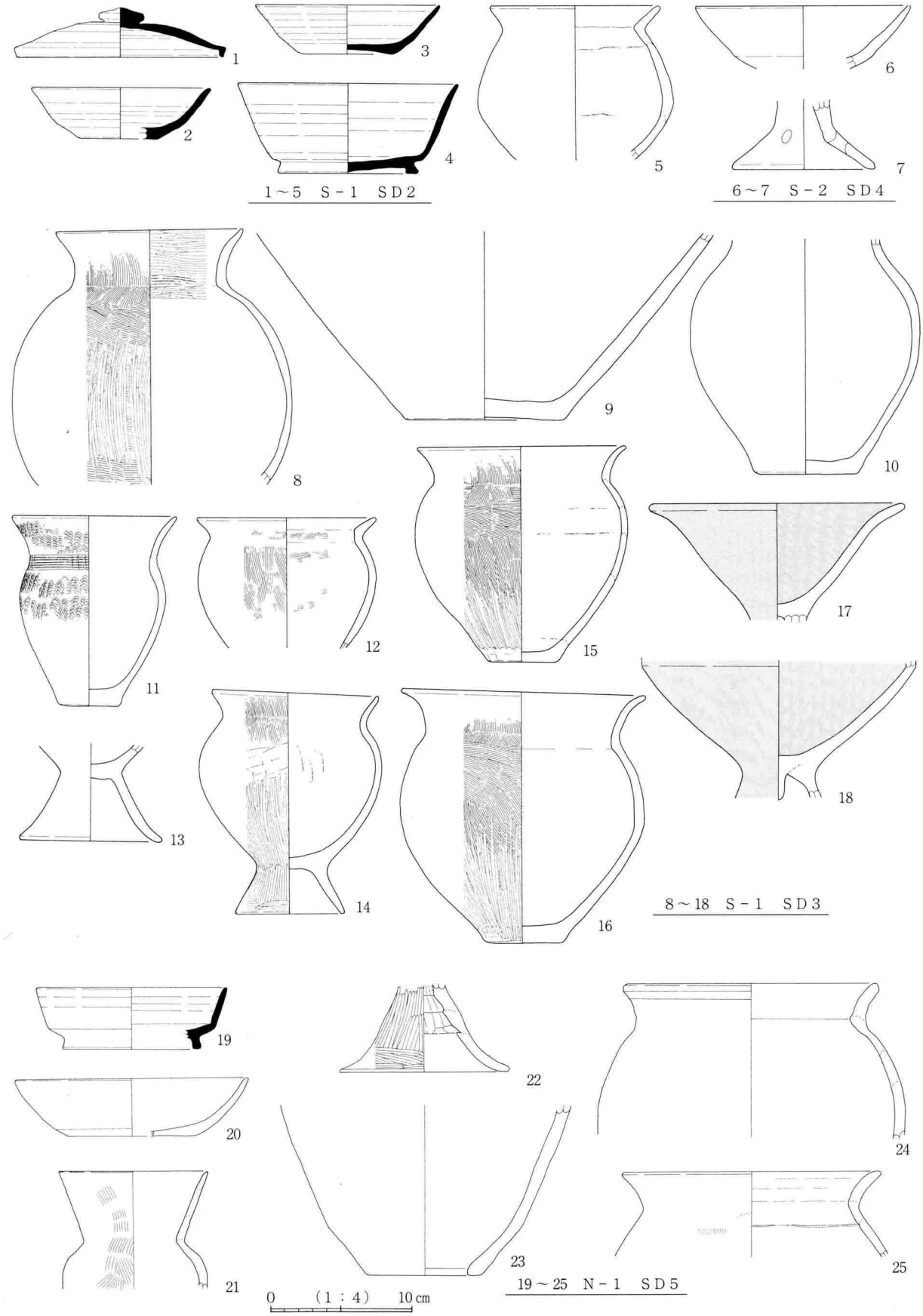


図193　Ⅶ区１次面出土土器実測図⑫（S＝1／4）

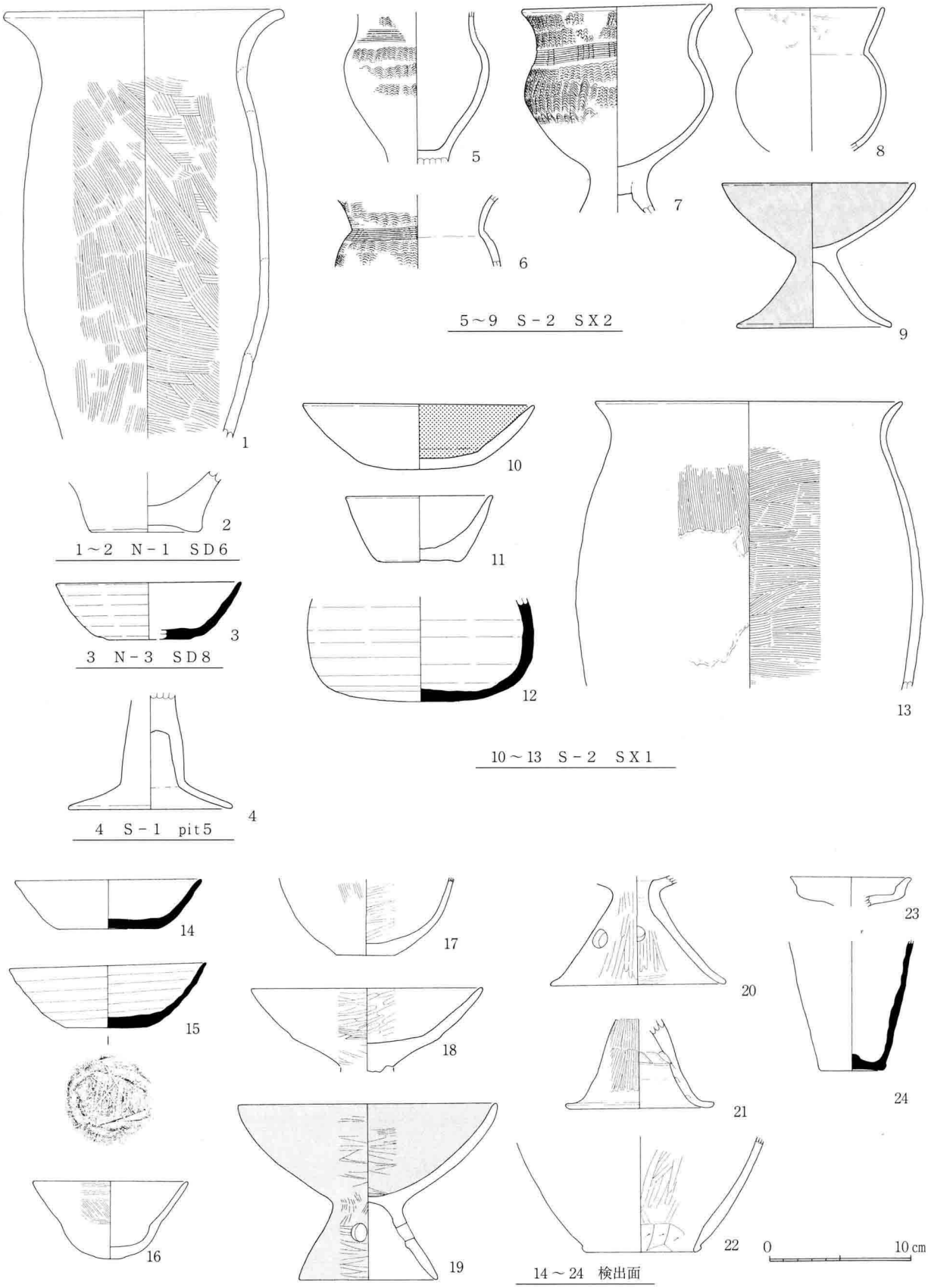


図194　Ⅶ区１次面出土土器実測図⑬（S＝1／4）

2　2次面の調査

弥生時代後期から古墳時代中期の遺構が主体をなす。また、1次面遺構下に存在する古墳時代後期から奈良時代遺構の調査も実施している。

古墳時代中期　N-3区で竪穴住居が検出された。N-1・2区1次面で検出された竪穴住居・土坑を含め集落を形成するとみられる。S区ではS-2地点でN-3地点SB36の一部が検出されたのみで、基本的に遺構の分布はみられない。また、N-3地点SB38以東に該期遺構は存在せず、集落域の南東端部に該当する可能性が考えられる。なお、篠ノ井塩崎地区ではこれまで該期集落遺跡は未検出で、新出資料となる。N-3区で検出されたSB36・38は炉を有し、N-1区1次面SB34・36・37ではカマドが作り付けられ、Ⅶ区内では相対的に西側が新しい傾向が認められる。カマドは北西方向を向き、住居主軸方向は後続する時期に合致し、注意される。N-3区SB35では臼玉の未製品・薄片が出土している。Ⅷ区を含め調査区内からは多量の臼玉が出土しているが、未製品が確認されたのはSB35のみで注目される。

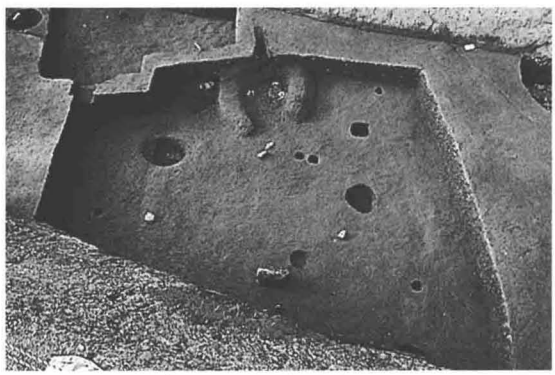


写真165　N-2地点SB30

古墳時代前期　S-2・S-1・N-1地点より竪穴住居が、1次面S-1・S-2地点より溝が検出されている。一部遺構の重複がみられるが、密集度は低く、散発的に各地区に分布している。本区以東ではⅥ区で土器集中や土坑・周溝墓が認められるが、確実な竪穴住居としてはS-2地点SB14が東端に当たり、新たに形成された集落域であると把握される。

写真166　S-1地点SH01

写真167　N-2地点全景（西から）

写真168　S-2地点全景（西から）

写真169　N-3地点全景（西から）

弥生時代後期　各地区で竪穴住居・土坑・溝が検出されている。S-１地点SD01以西ではⅧ区を含めて該期遺構はみられなくなる。また、S-２地点SD03以東（Ⅵ区西側）では周溝墓群が検出されて住居群は希薄となり、この間の限定された範囲に営まれた集落域と考えられる。住居間の重複はほとんどみられず、N-２・S-３地点を中心とした比較的狭い範囲にまとまって分布している。S-３地点SB18・S-１地点SB03は比較的規模が大きく、床面上に焼土・炭が顕著に認められた。遺物出土量は全体的に少ないが、S-２地点SB13からは大量の土器が出土している。

地点名	遺構名	時代	重複関係		床面	付属施設	特記事項	備考	遺構図版番号	土器図版番号	写真番号
			先	後	柱穴						
N-1	SB23	弥生後～古墳			貼床 2		床面上で炭検出		195		174
N-1	SK43	古墳							196	212	
S-1	SH01	奈良か			3	溝状の掘り込み内より柱穴　大壁住居？	溝は１次面SB11掘り方の可能性あり	P６より土器出土 N区では検出されなかった	196	212	166
S-1	Pit03	古墳							196	213	
N-1	SB28	弥生後期か		SB26	貼床 1	炉 焼土土坑		１次面SB34・39下で検出され、ピットはそれらに伴う	197		175
N-1	SB26	古墳か	SB28 SB27		脆弱 なし		覆土中より臼玉４点出土	SB28上に重複することを確認	197 198		
N-1	SK46	古墳～奈良		SK51					197	213	
N-1	SK51	奈良以降	SK46						197	212	
S-1	SB01	古墳	SB02	SD02（1）	貼床 3（柱痕なし）	炉 南東側で壁溝	東壁で焼土、床面上の広範囲で炭検出	焼失家屋ではないが、廃棄時に壁材等を焼いた可能性	197	204	178
S-1	SB02	弥生後期		SB01 SD01	貼床 なし		床面上で土器群出土		197	204	
S-1	SB04	古墳		SK09	貼床 なし		黒色被熱土坑の周囲には炭散布	黒色被熱土坑	197	204	
S-1	SD01	弥生	SB02	SD02（1）				N区は１次面SD02により破壊されたため、検出されず	197	213	
S-1	SK01	古墳			平坦　脆弱				197	212	
N-1	SB25	古墳	SB27		貼床 未検出	カマド残骸か（北壁）	床面直上より臼玉１点出土	焼土に隣接して出土した土師器甕の上で灰を確認	198	209	
N-1	SB27	古墳		SB25	貼床 なし		北壁に炭散布　炭上層より臼玉１点出土		198		
N-1	SK49	古墳							198	212	
S-1	SB03	弥生後期		SB04（1）	脆弱 2?		床面上に炭化材、ピット周辺に炭散布、炭上より土器出土		198	205	177
S-1	SK10	弥生～古墳							198	212	
S-3	SB19	弥生後期	SB21（?）	SB18（1） SE05	貼床 なし		床面点線の西側は１次面SB18の重複よって貼床未確認		198	209	
S-3	SK37	弥生					S-1区SB03に伴う掘り込みの可能性あり。また、東側に隣接して炭の散布がみられ、これもSB03に関連する可能性が考えられる。		198	212	
N-2	SB30	奈良	SB31		貼床 3	カマド（北壁）	S-3地点SB16と同一遺構	鉄鏃・土玉出土	199	209	165
S-3	SB16	奈良	SB18		貼床 1	南壁に出入口ピット	東西壁は不明瞭でひとまわり大きく掘った可能性が高く、状況からはN-3地点SB30と同一と判断される		199		

地点名	遺構名	時代	重複関係		床面	付属施設	特記事項	備考	遺構図版番号	土器図版番号	写真番号
			先	後	柱穴						
N-2	SB33	古墳		SE06	脆弱 なし			住居跡の可能性低い 大型土坑か	199	211	
N-2	SK52	古墳	SB29 SD04						199	213	
N-2	SB32	古墳～奈良			貼床 2		臼玉１点出土		199	211	
S-3	SB17	弥生～古墳	SB18		脆弱 2			西隅部はSB18の調査時に当初検出よりも広がることを確認	199		
S-3	SB18	弥生		SB16・17	貼床 ３以上	炉	床面上に炭散布 西南壁際で焼土検出		199	208	181
N-3	SB36	古墳		SK36-01 SD10	貼床 5	炉	臼玉10点出土 S-２地点SB10と同一遺構	大型土坑により西側を大きく破壊されるが、本来はS-２地点SB10に繋がる形態と考えられる。	200	211	171
S-2	SB12	古墳	(SB15)	SB08・10 SE04	貼床 3	炉	炉周辺に炭散布		200	205	170
S-2	SB08	古墳	SB12	SK17・21 SE04	脆弱 なし	なし	壁際は溝状になる	住居跡の可能性は低く、大型方形土坑の可能性大	200	205	170
S-2	SB15	古墳		(SB12)	脆弱 なし	炉か	SB12の調査後確認されたため、重複は不明		200	205	
S-2	SE04	弥生後 ～古墳	SB08・12	SK21	(未完掘)				200	213	
S-2	SK17	奈良～平安	SB08 SB13		階段状				200	212	
S-2	SB13	弥生後期		SK17	脆弱 なし	なし	ガラス玉１点出土	覆土は土器片とともに焼土・炭を含む	200	206～ 208	179
S-2	Pit22	不明							200	213	
N-3	SX01	弥生			脆弱 なし				201	213	
N-3	SB35	古墳	SB38		貼床 1	臼玉製作に関わるピット（Ｐ３） 間仕切り溝	臼玉２点出土、また、Ｐ３周辺より臼玉未製品出土	臼玉製作工房の可能性が考えられる	201 203	211	172
N-3	SB38	古墳		SB35	貼床 1	炉	床面上より多量の土器出土	調査時番号 SK85	201 203	210	172 173
S-2	SB07	弥生後期			脆弱 なし		覆土中上層で土器出土		201	204	
S-2	SB11	古墳	SB14		脆弱 なし		覆土中層より勾玉出土	土器はSB14重複部分より出土し、SB14との厳密な前後関係は不確定	201	205	
S-2	SB14	古墳		SB11 SB09	貼床 3	炉	北壁に焼土、炉周辺に炭散布 床面上より管玉出土	SB11床面上において検出された	201	209	180
S-2	SB09	古墳後 期以降	SB14		脆弱 なし		中央部に炭散布		201		
S-2	SK26	古墳	SB14					SB14床面・柱穴を掘り込む	201	212	
N-3	SB34	古墳			貼床 1	カマド（北壁）	臼玉６点出土 S区SB05と同一遺構		202	212	176
S-2	SB05	古墳	SB06		貼床 1	床上に朱散布	床面上より臼玉３点出土 N-２地点SB34と同一遺構		202	204	
S-2	SB06	古墳		SB05	硬化面 未検出				202	204	
S-2	SD03	弥生後期					検出は非常に浅い N区では検出されず		202	213	

表18　Ⅶ区２次面主要検出遺構一覧表

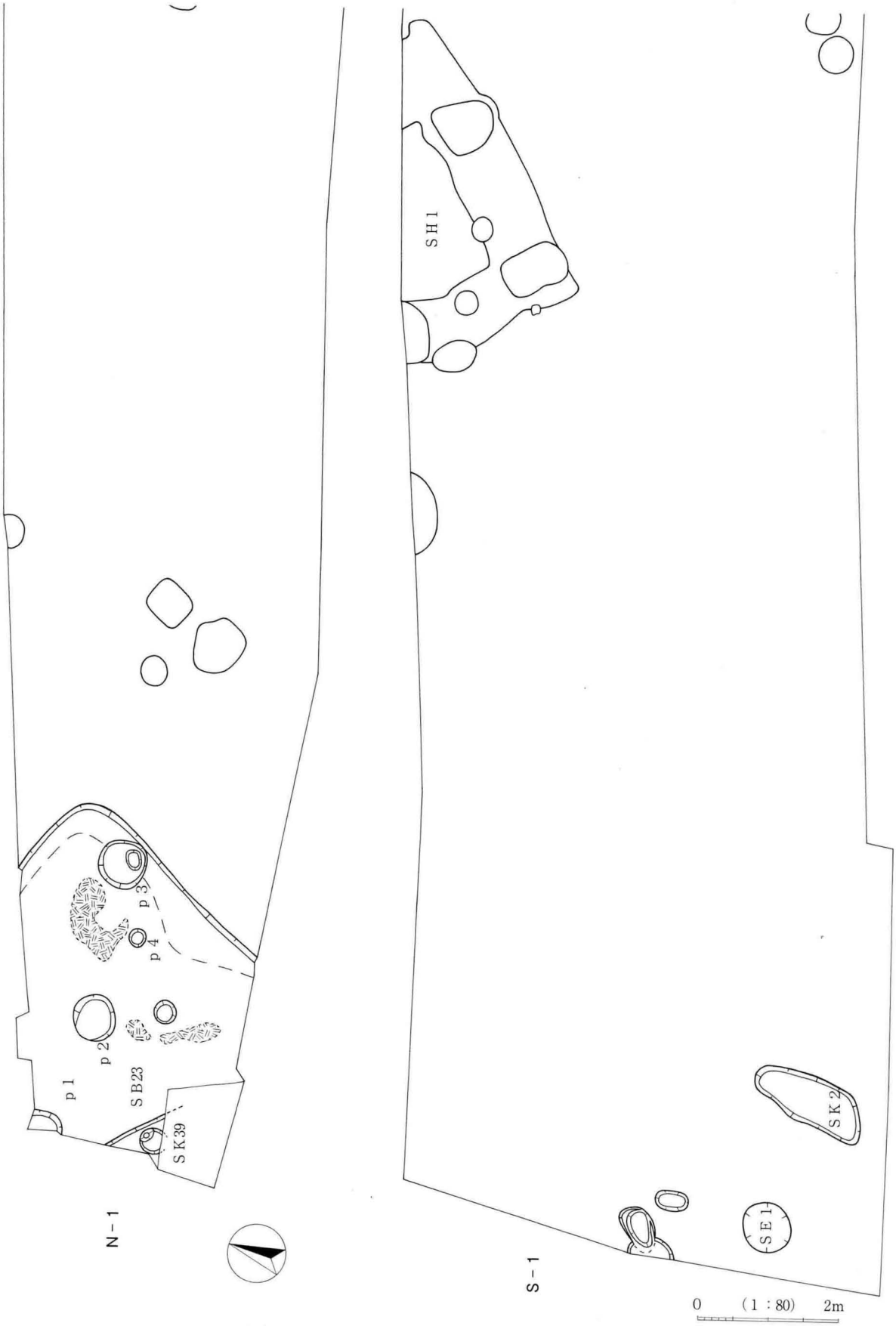


図195　Ⅶ区２次面遺構実測図①（S = 1/80）

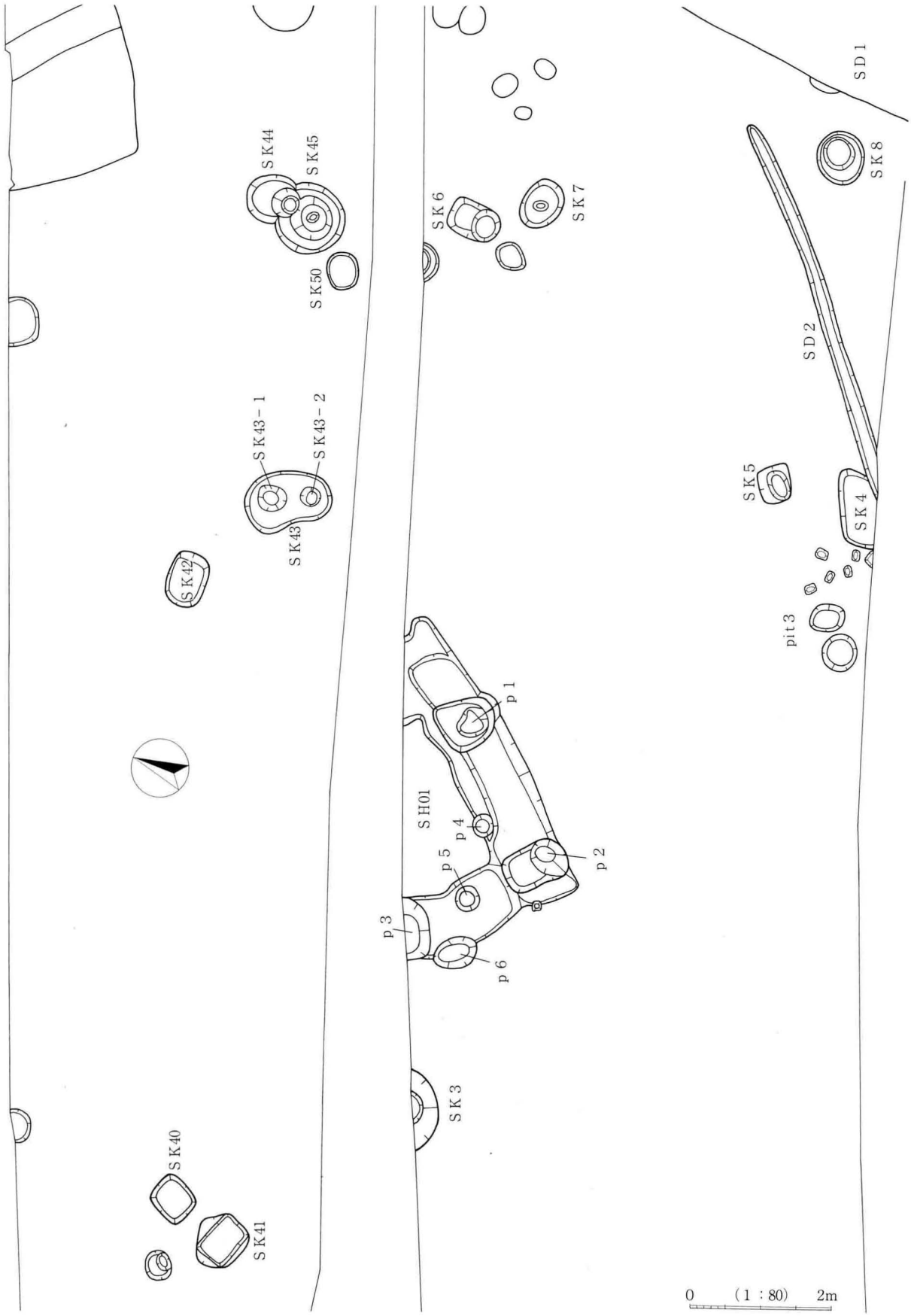


図196　Ⅶ区２次面遺構実測図②（S＝1/80）

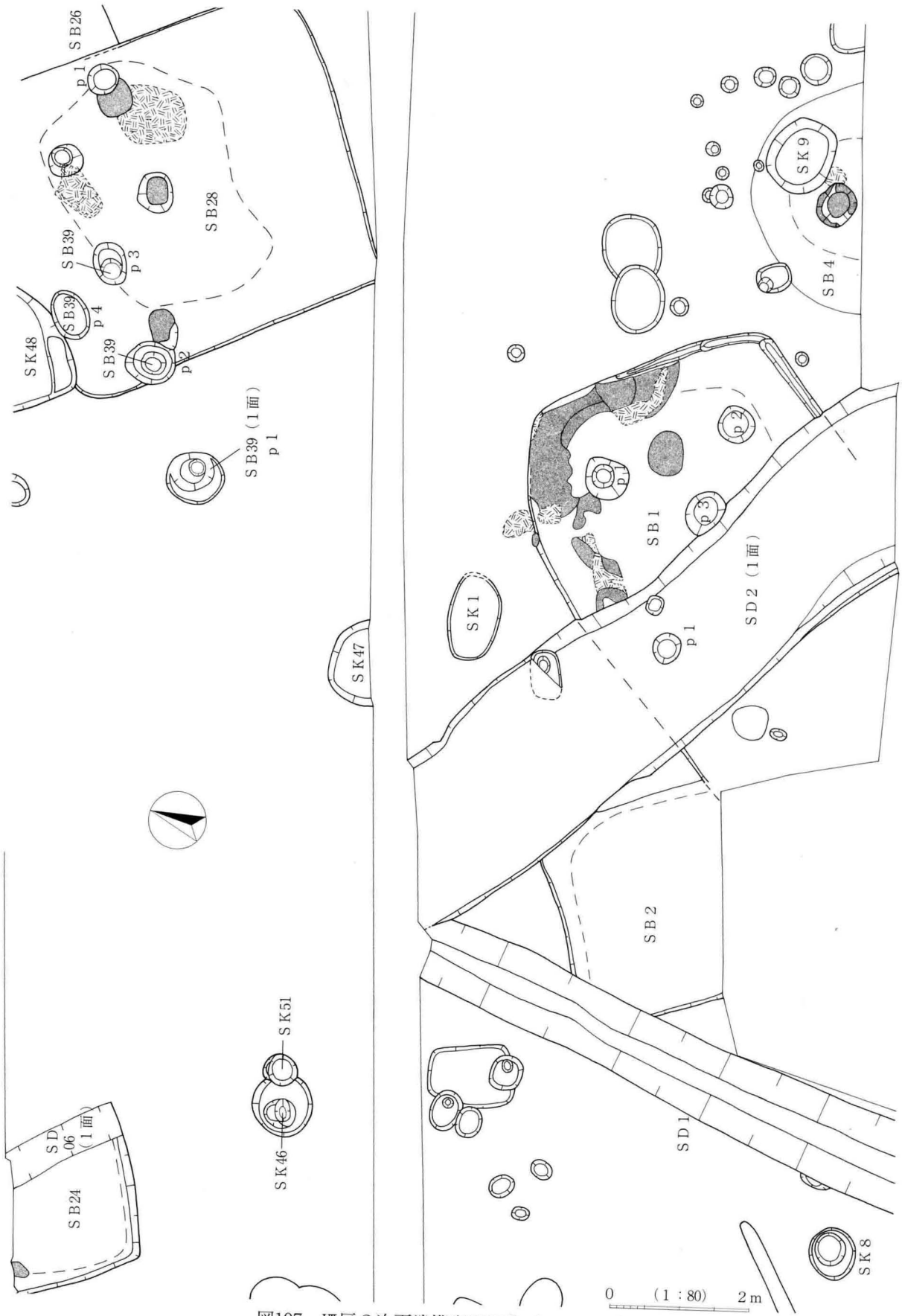


図197　Ⅶ区２次面遺構実測図③（S＝1/80）

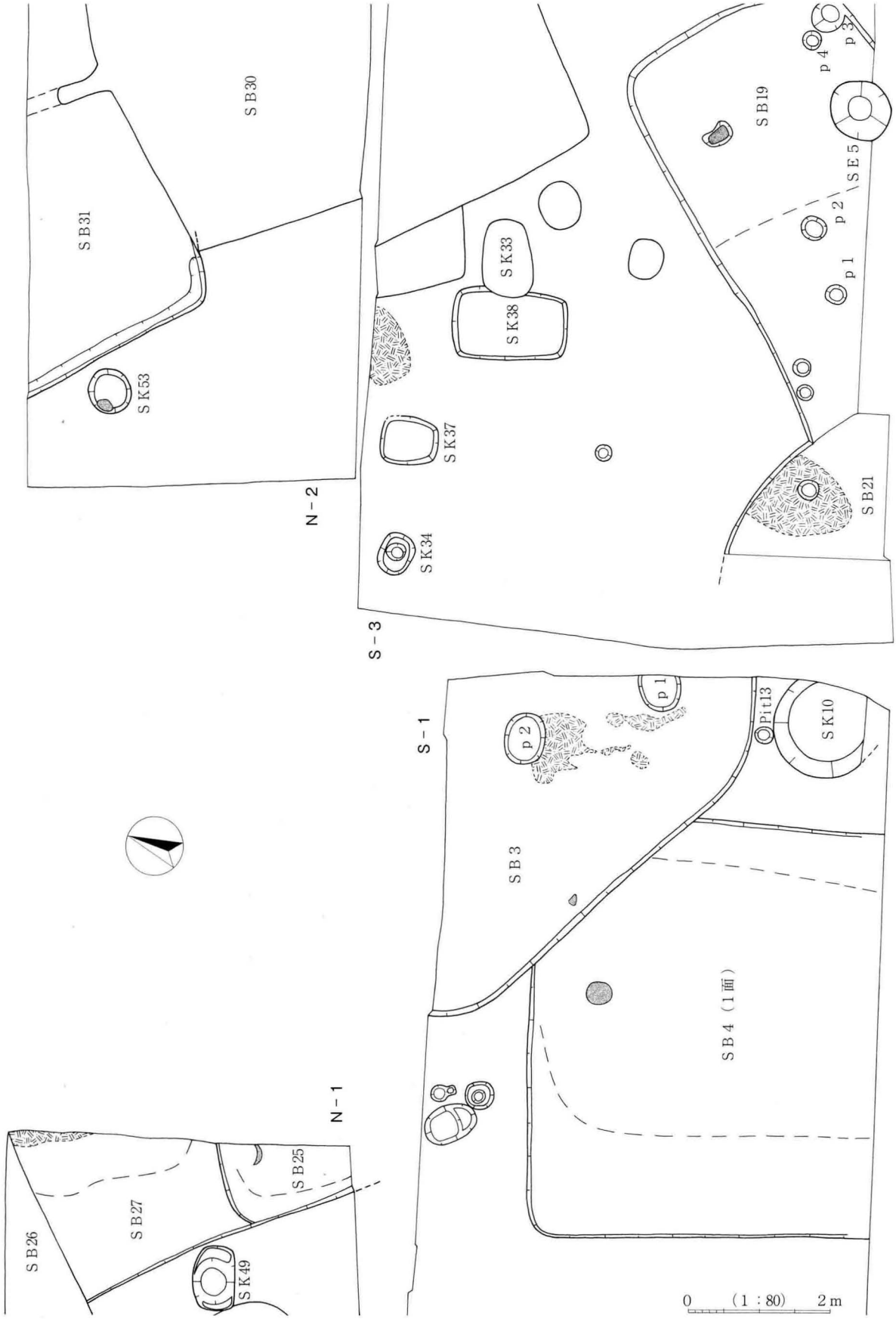


図198　Ⅶ区２次面遺構実測図④（S＝1/80）

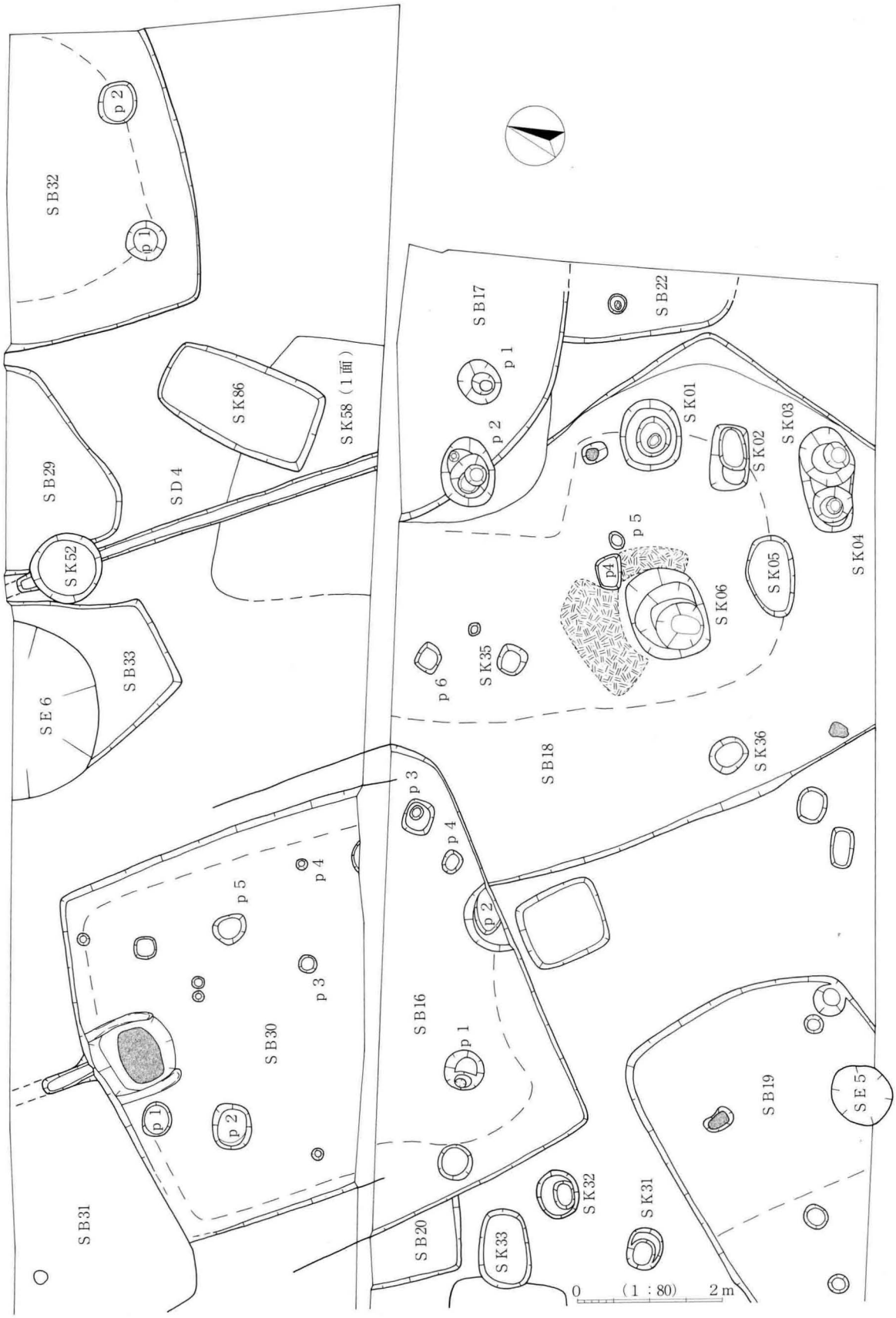


図199　Ⅶ区２次面遺構実測図⑤（S = 1/80）

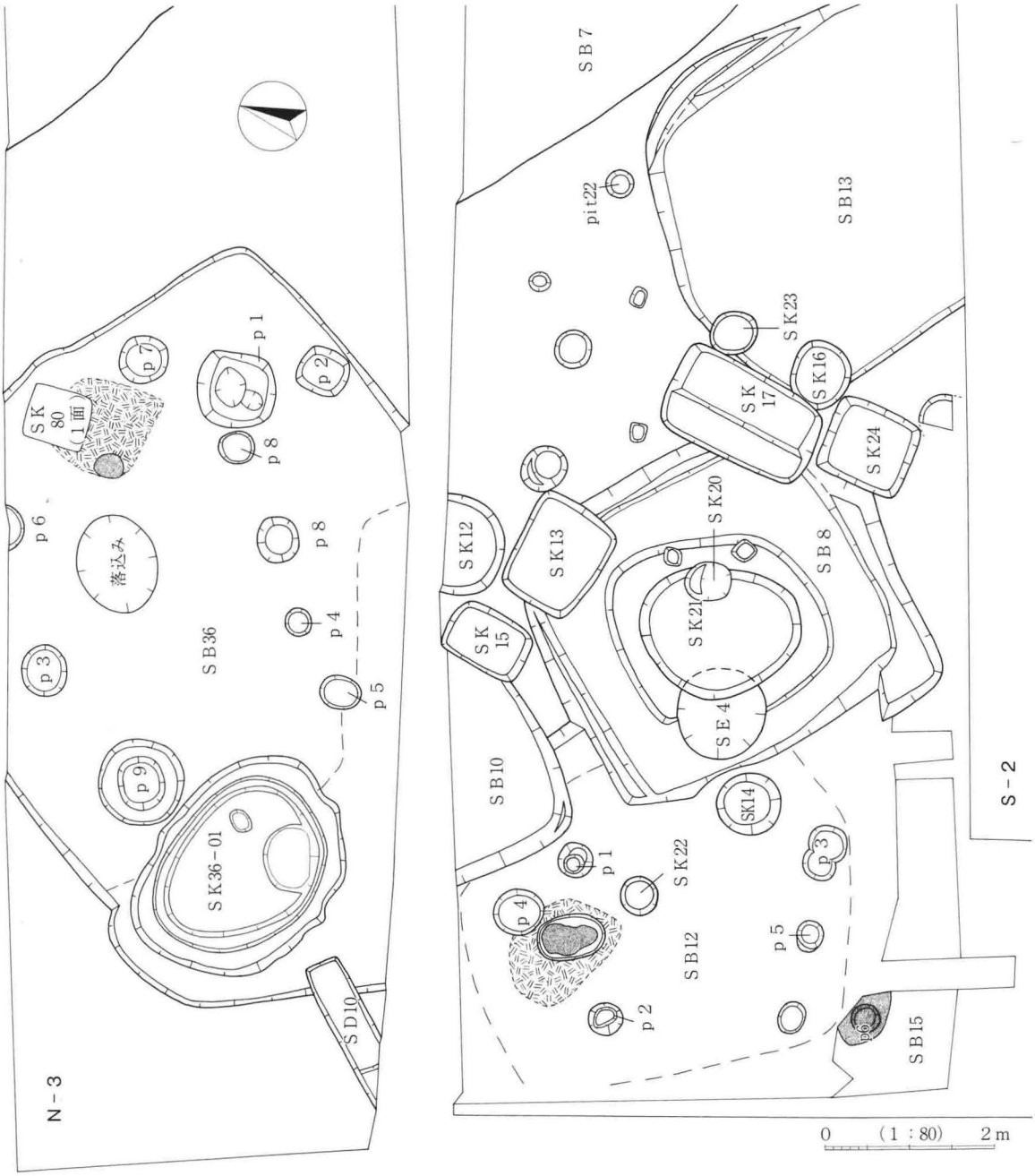


図200　Ⅶ区２次面遺構実測図⑥（S＝1/80）

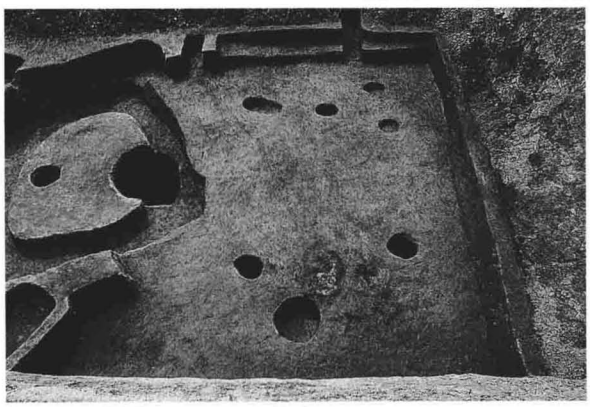


写真170　S－２地点ＳＢ12・ＳＢ08

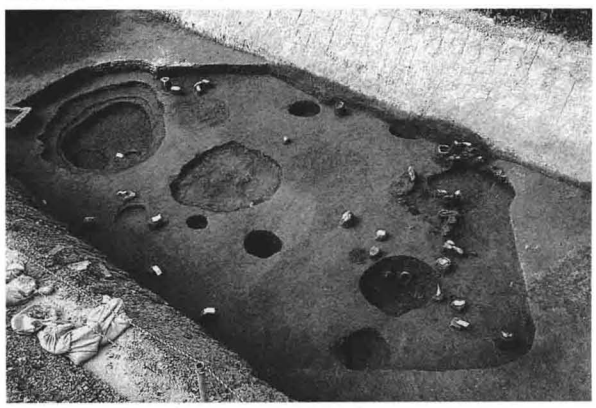


写真171　N－３地点ＳＢ36

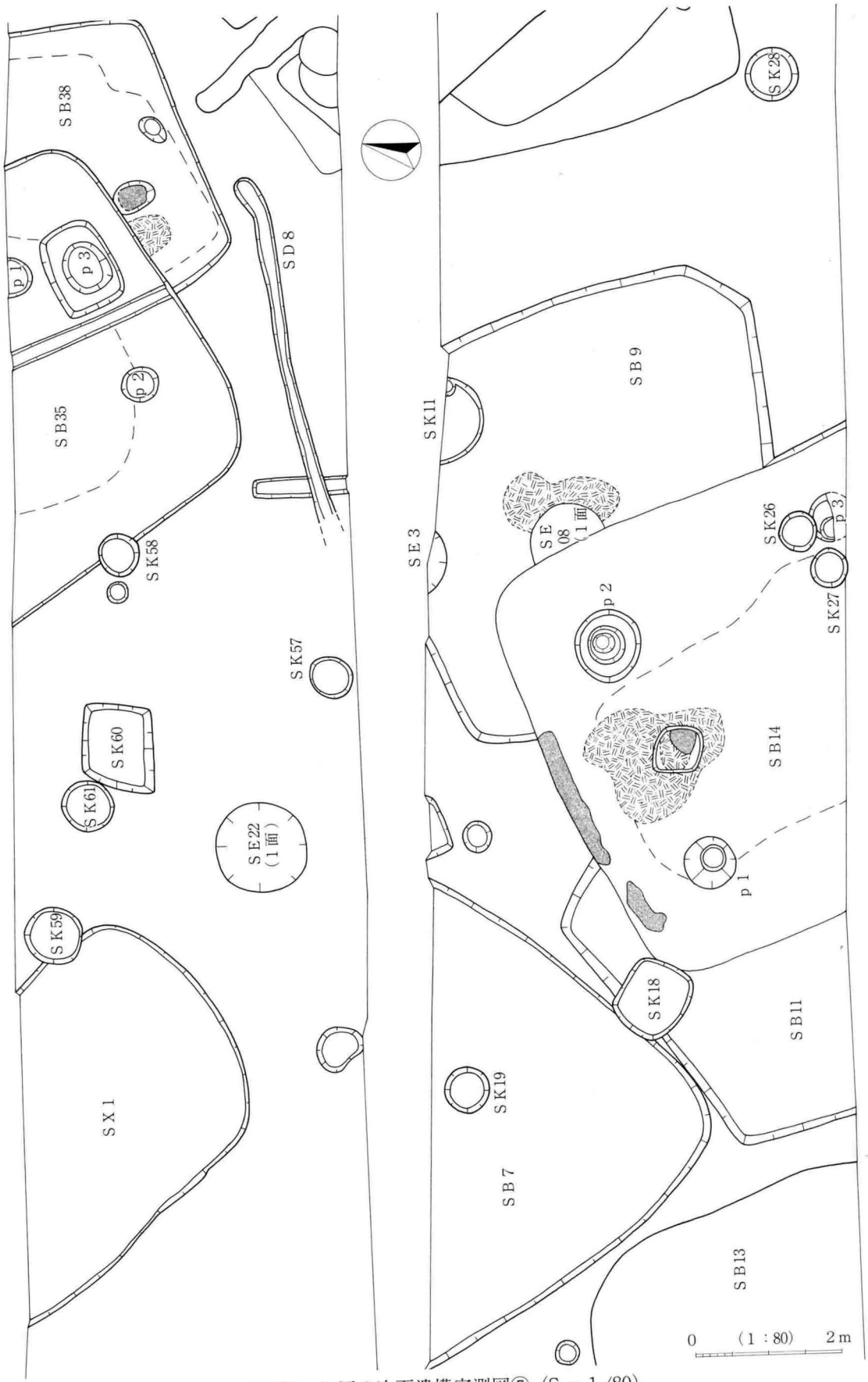


図201　Ⅶ区２次面遺構実測図⑦（S＝1/80）

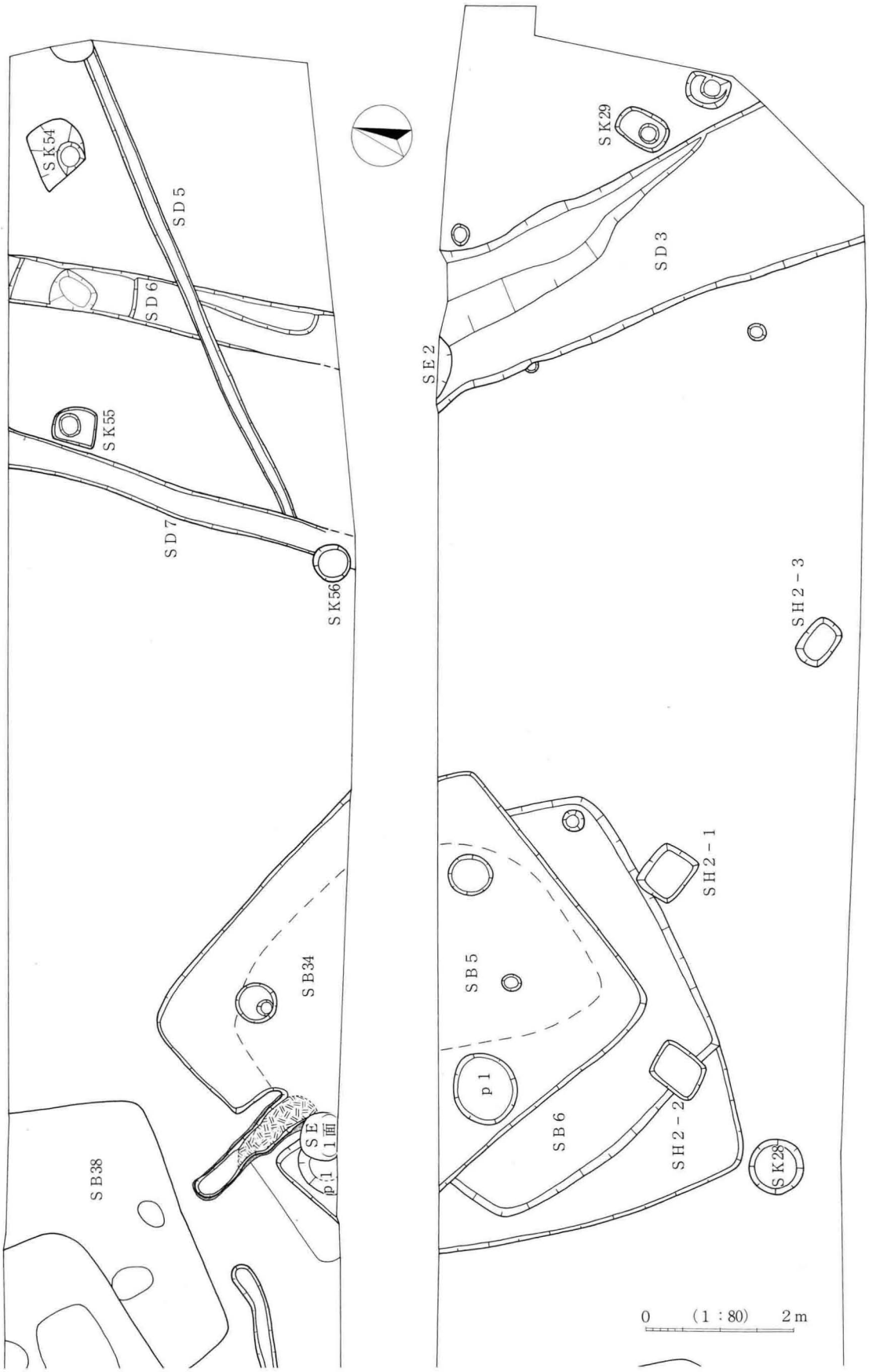


図202　Ⅶ区２次面遺構実測図⑧（S = 1/80）

N－2地点 SB35・38　SB35は北側約⅓が調査区外となるが、一辺約5.1mを測る方形の竪穴住居である。中央部に貼床が認められる。柱穴はＰ１のみでＰ２が柱穴になるかどうかは定かでない。ほぼ中央に間仕切り溝かと考えられる浅い溝が確認されている。

本住居からは臼玉の未成品が出土している。Ｐ３上面を含む周辺の床面上（右図のトーン部）より出土している。Ｐ３はいわゆる工作用ピットの可能性を考慮して掘り下げたが、剥片などは全く出土しなかった。砥石や工具等の出土も認めらない。臼玉製作工房とするには不十分であるが、本住居からのみ未製品が確認されていることは重要である。Ⅶ・Ⅷ区を中心に多量に出土した臼玉の製作に本住居が関わったことは確実である。

SB38は一辺約3.7mを測る方形の竪穴住居である。北側で明らかにSB35に掘り込まれている。床面は貼床で炉が確認されている。床面上より良好な状態で土器群が出土している。甕などの残存がよいことは該期他住居出土土器群との違いが指摘でき、注意される点であろう。

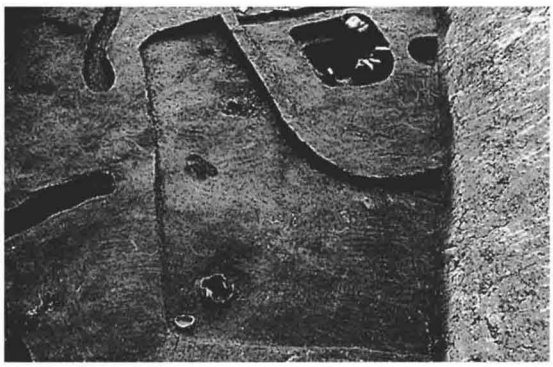


写真172　ＳＢ35・38

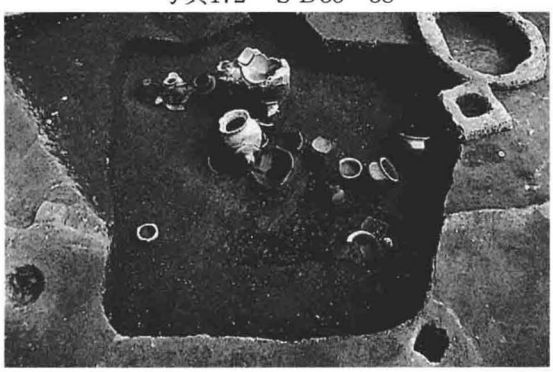


写真173　ＳＢ38遺物出土状況

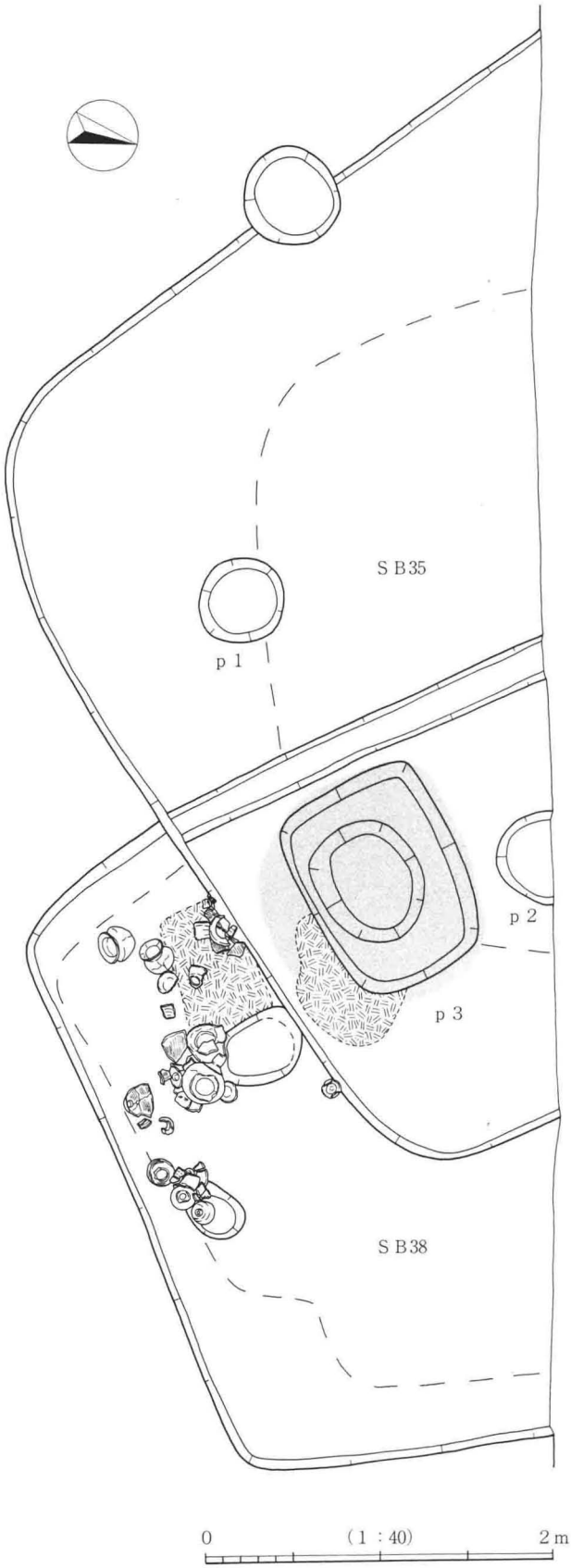


図203　ＳＢ35・38実測図（S＝1/40）

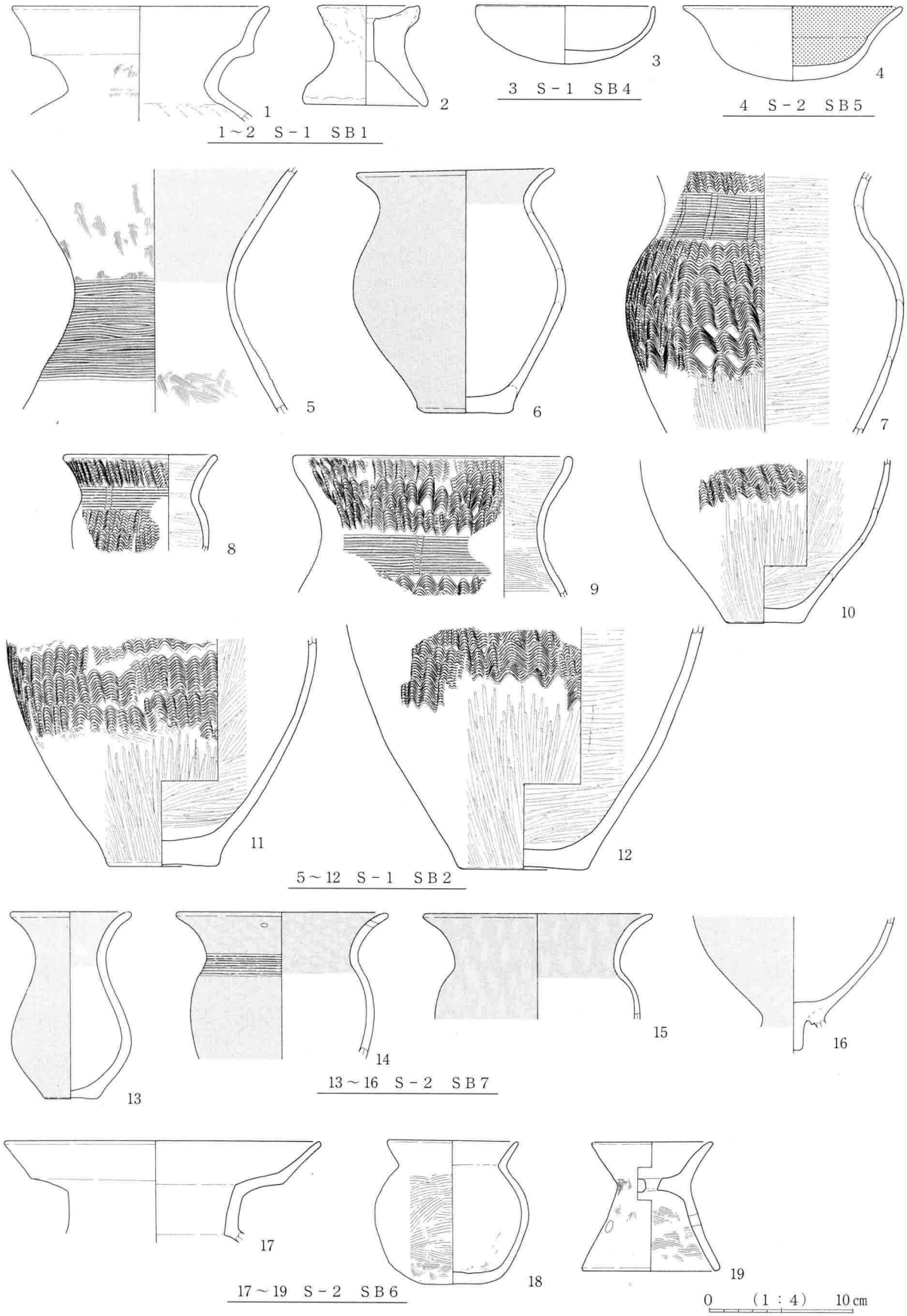


図204　Ⅶ区２次面出土土器実測図①（S＝1／4）

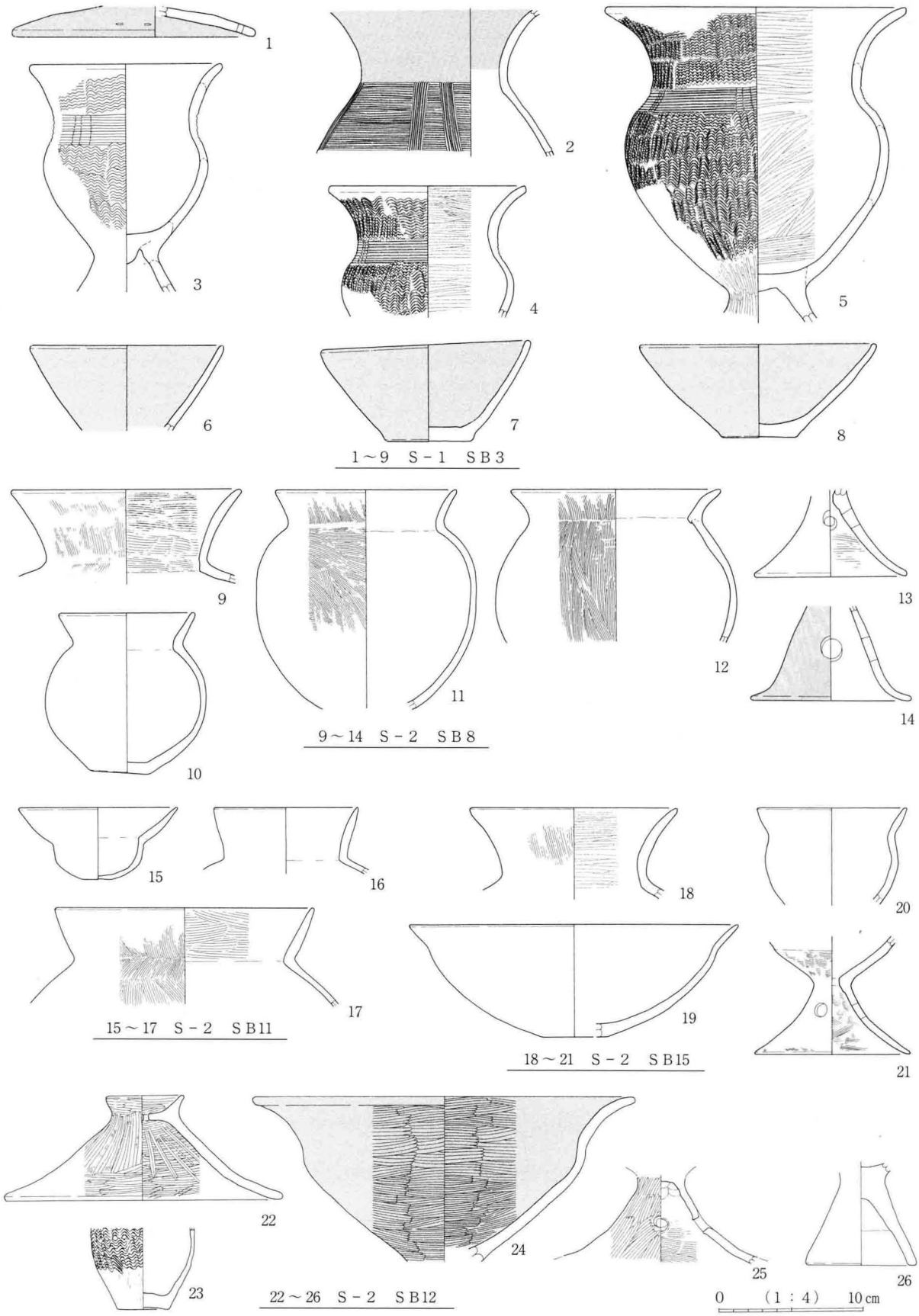


図205　Ⅶ区２次面出土土器実測図②（S＝1／4）

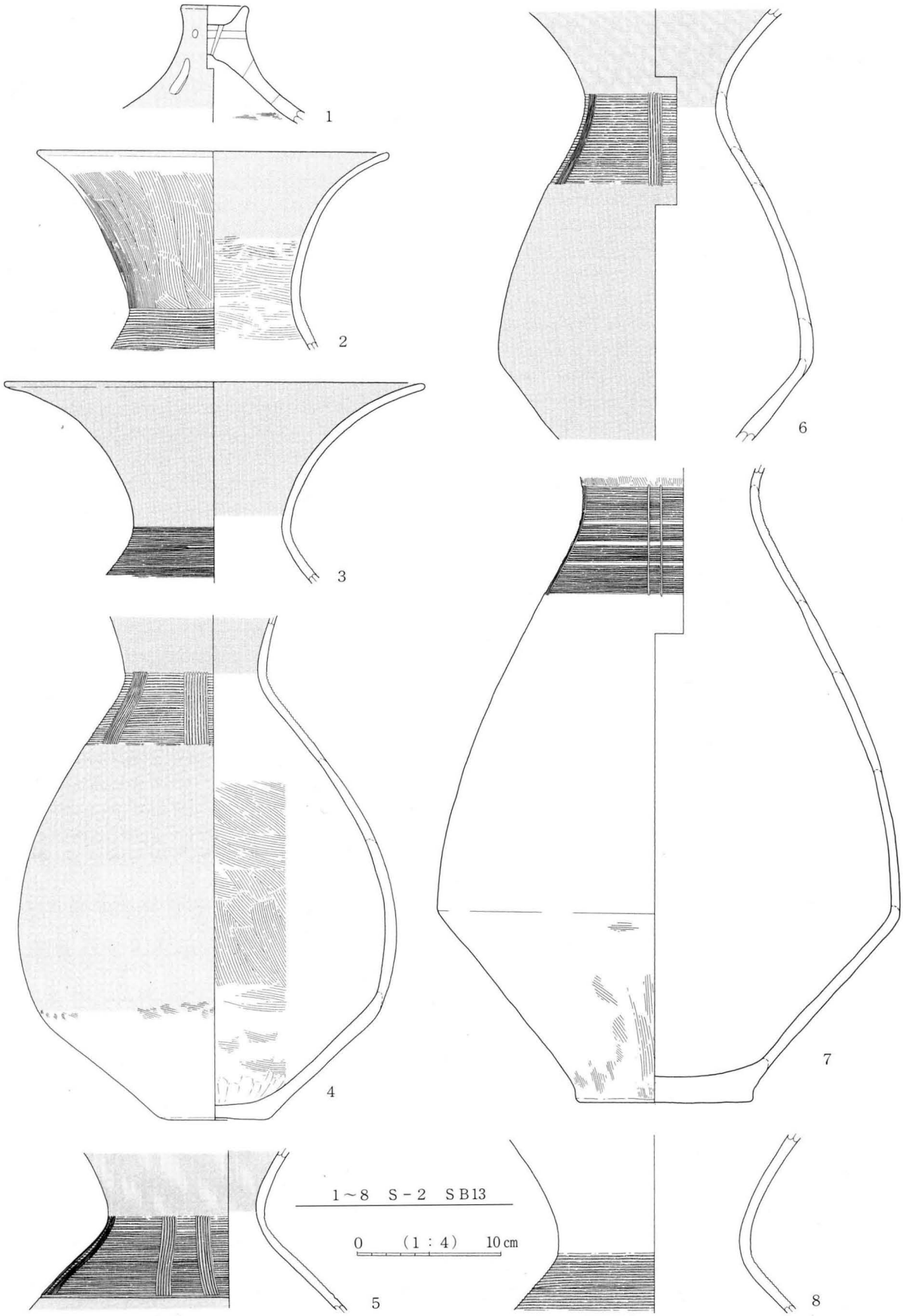


図206　Ⅶ区２次面出土土器実測図③（S＝1／4）

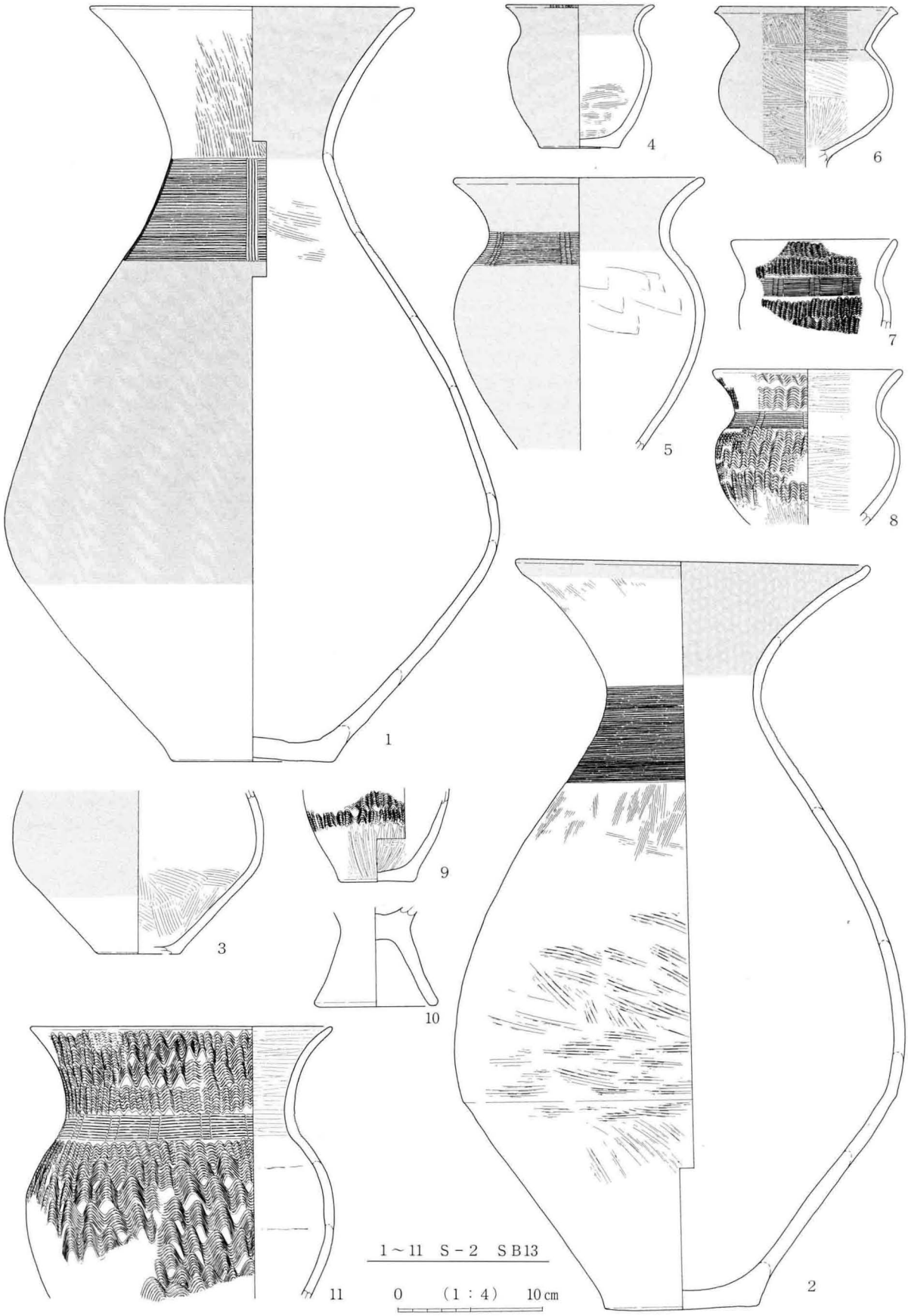


図207　Ⅶ区２次面出土土器実測図④（S＝1／4）

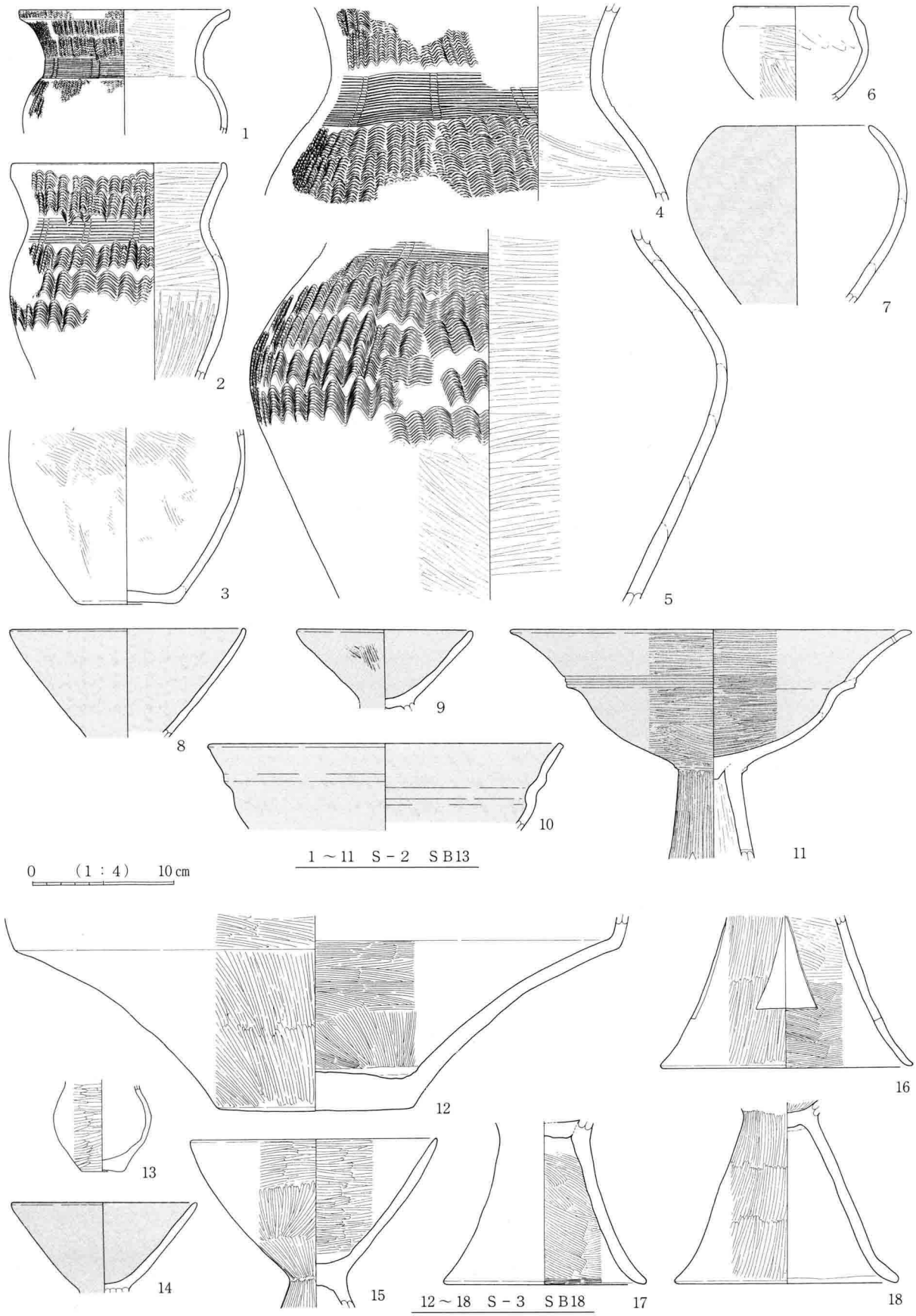


図208　Ⅶ区２次面出土土器実測図⑤（S＝1／4）

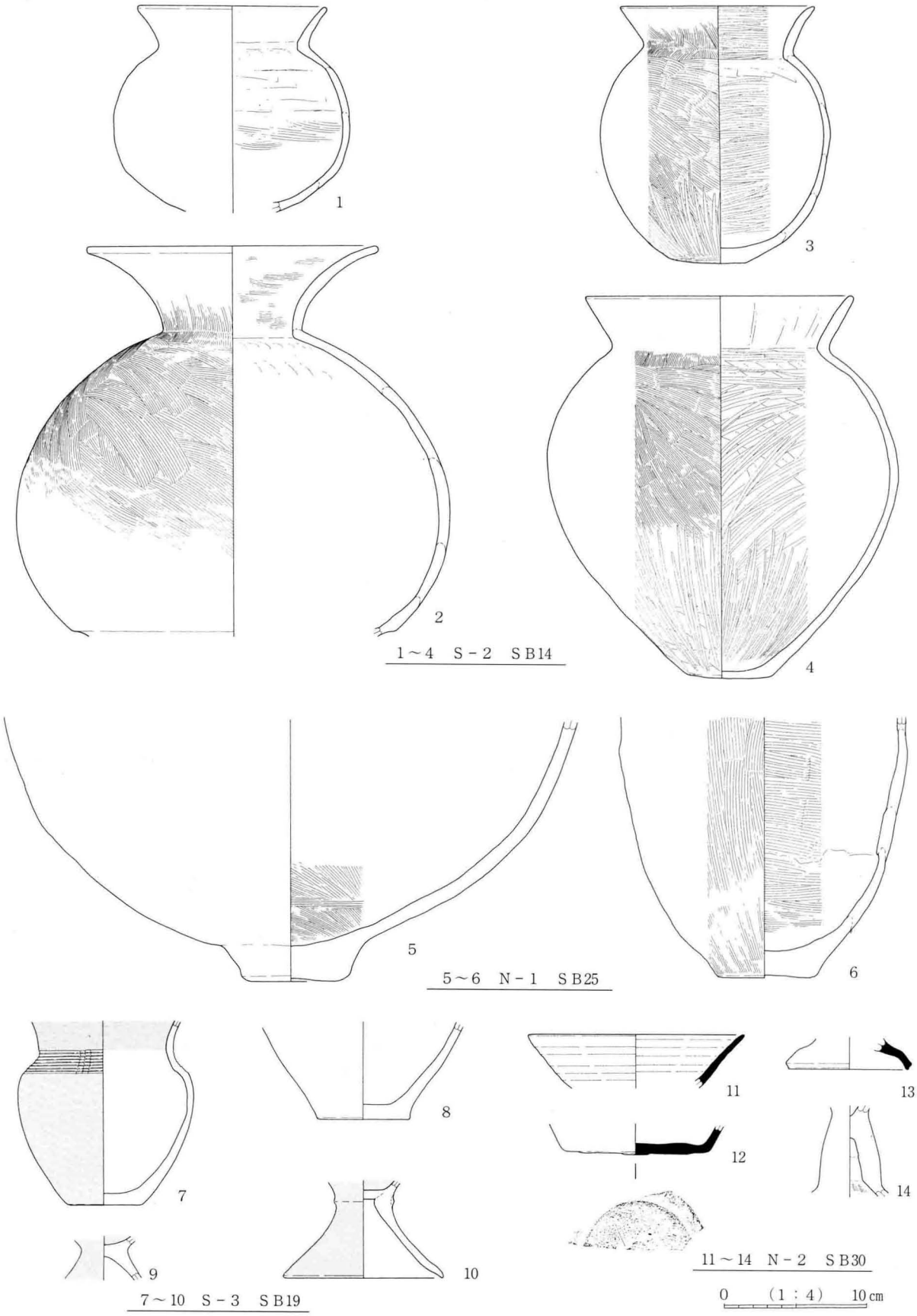


図209　Ⅶ区２次面出土土器実測図⑥（S＝1／4）

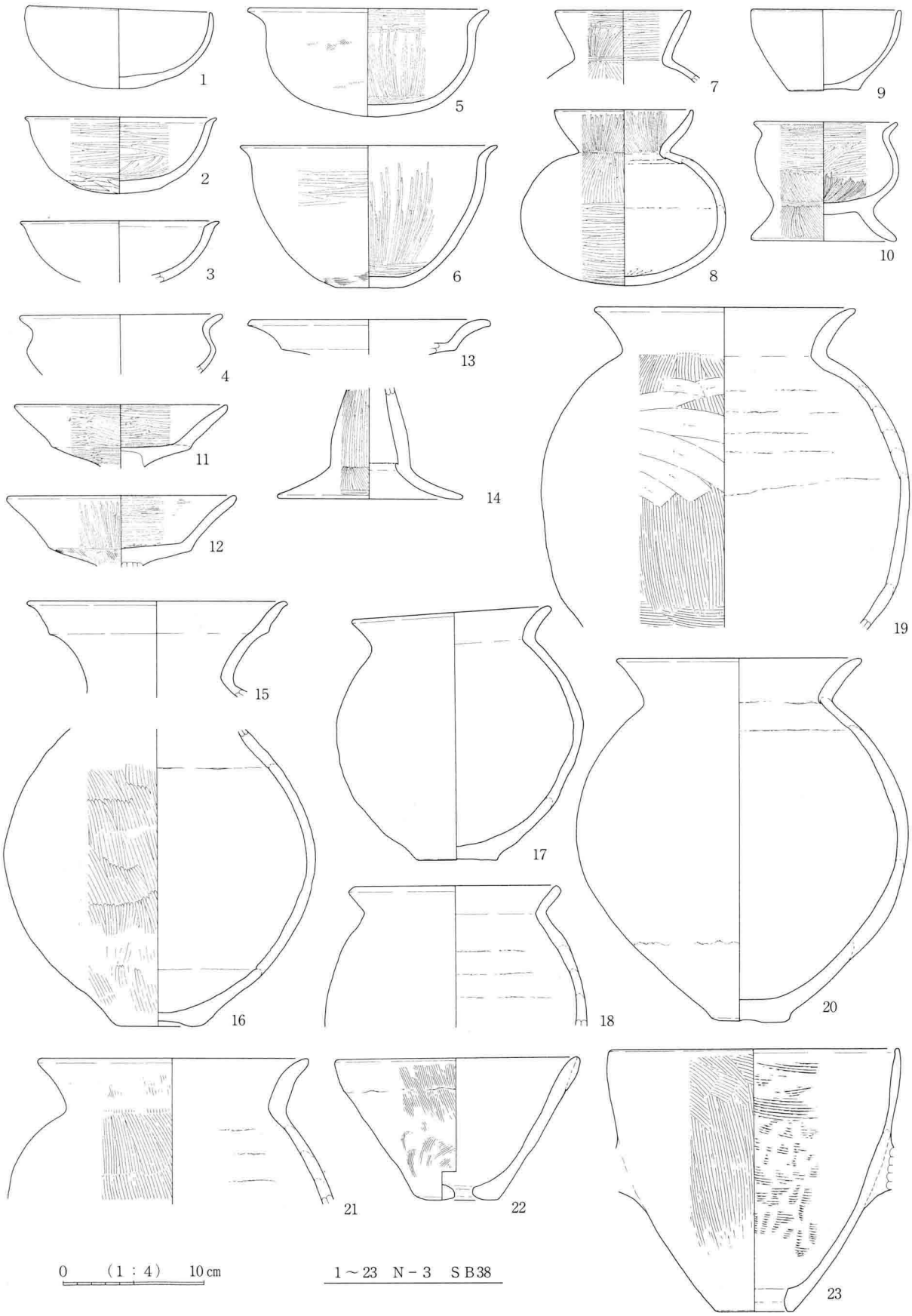


図210 Ⅶ区２次面出土土器実測図⑦（S＝1／4）

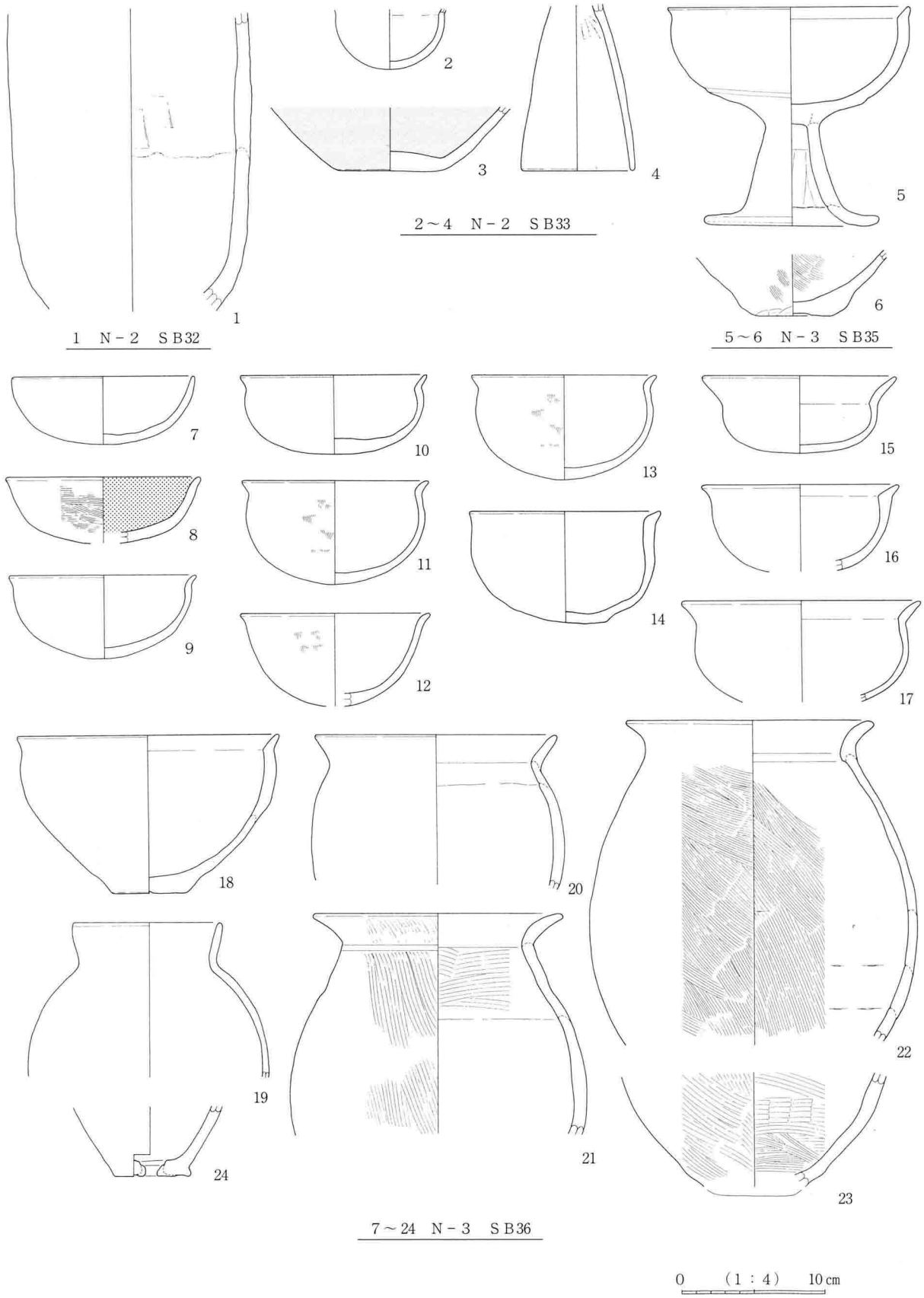


図211　Ⅶ区２次面出土土器実測図⑧（S＝1／4）

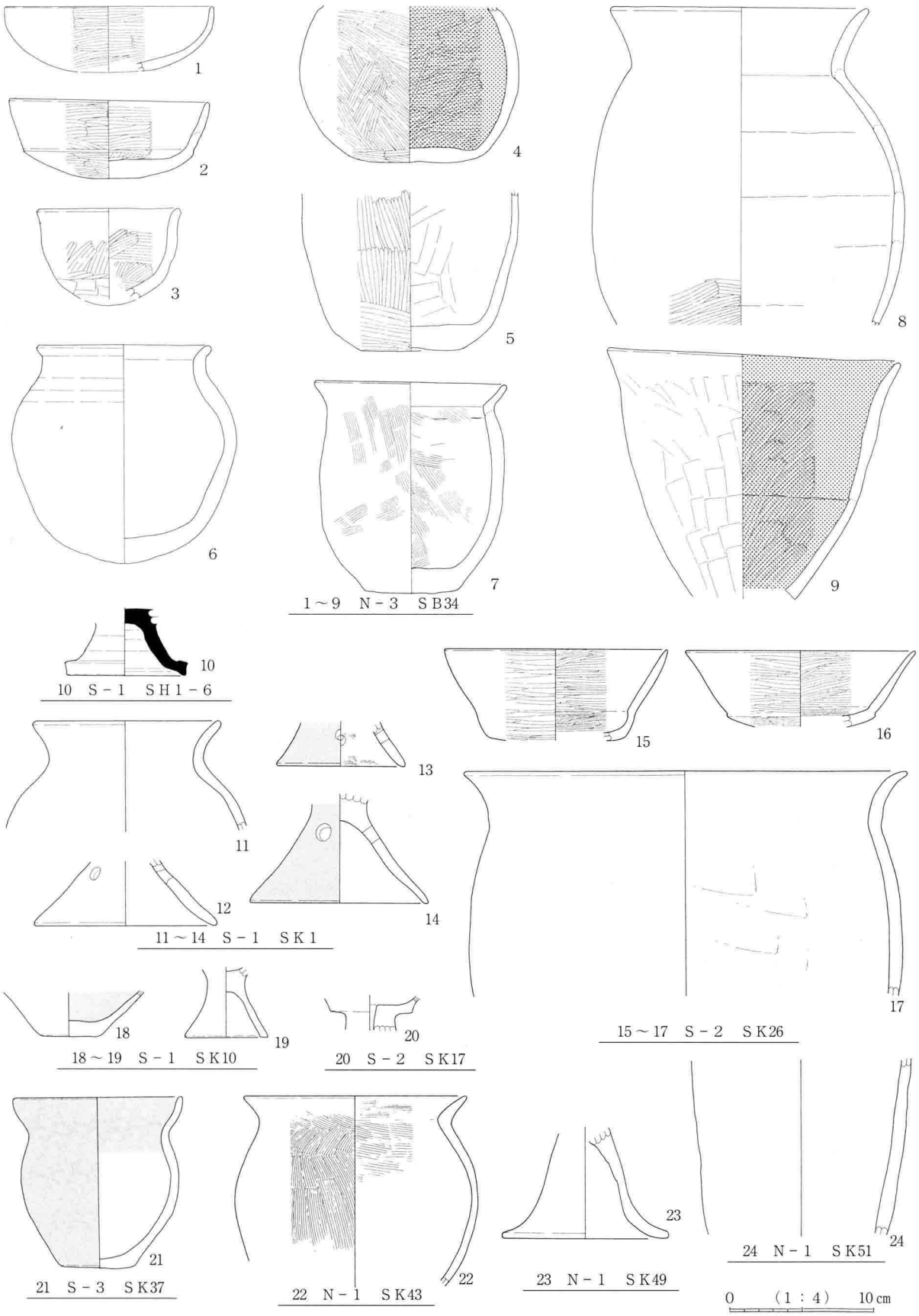


図212　Ⅶ区２次面出土土器実測図⑨（S＝1／4）

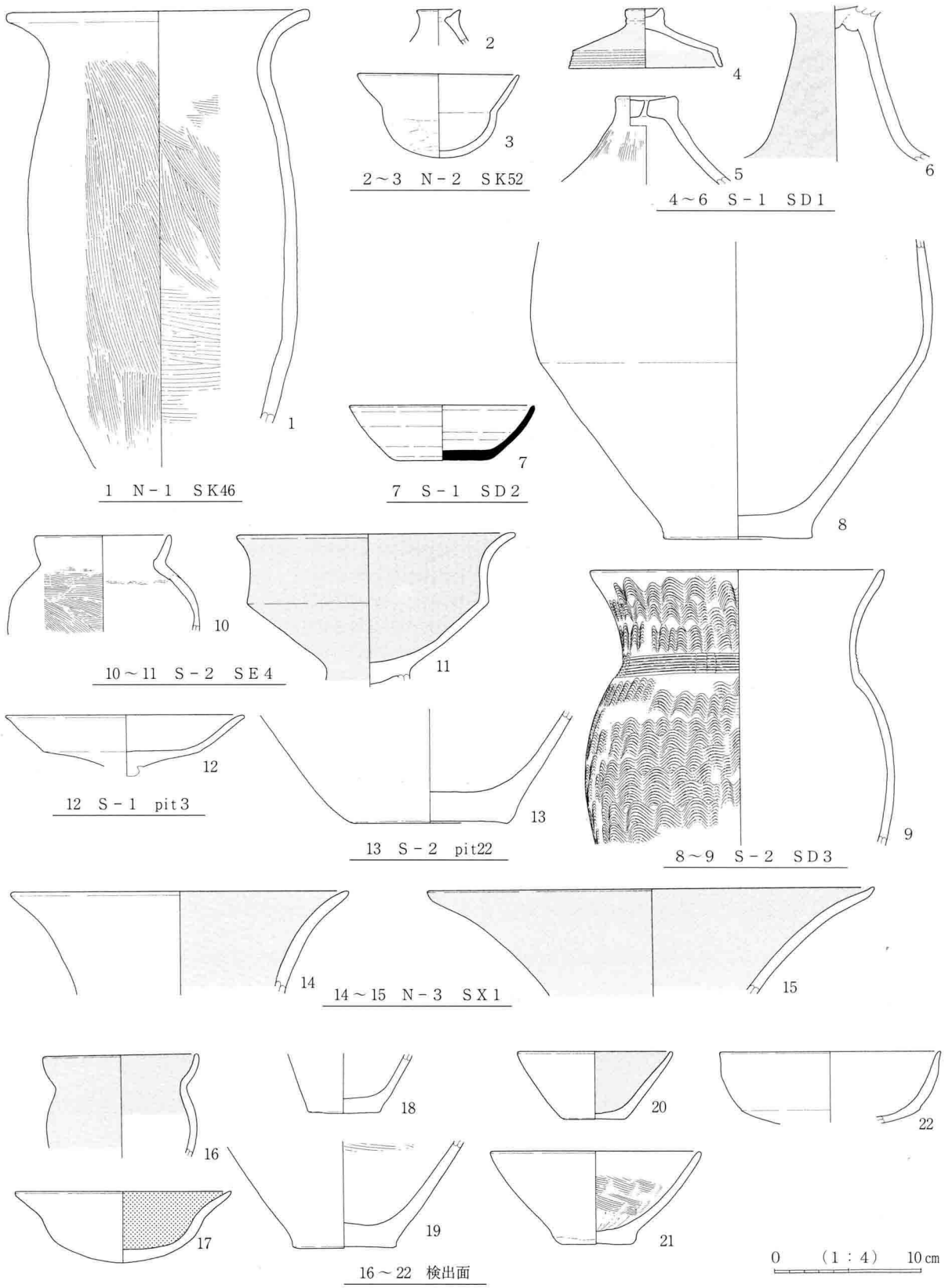


図213 Ⅶ区２次面出土土器実測図⑩（S＝1／4）

写真174　N－１地点ＳＢ23

写真175　N－１地点ＳＢ28

写真176　N－３地点ＳＢ34

写真177　S－１地点ＳＢ03

写真178　S－１地点ＳＢ01

写真179　S－２地点ＳＢ13（土器出土状況）

写真180　S－２地点ＳＢ14

写真181　S－３地点ＳＢ18

XI Ⅷ区の調査

本区は北陸新幹線建設用の工事用道路によって南北に分割され、さらに近隣畑地への出入口の確保から北側（N区）を４分割、南側（S区）を３分割した都合７地点により発掘調査を実施している。地点名は南北ともに東より１・２・３・４地点とし、これに南北のN・Sを冠して呼称している。調査面はすべての地点で２次面調査を実施した。ただし、１・２次面間にほとんど間層はなく、遺構は垂直方向にほぼ連続して存在している。実際に２次面の検出遺構は１次面で検出された遺構と時期的に大きく異なることはなく、１次面調査時に遺構直下でその存在が確認できたものも少なくない。１・２次面は文化層として区分されるものではなく、上層遺構を除去して下層遺構を調査するための作業上の確認面である。

1　１次面の調査

方形ピット群　N-３・S-２・S-３地点では調査区全面より方形ピット群が検出された。列は南北方向に明確で、東西方向も列をなすとみられる。列状に検出されなかったN-１・N-２・S-１地点でも方形ピット群の存在は確認され、本来調査区全面に展開していたと考えられる。覆土は他地区同様に黄褐色砂で、確実に本ピット群に伴うと考えられる遺物の出土はなかった。重複状況は検出されたすべての遺構を掘り込んでおり、最も新しい時期の所産と考えられる。

畝状遺構　N-３地点の東側ならびにS-２地点のほぼ中央では、方形ピット群下より北西－南東方向に並列する畝状遺構が検出された。N-３地点９条、S-２地点20条の畝状遺構は位置関係からも一連であることが確実である。覆土は暗褐色粘質土で締まりは弱く、遺物の出土はみられなかった。

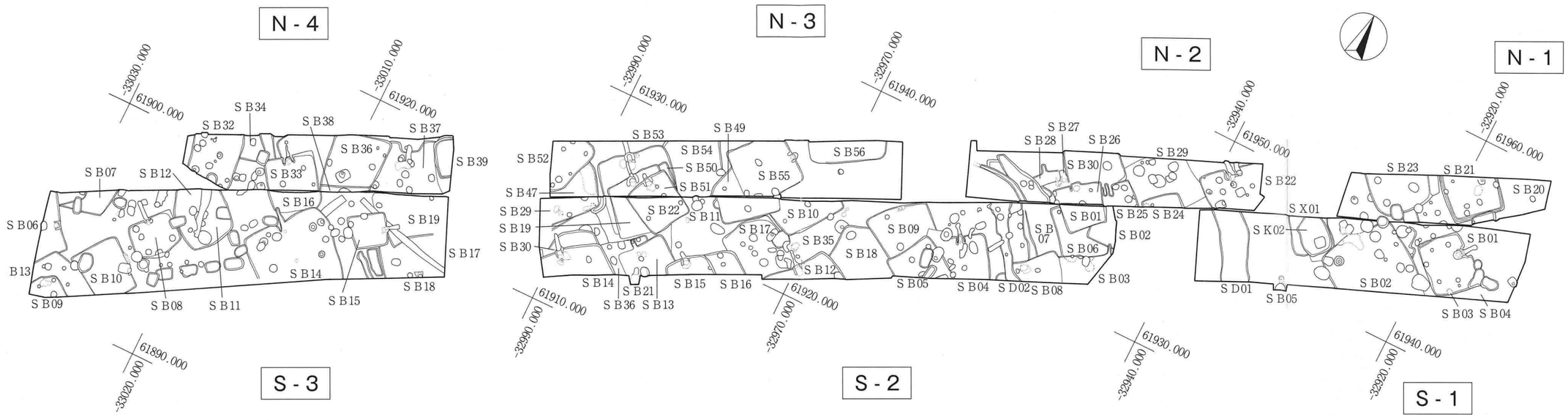
平安時代　竪穴住居７軒ほかが検出された。竪穴住居は調査区西端部のS-３地点で４軒、N-２・S-２地点で隣接して２軒とまとまる傾向が強く、広く展開はしない。ここで注意されるのは、前述した畝状遺構が住居に隣接した該期遺構空白域に存在する点である。出土遺物がなく決め手に欠けるが、遺構分布状況からは平安時代住居との組み合わせの蓋然性が最も高く、集落構造を復元する手がかりになると考えられる。

奈良時代　２次面S-１地点SB26を含め、各地区に散在する状況で竪穴住居11軒・土坑などが検出されている。古墳時代後期住居と重複する傾向が強く、継続して集落域を形成した可能性が考えられる。確認されるカマド方向は北西向きと北東向きに２分される。北西方向は古墳時代以来の一般的方向であるが、北東方向は本区に限ると該期にのみみられる。

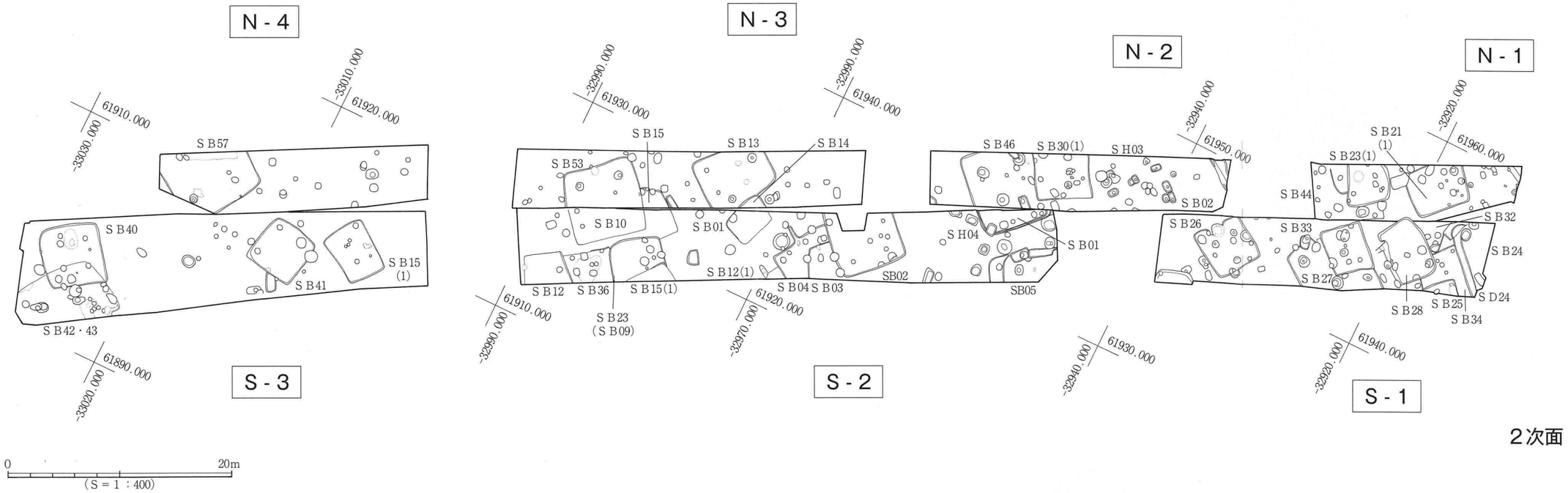
古墳時代　古墳時代後期は竪穴住居・土坑が１次面を主体として多数検出されている。竪穴住居は18軒ほどが各地区で検出されており、東側のⅦ

写真182　方形ピット群（N-3地点）

写真183　畝状遺構（S-2地点）



1次面



2次面

0 20m
(S = 1 : 400)

図214　Ⅷ区１次面・２次面遺構分布図（S = 1/400）

地点名	遺構名	時代	重複関係		床面	付属施設	特記事項	備考	遺構図版番号	土器図版番号	写真番号
			先	後	柱穴						
S-3	SB09	平安		SB13	貼床 1		床面上に炭散布 臼玉出土		215	241	
S-3	SB13	平安	SB06・10	SB09	脆弱 なし		臼玉出土		215	241	
S-3	SB06	平安	SB07	SB13	貼床 なし	カマド（東壁）	臼玉出土		215	242	213
S-3	SB07	古墳		SB06	貼床 なし		土坑群の重複があり、東側を中心にプラン把握不充分		215	241	
S-3	SB10	平安		SB13	貼床 なし	カマド残欠（東壁） （SK19により破壊）	墨書土器出土		215	242	
S-3	SB08	奈良			貼床 3	カマド（北壁）	臼玉出土	北東部柱穴確認できず	215	241	213
S-3	Pit25	古墳～奈良							215	246	
N-4	SB32	古墳	SB31・34		貼床（一部分） なし		臼玉出土		216	234	
N-4	SB34	古墳		SB32 SD09 SK55	脆弱 なし		臼玉出土		216	235	
N-4	SK55	古墳～奈良	SB33・34 SD09				臼玉出土		216	235	
N-4	SB33	古墳	SB35	SK55	貼床 なし	カマド（北壁）	S-3地点SB16と同一遺構	臼玉出土	216 226	234	203
S-3	SB16	古墳	SB14		貼床 なし		N-4地点SB33と同一遺構		216 226	246	
S-3	SB14	古墳		SB16	貼床 4	カマド（北壁）	土器集中2箇所、臼玉（多量）・管玉・土玉・土錘出土	土器群の検出段階で降雨により水没したため、出土状況図は作成できず	216 226	243 244 245	193 194
S-3	SB11	古墳	(SB12)	SK30 SD02	貼床 なし		北側床面上に炭散布		216	242	
S-3	SB12	古墳		(SB11)	脆弱 なし	北壁に炭散布	SB11の貼床がない地点で掘り下げが可能であったため、別遺構として調査を実施したが、掘り込み面が判然とせず、同一遺構の可能性も考えられる。		216	246	
S-3	SK24	古墳			平坦 なし			周辺の同規模土坑群が列をなすが、柱痕は確認されず	216	246	
N-4	SB36	古墳		SB38	貼床 なし		床面上より獣骨出土 臼玉出土		217 227	235	195 ～197
N-4	SB38	古墳	SB36		脆弱 なし		S区で検出されず、広がることはない	住居ではなく、溝状の遺構になる可能性が高い	217	235	204
N-4	SB37	古墳		SB36・39	貼床 なし	カマド（北壁）	S-3地点SB19と同一遺構の可能性あり	勾玉・臼玉出土	217	234	
S-3	SB19	古墳		SB15・17 SD04	貼床 なし		床面高よりN-4地点SB37と同一住居の可能性高い	西・南壁ともに他遺構の重複により把握されず	217	246	
S-3	SB15	古墳～奈良	SB19		脆弱 なし	カマド（東壁）		古墳時代中期土器はSB19からの混入か	217	245	215
S-3	SB17	古墳	SB19	SB15・18	貼床 なし		臼玉出土	時期は重複関係より推定	217		
S-3	SB18	古墳～奈良	SB17		貼床 未検出	カマド（北壁）		SB17の調査中にカマドのみ検出	217	246	
N-3	SB52	古墳	SB47		貼床 1		臼玉出土		218	231	
N-3	SB47	古墳		SB52	貼床 なし		床面上に薄い炭散布	S-2地点SB29と同一遺構	218	230	
S-2	SB29	古墳	SB31		貼床 1		コモテ石が床面上2箇所より集中的に出土	N-3地点SB47と同一遺構	218	239	208
N-3	SB53	古墳	SB54	SB48・51	硬化面 2	カマド（北壁） 石材使用	臼玉出土	2次面SB53と同一で2次面にて全面調査	218	231 232	202
S-2	SB30	古墳	SB31	SB14	硬化面 なし				218	240	208

地点名	遺構名	時代	重複関係		床面	付属施設	特記事項	備考	遺構図版番号	土器図版番号	写真番号
			先	後	柱穴						
N-3	SB48	古墳	SB53	SB51	貼床 なし	カマド（北壁）	S-2地点SB19と同一遺構	白玉出土	218	230	202
S-2	SB19	古墳		SB22	貼床 なし		N-3地点SB48と同一遺構		218	238	
N-3	SB51	奈良	SB48・53		貼床 1？	カマド（北壁）	S-2地点SB22と同一遺構		218	230	202
S-2	SB22	奈良	SB19		貼床 2		N-3地点SB51と同一遺構	古墳時代土器は混入品としてSB19に帰属するか	218	239	
S-2	SB14	古墳	SB30·31·36		貼床 1	カマド（北壁）	東壁際より焼土・炭化材検出		218	237	
S-2	SB13	古墳	SB36	SB15 SB21 38	貼床 なし	カマド残欠（北壁）			218	238	
S-2	SB21	古墳	SB13			カマド	カマドのみ検出		218	240	
N-3	SK69	中世以降					1次面方形ピット群・畝状遺構とともに検出した円形土坑で遺物は混入と判断される			231	
N-3	SB54	古墳		SB49・53	脆弱 なし				219	230	
N-3	SB49	平安	SB54·55		脆弱 なし				219	230	
N-3	SB55	古墳～奈良	SB37 SK78	SB49	貼床 なし	石芯カマド（東壁）	SB49下で確認 白玉出土	多量の古墳時代土器は2次面SB13に帰属か	219	233	
N-3	SK78	古墳か	SB37（S-2）	SB55		南側壁面に焼け	南壁の焼けはS-2SB37カマドとの関連か SK76・77と規模・埋土等が類似		219	231	
S-2	SB15	奈良	SB16		貼床 なし	カマド（北壁）			219	239	
S-2	SB16	古墳か	SB17	SB15	貼床 なし				219		
S-2	SB17	古墳		SB12・16 SB35	脆弱 なし				219	239	
S-2	SB35	古墳	SB17	SB12	貼床 未検出	カマド（東壁）	カマドおよび貼床の一部を確認		219 225	239	192
S-2	SB12	古墳	SB17・35 SB18		貼床 未検出	カマド（北壁）	カマド東側にもう1基カマドがあり、造り替えとみられる		219	240	212
S-2	SB11	古墳以降	SB10		貼床 なし		N区では検出されず		219	238	
S-2	SB10	古墳以降	SB11 SK11		貼床 なし		N区では検出されず		219	238	
S-2	SB37	古墳		SB11 SB55		カマド	調査区壁中でカマドのみ確認	カマド構築材とみられる円柱状の石材出土	219	240	209
S-2	SK11	古墳	SB17	SB10	平坦		方形土坑		219	241	
N-3	SB56	古墳			脆弱 なし		管玉・白玉出土		220	230	
S-2	SB18	古墳		SB05・09 SB12	貼床 なし				220	238	
S-2	SB09	平安	SB05・18		脆弱 なし	カマド残欠（北壁）			220	238	
S-2	SB05	古墳	SB04・18	SB09 SH01 SK01	脆弱 2		獣骨が床面より若干浮いて出土		220	238	
S-2	SB04	古墳	SB05・09 SH01		貼床 なし	カマド（北壁）			220	238	210 211
S-2	SK01	奈良～平安	SB05						220	241	
N-2	SB27	古墳	SB28	SB26・30 SD08	脆弱 未検出	カマド残欠（北壁）	S-2地点SB07と同一遺構の可能性あり	白玉出土	221	229	
S-2	SB07	古墳		SD01 （SB08）	硬化面 なし		N-2地点SB27と同一遺構の可能性あり	硬化面の広がりにより住居跡と判断、プラン未確認	221	238	

地点名	遺構名	時代	重複関係		床面	付属施設	特記事項	備考	遺構図版番号	土器図版番号	写真番号
			先	後	柱穴						
N-2	SB30	奈良	SB25・27 SB28・29	SB26	硬化面 なし	カマド？ （北壁に炭散布）	石製模造品（有孔円板） 出土	南壁は不明瞭	221	229	
N-2	SB25	古墳		SB26・30	貼床 1	カマド（北壁）	臼玉出土	煙道先端部がSB30により破壊	221	229	201
N-2	SB24	古墳	SB29		硬化面 なし	西壁際に焼土分布 （カマドに関連？）			221	228	
N-2	SB29	古墳		SB22・24 SB30	硬化面 なし	カマド？（北壁） 北壁に焼土・炭散布	管玉・土玉・切子玉出土		221	229	
N-2	Pit37	古墳以降	SB29		平坦 				221	229	
N-2	Pit38	古墳		SB29	平坦 			SB29カマド火床の焼土が覆土上面に載る	221	229	
N-2	SB26	奈良	SB25・27 SB30		貼床 1	カマド（北壁）	S-2地点SB01と同一遺構	臼玉出土	221	228	
S-2	SB01	奈良	SB02・06		貼床 なし		N-2地点SB26と同一遺構		221	238	
S-2	SB03	平安	SB02・06 SB08		硬化面 なし	カマド（北壁） 煙道のみ残存	北壁に炭散布 管玉出土		221	238	
S-2	SB08	古墳か	(SB07)	SB03 SD02	貼床 2	カマド（北壁）	管玉出土		221		
S-2	SD02	奈良か	SB08						221	241	
N-2	SB22	古墳	SB29		貼床 2	カマド（北壁） 石材使用	カマド東側に別カマドが残存し、造り替えか		222	228	200
S-1	SB05	古墳				カマド（北壁）		カマドのみ検出 遺構本体は調査区外	222	237	
S-1	SB02	古墳		SK08・10 SK11	貼床 2	カマド（北壁）	子持勾玉・有孔円板・ 臼玉・ｶﾞﾗｽ玉出土		222 223	236	206 207
S-1	SK03	平安か	SB02		平坦 		SB02カマド東側に位置する土坑	図中掲載なし	222 223	237	
N-1	SB23	古墳		SK47	貼床 3	貼床直下で臼玉が集中的に出土	石製模造品(有孔円板)・ 臼玉出土		223	228	198
N-1	SB21	奈良		SK46	貼床 3	壁溝	床面上に炭散布 臼玉出土		223	228	199
N-1	SB20	奈良		(SB21)	貼床 1		調査区際で壁面の確認なし。また、SB21の調査後確認したため、SB21との厳密な重複関係不明。 臼玉出土		223	228	
N-1	SK46	平安か	SB21		平坦 		臼玉出土		223	228	
N-1	SK47	古墳	SB23		平坦 				223	228	
S-1	SB01	奈良	SB03・04		貼床 4	カマド（北壁） 出入口ピット（西壁）	有孔円板・臼玉出土	古墳時代遺物はSB03・04からの混入と考えられる	223	236	205
S-1	SB03	古墳	SB04	SB01		カマド（北壁） 天井部が残存		住居は南側調査区外	223 224	235	190 191
S-1	SB04	古墳		SB01・03			焼土の分布と遺構プランの一部を確認	2次面面SB25と同一遺構の可能性が高い	223	235	
S-1	SK05	不明	SK06		平坦 				223	237	
S-1	SK06	不明	SB01・03 SK07	SK05	平坦 		底面でSB03に伴う貼床を確認	出土土器はSB03に伴う可能性が考えられる	223	237	
S-1	SK07	古墳		SB01 SK06	平坦 				223	237	
S-1	SK08	奈良	SB02		平坦 				223	237	
S-1	SK11	古墳	SB02 SK10		平坦 		東壁で検出された焼土は2次面SB28煙道部	SB02の調査先行により、同住居重複部分不明	223	237	

表19　Ⅷ区1次面主要検出遺構一覧表

区・西側のⅨ区を含めて、広く展開している。時期的疎密はあるものの６～７世紀を通じ継続して形成されたとみられる。古墳時代中期は１・２次面を通じて調査区のほぼ全面より竪穴住居・土坑が検出されている。１次面では後代の遺構分布がみられない部分のほとんどの箇所から検出され、遺構間重複も激しく、密集した遺構分布を示す。隣接するⅦ区・Ⅸ区の該期遺構の分布状況と対比しても本区の密集度は群を抜き、該期集落域の中心をなす可能性が考えられる。確実に炉が確認された住居はなく、ほとんどが北西向きのカマドを有すると考えられる。この北西向きカマドは後代にも継続して認められ、集落構造の基本が該期に遡る可能性が考えられるが、住居密集状況は他にはみられない時期的特徴となり、集住形態の懸隔は大きい。出土遺物では滑石製臼玉が調査区全面より多量に検出されており、各遺構覆土中より出土している。古墳時代後期～平安時代遺構覆土からも出土しているが、該期遺構との重複部分にほぼ限られることから古墳時代中期に帰属すると捉えられる。出土状況は図226にドットとして示したように、遺構覆土中より単独で出土するものがほとんどで、集中しての出土などは認められない。こうした状況が調査区全面で確認され、帰属遺構を特定することも難しい。住居廃絶などに伴って撒くような状況で使用された印象が強い。なお、滑石製臼玉に混じって石製模造品有孔円板も出土している。

写真184　N-２地点全景（東から）

写真185　N-３地点全景（西から）

写真186　N-４地点全景（東から）

写真187　S-１地点全景（西から）

写真188　S-２地点全景（東から）

写真189　S-３地点全景（西から）

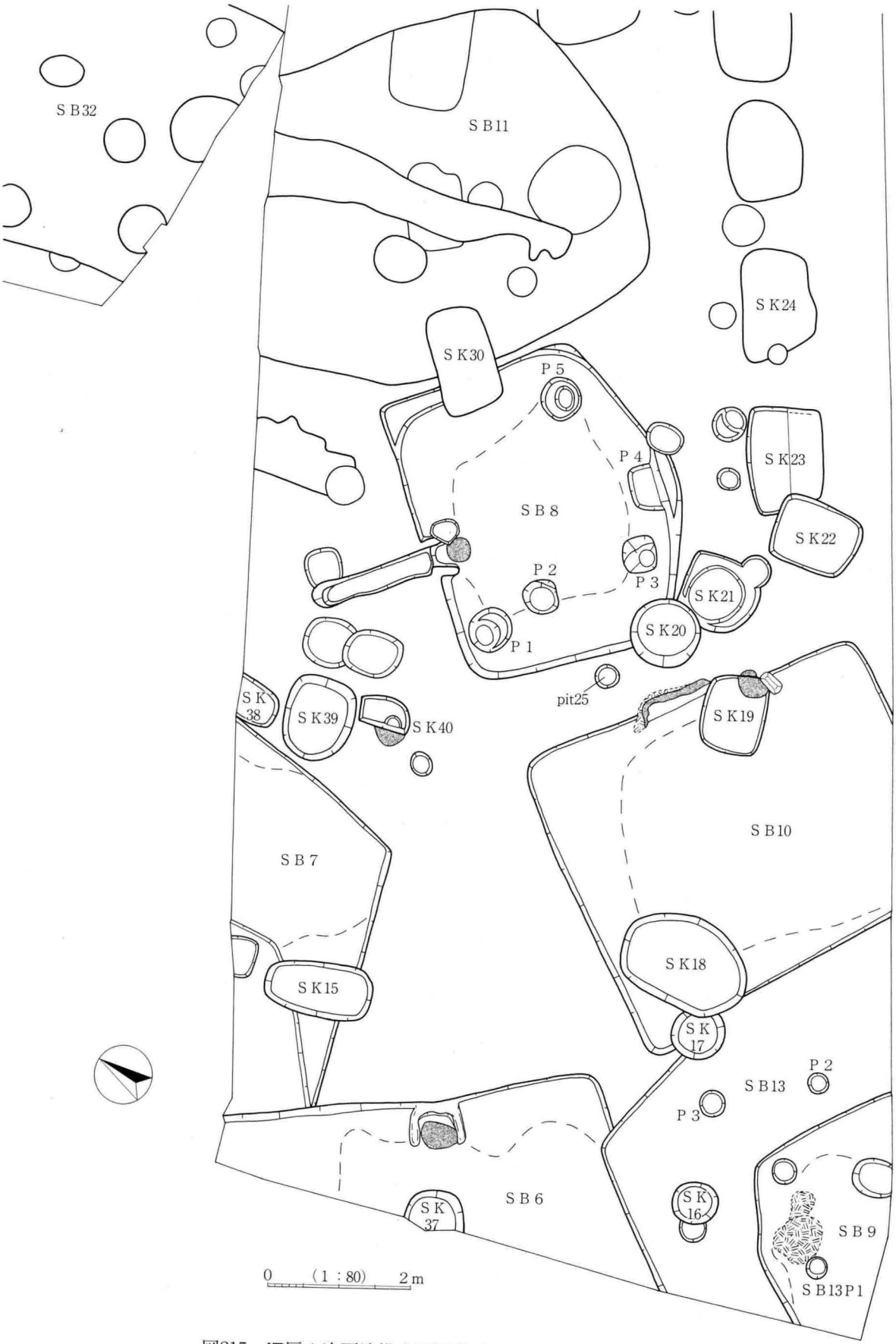


図215　Ⅷ区１次面遺構実測図①（S＝1/80）　S-３地点

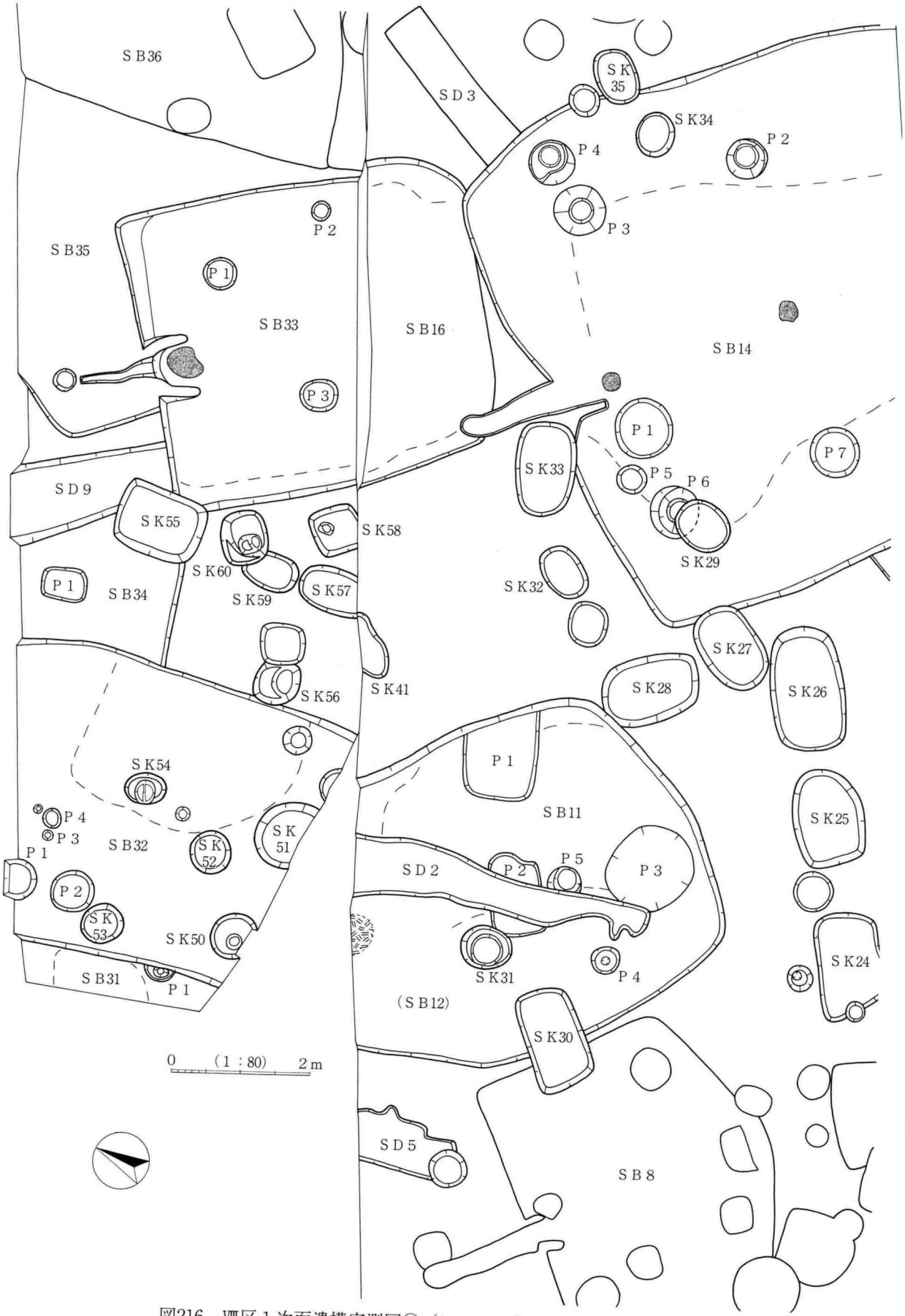


図216　Ⅷ区１次面遺構実測図②（S＝1/80）　N-４・S-３地点

図217　Ⅷ区１次面遺構実測図③（S＝1/80）　N-４・S-３地点

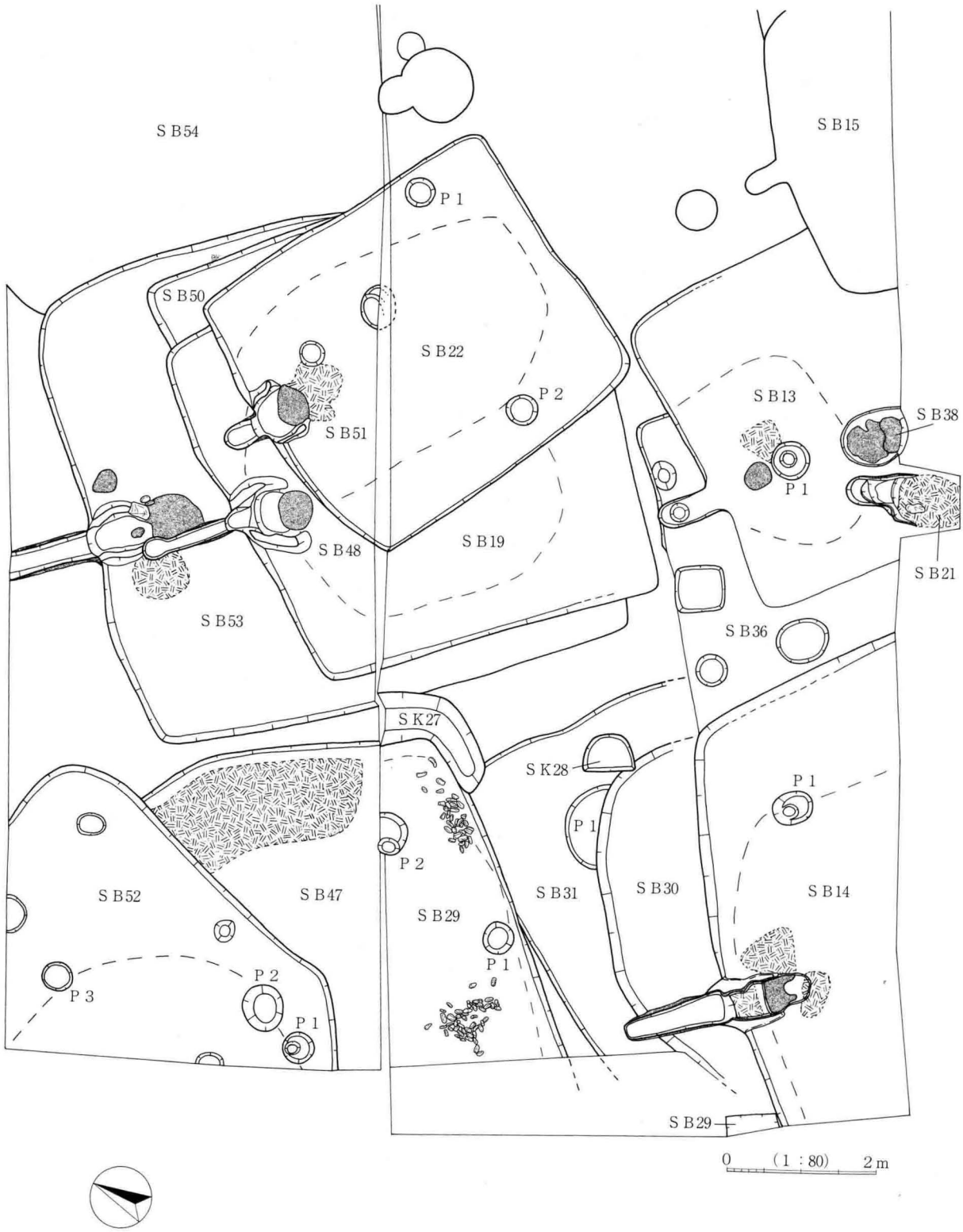


図218　Ⅷ区１次面遺構実測図④（S＝1/80）　N-３・S-２地点

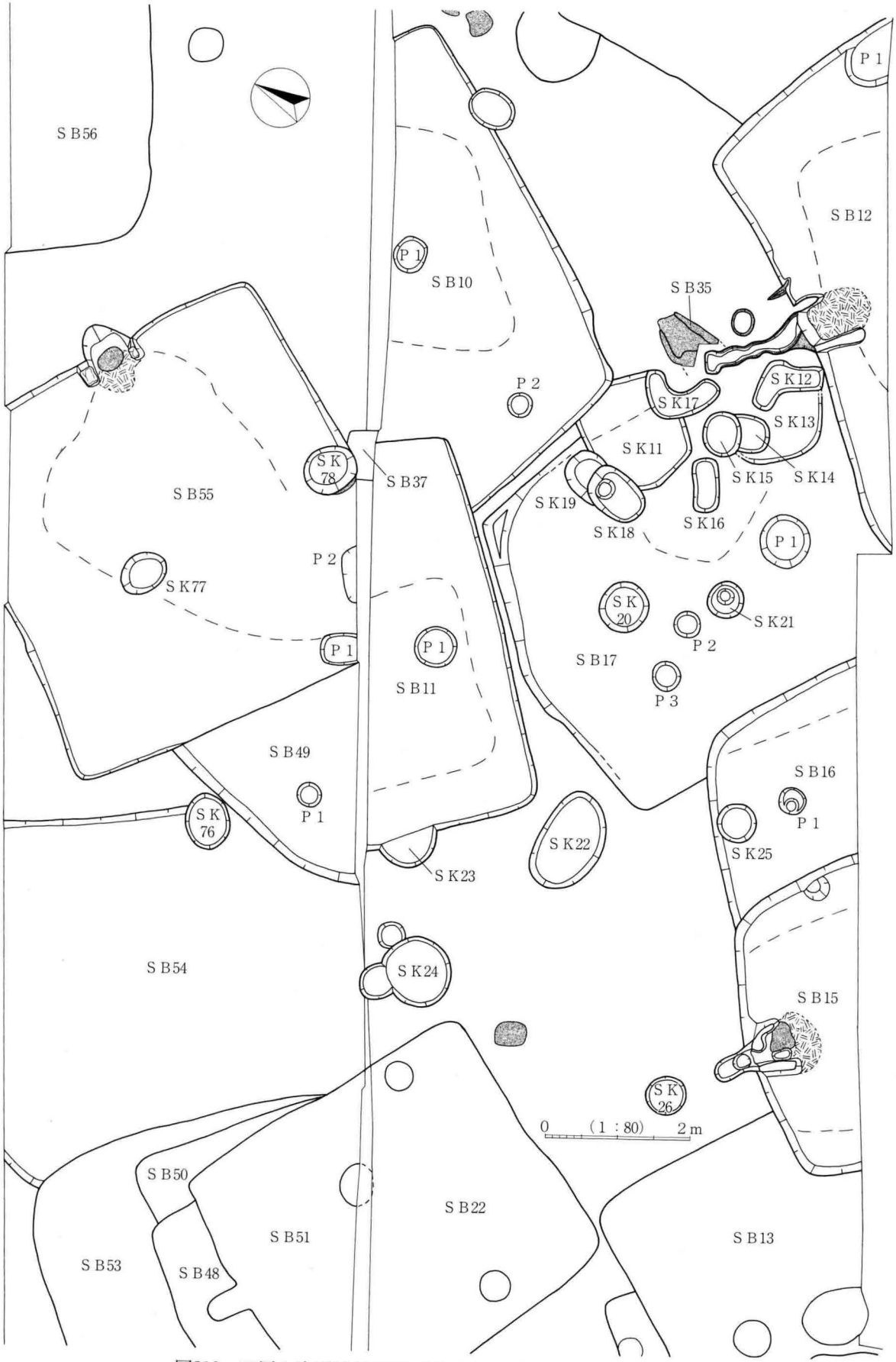


図219　Ⅷ区１次面遺構実測図⑤（S = 1 /80）　N- 3 ・S- 2 地点

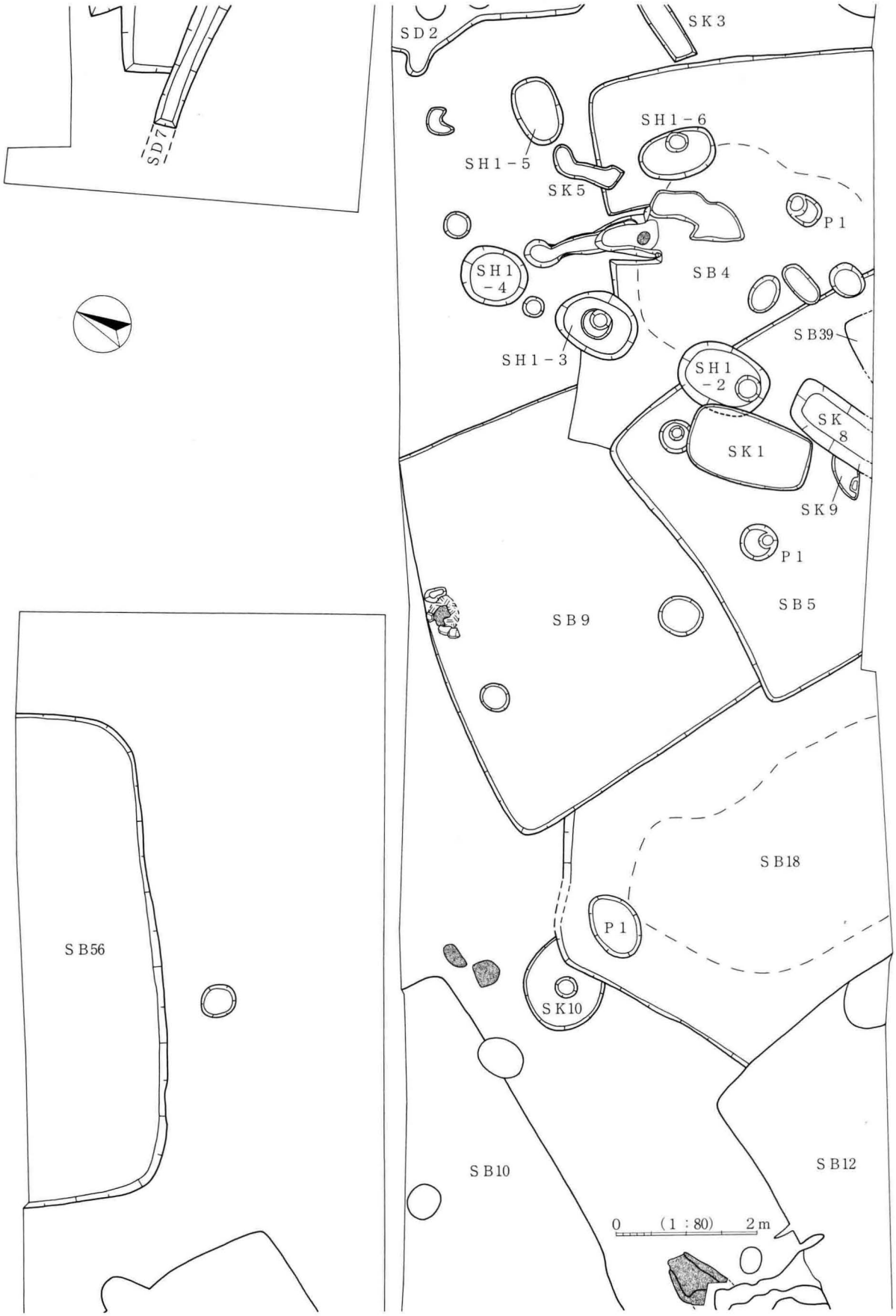


図220　Ⅷ区１次面遺構実測図⑥（S＝1/80）　N-３・N-２・S-２地点

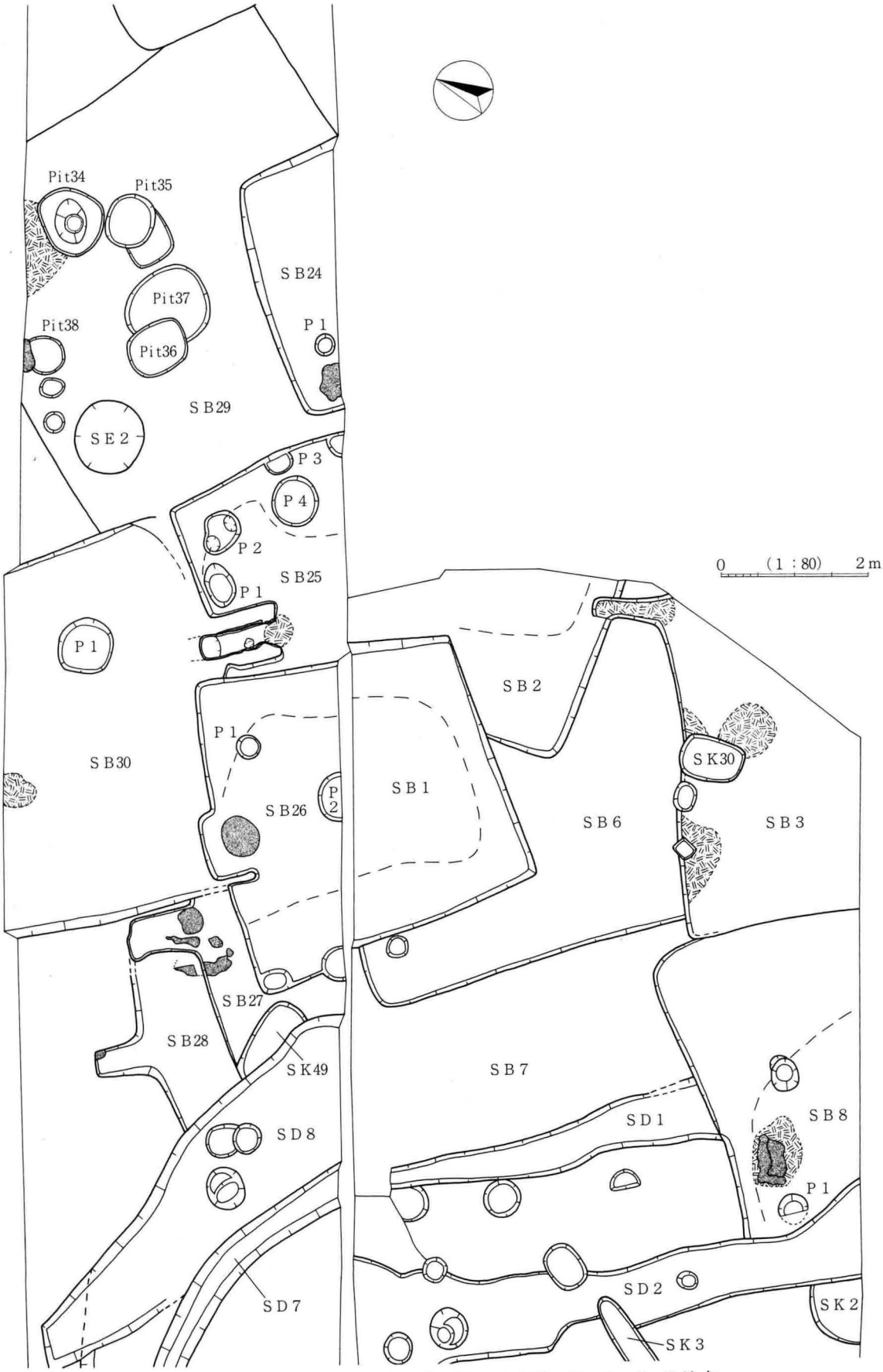


図221　Ⅷ区１次面遺構実測図⑦（S＝1/80）　N-２・S-２地点

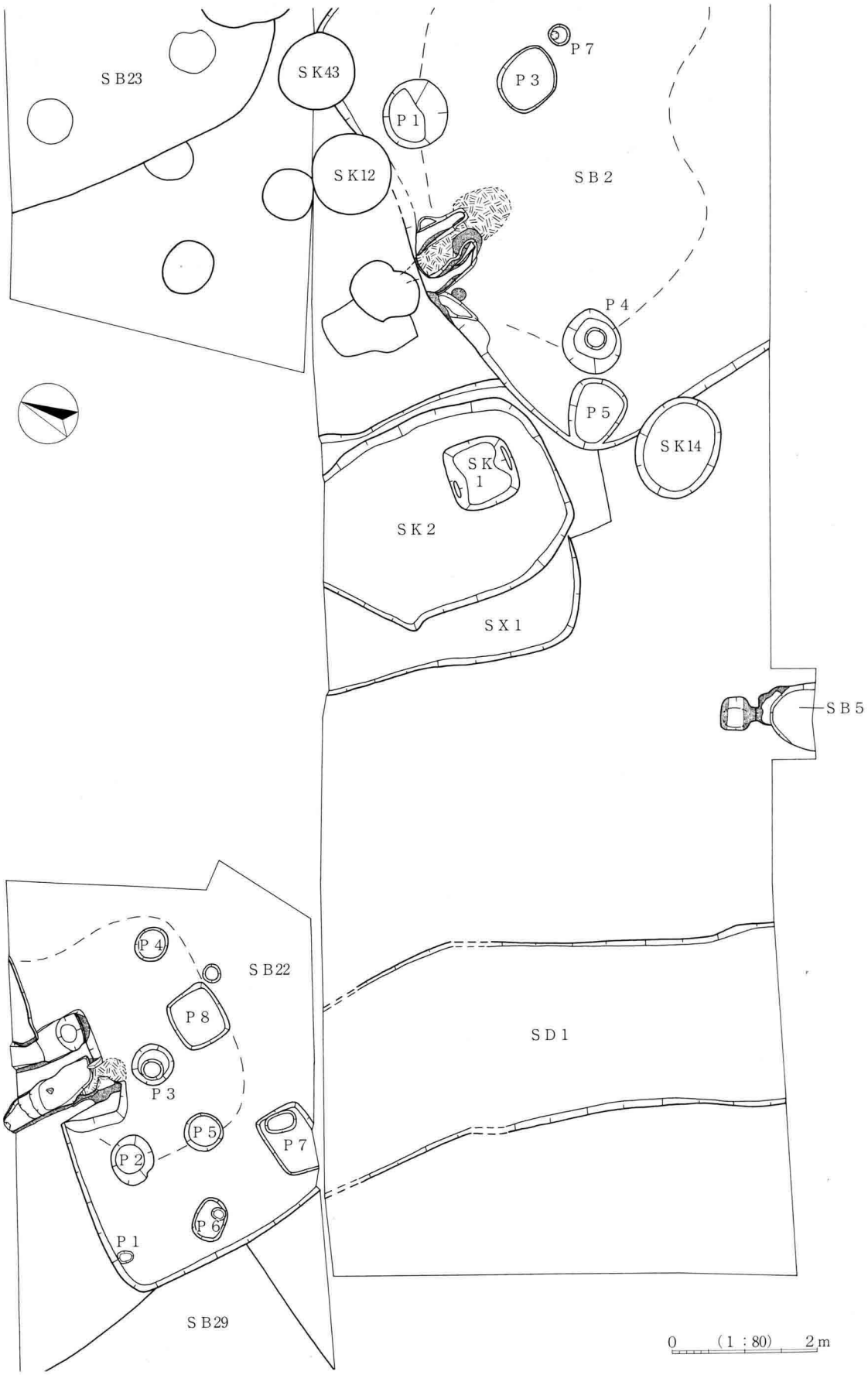


図222　Ⅷ区１次面遺構実測図⑧（S＝1/80）　N-２・N-１・S-１地点

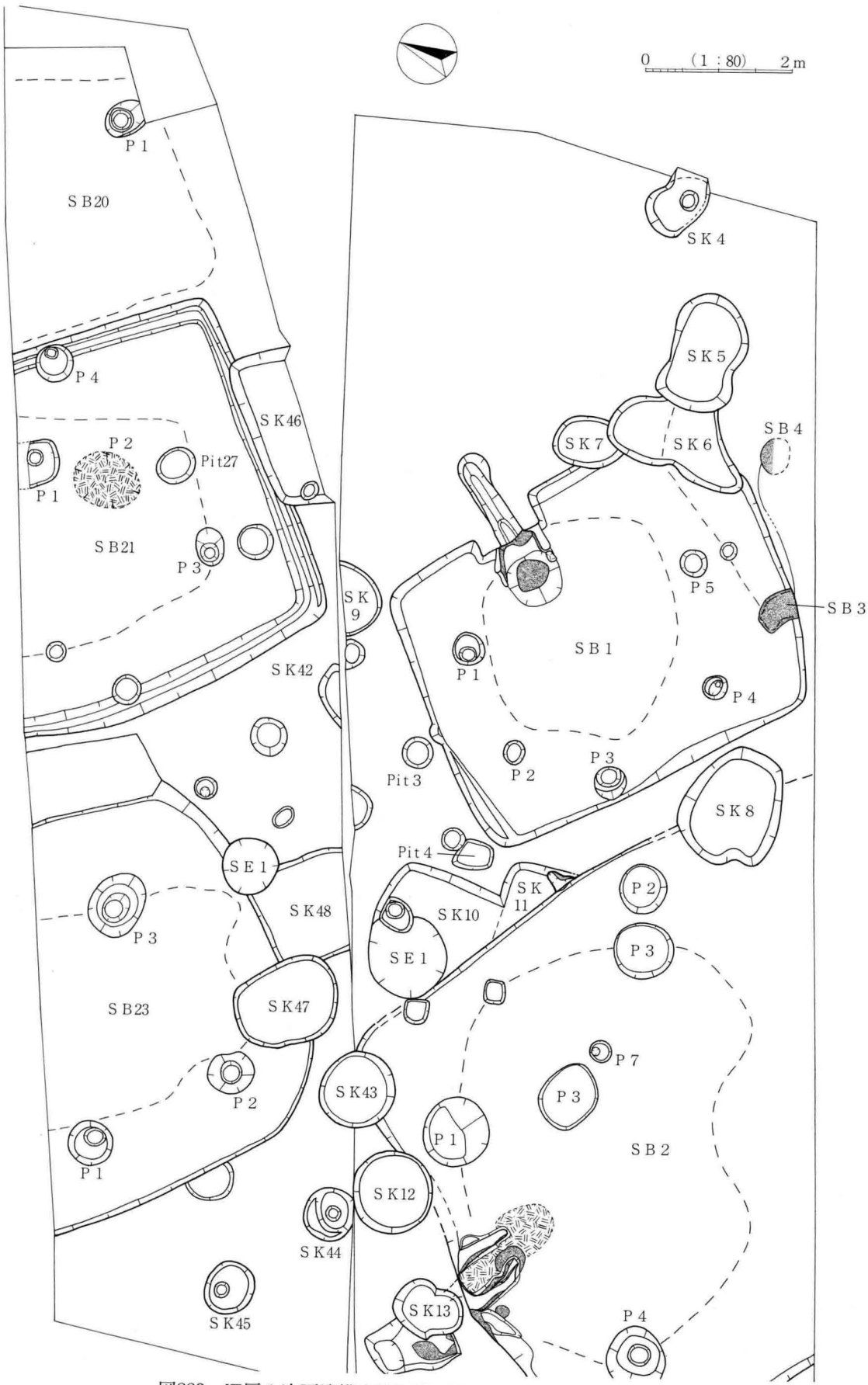


図223　Ⅷ区１次面遺構実測図⑨（S＝1/80）　N-１・S-１地点

S-１地点 SB03　調査区南壁際で検出されたため、カマドおよび貼床の一部が確認されたにすぎない。カマドの残存状況は良好で、天井が残る。石などの構築材は使用されておらず、粘土のみによって作られている。天井部は平坦で、断面形態は方形を呈する。被熱部分は側壁から天井にかけて顕著で、床はほとんど焼けていない。煙道先端部には焼土も天井も確認されなかった。袖部は両側へ開くと想定されるが、部分的な確認でしかなく、特に右袖部はほとんど残っていない。対照的に土器の残りはよく、燃焼部より土師器甕・椀が正置の状態で検出された。特異な形態ではあるが、南壁際で確認された貼床より住居布設のカマドと評価しておく。

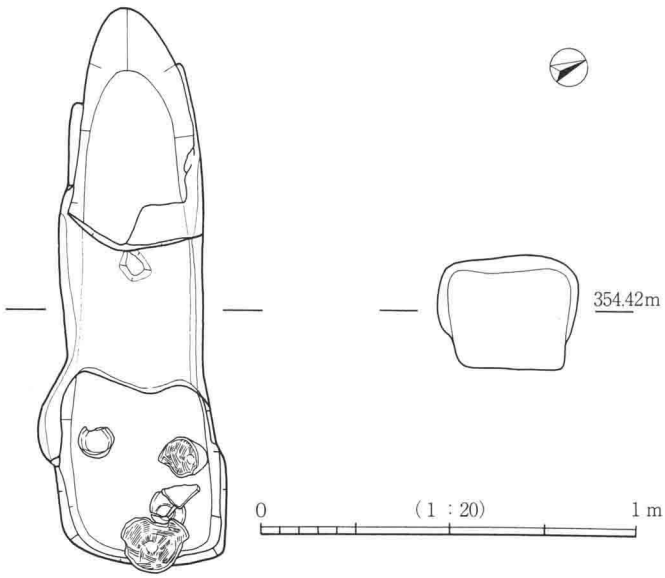


図224 ＳＢ03カマド実測図（S=1/20）

写真190 ＳＢ03検出状況（東から）

写真191 ＳＢ03検出状況（南から）

S-２地点 SB35　他遺構の重複により規模等不明の竪穴住居で、北壁に構築されたカマドのみが検出された。天井は内部に崩落していたが被熱を受けた側壁がよく残る。袖部はすでになく、火床が確認されたにすぎない。遺物は煙道部との境をなす段部の右壁際より甕の出土がある。また、左壁側で石材が検出され、構築には石材が使用されたとみられる。

写真192 ＳＢ35カマド検出状況（西から）

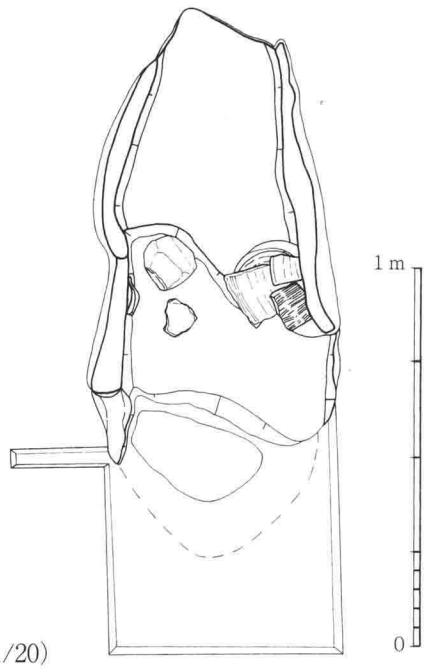


図225　ＳＢ35カマド実測図（S=1/20）

S-３地点 SB14

一辺約７ｍを測る方形の竪穴住居である。SB16に掘り込まれるが、重複下でプランが確認できた。北壁中央でカマドが検出されたが、既に破壊されており、火床のみが確認されたにすぎない。床面は明確な貼床である。

土器は右図のトーン部２カ所より集中的に出土している。南集中では焼土が確認されたが、この焼土上には図244－25の甕が伏せた状態で検出されている。南集中・北集中ともに須恵器を１点ずつ含み、TK23型式併行期の良好な一括資料と把握できる。

臼玉は床面上～覆土下層より多量に出土している。このほか管玉２点、土玉１点、土錘１点が出土している。

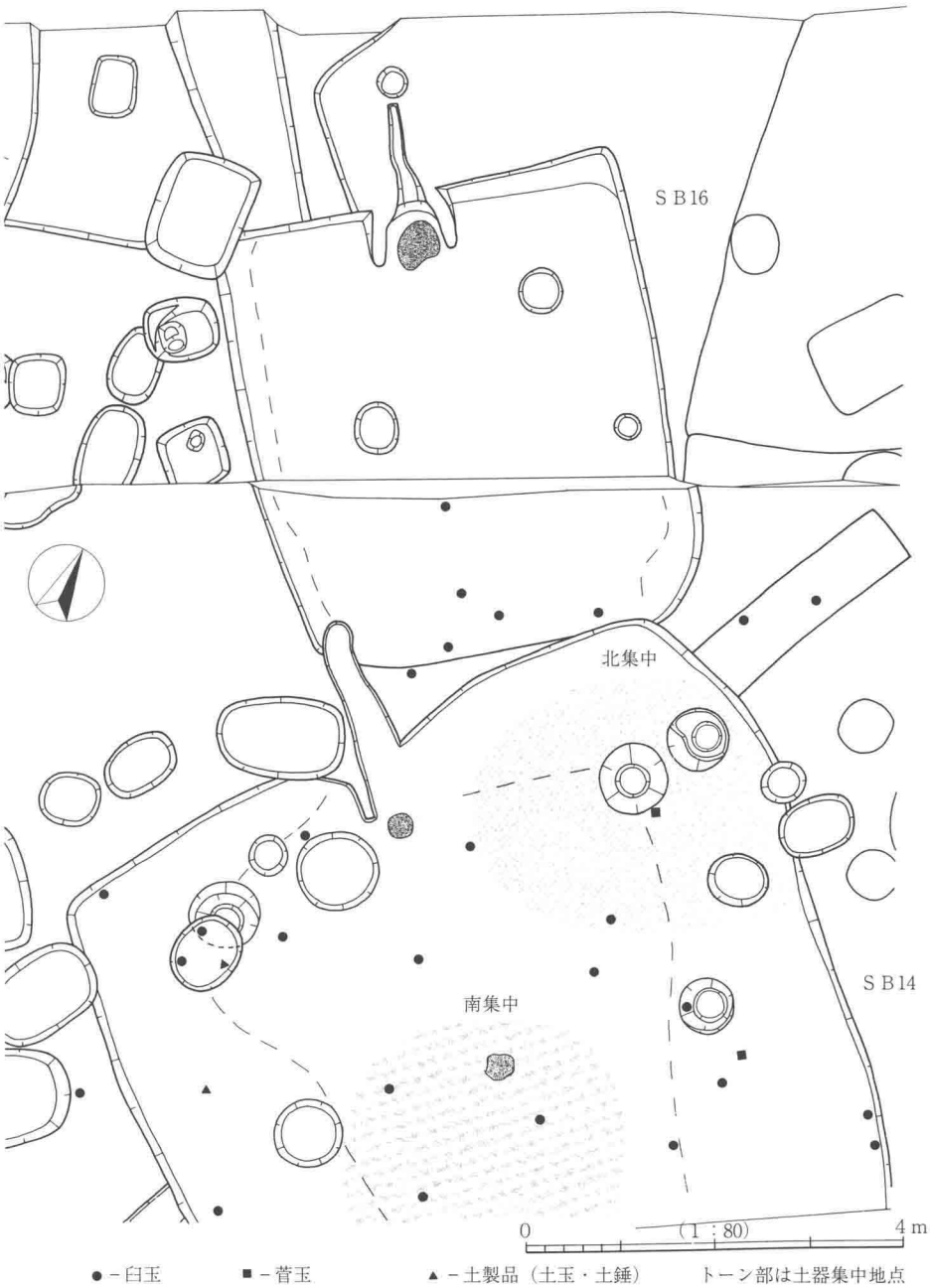


図226　ＳＢ14遺物出土状況実測図（S＝1/80）

写真193　ＳＢ14遺物出土状況

写真194　ＳＢ14（完掘）

N-４地点SB36　SB38との重複より南壁を失うが、一辺5.2mを測る方形の竪穴住居である。貼床直上より土器片・石材が出土しているが、これらに混じって獣骨が検出されている。獣骨は牛かとみられ、住居中央から西側にかけて３カ所にまとまるように出土している。歯は他の骨とは離れて検出され、骨のまとまりがみられることからも遺骸をそのまま埋葬したとは考えがたい。また、獣骨や土器・石材を大きく取り巻くように滑石製臼玉が18点ほど出土しているが、Ⅳ区SB01のように石製模造品は伴っていない。この他、砥石・紡錘車が出土している。なお、床は貼床が確認されたが、カマドや炉・柱穴等は検出されなかった。

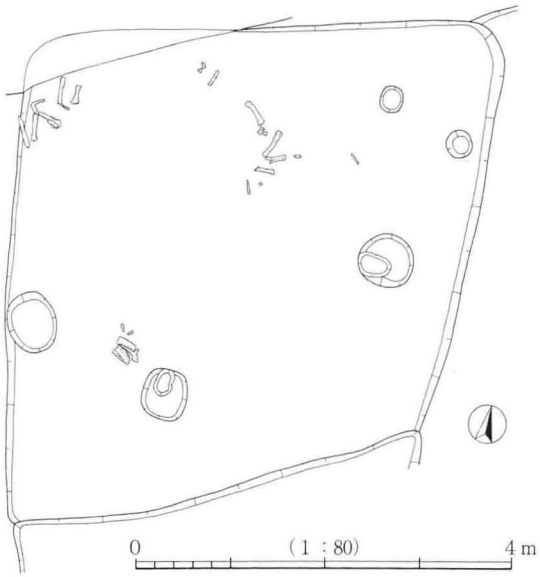


図227　ＳＢ36獣骨出土状況実測図（S＝1/80）

写真195　ＳＢ36遺物・獣骨検出状況

写真196　ＳＢ36獣骨検出状況①

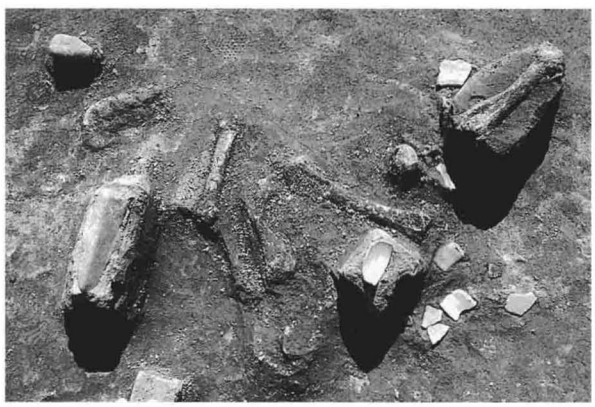


写真197　ＳＢ36獣骨検出状況②

写真198　Ｎ－１地点ＳＢ23

写真199　Ｎ－１地点ＳＢ21

写真200　N－２地点ＳＢ22

写真201　N－２地点ＳＢ25

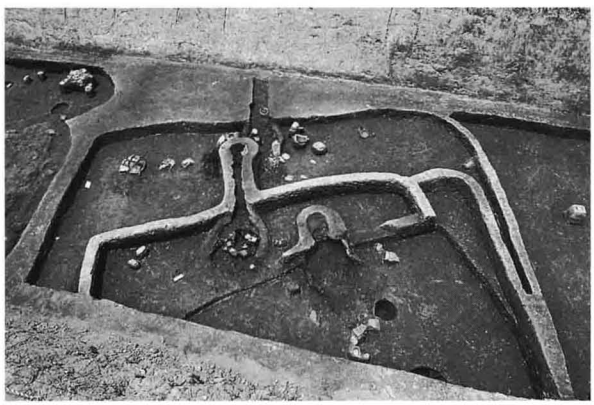


写真202　N－３地点ＳＢ48・50・51・53

写真203　N－４地点ＳＢ33

写真204　N－４地点ＳＢ37

写真205　S－１地点ＳＢ01

写真206　S－１地点ＳＢ02

写真207　S－１地点ＳＢ02カマド内遺物出土状況

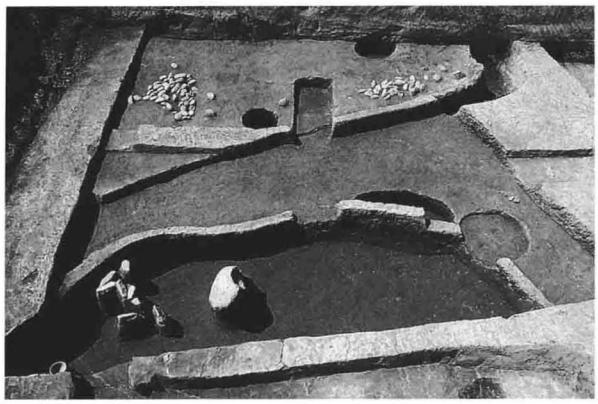


写真208　S- 2 地点ＳＢ29・30・31

写真209　S- 2 地点ＳＢ37

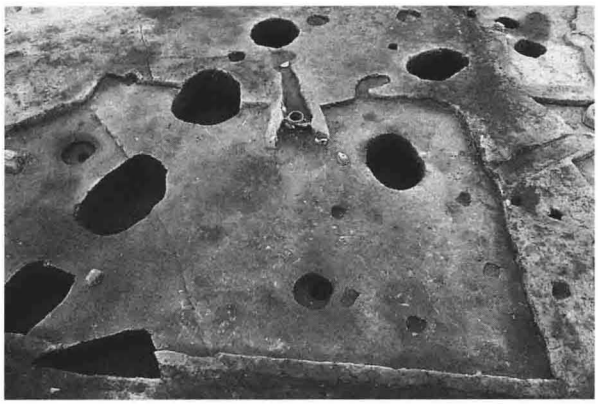


写真210　S- 2 地点ＳＢ04

写真211　S- 2 地点ＳＢ04カマド内土器出土状況

写真212　S- 2 地点ＳＢ12

写真213　S- 3 地点ＳＢ06

写真214　S- 3 地点ＳＢ08

写真215　S- 3 地点ＳＢ15

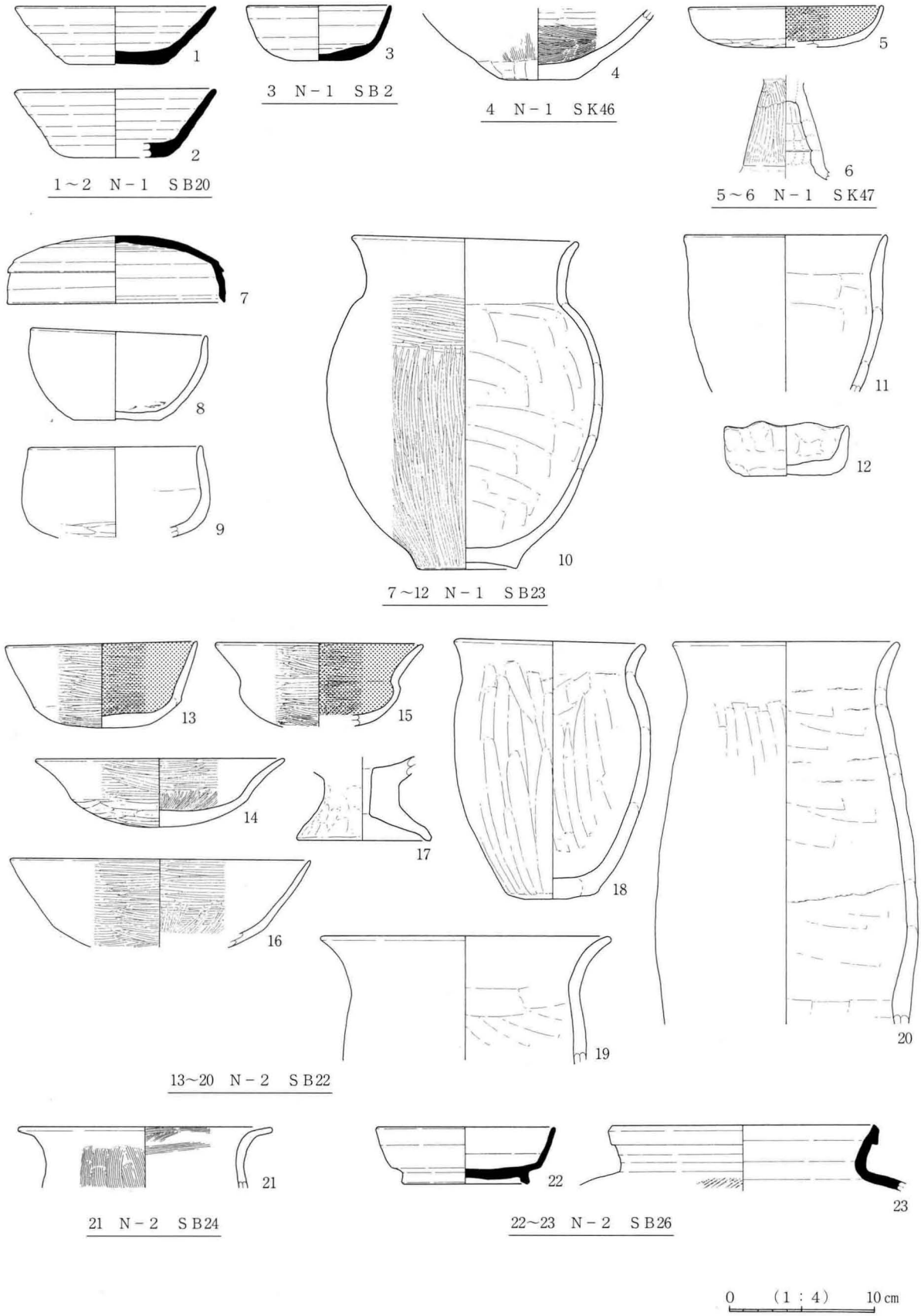


図228　Ⅷ区１次面出土土器実測図①（S＝1／4）　N-１・N-２地点

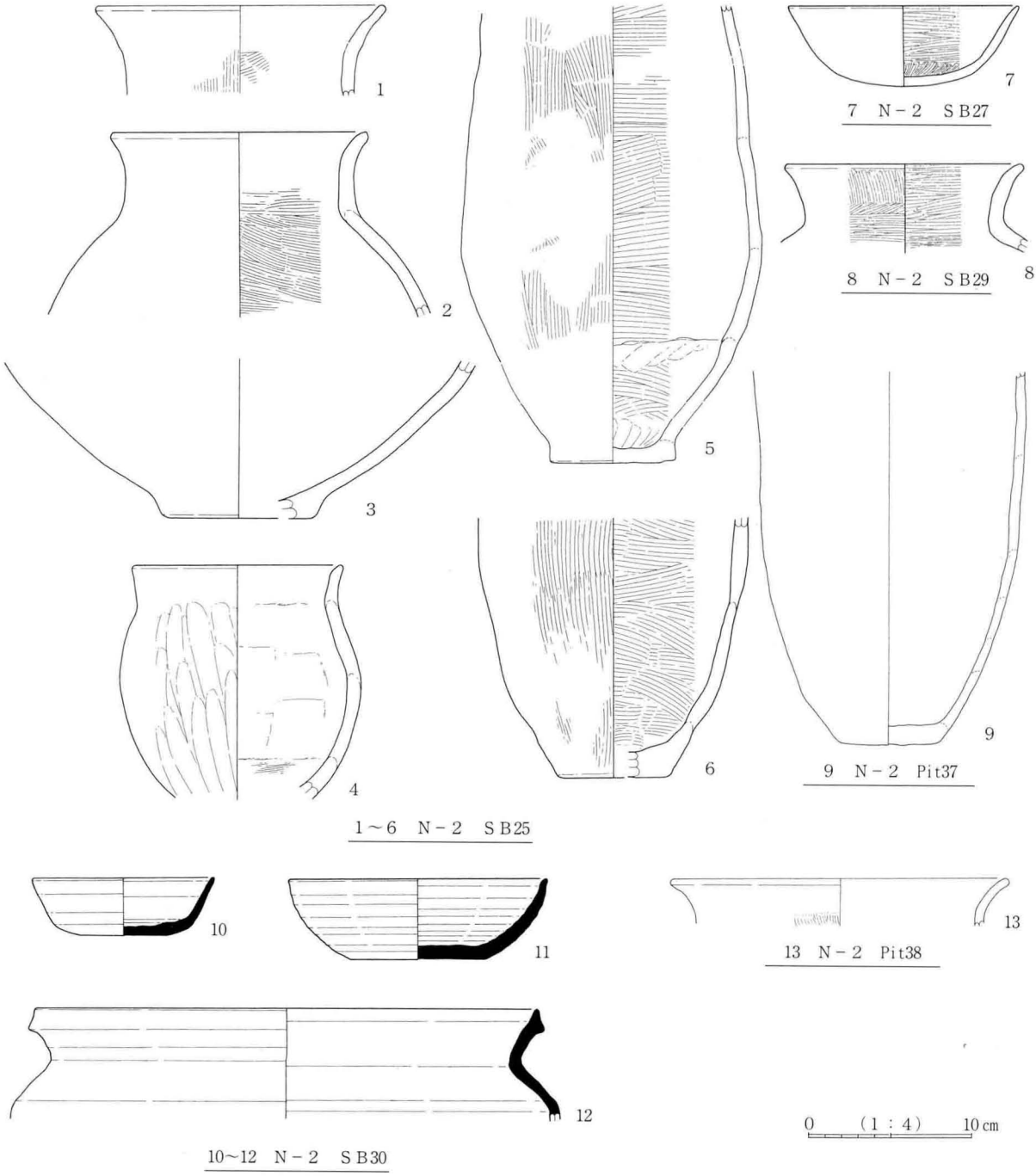


図229　Ⅷ区１次面出土土器実測図②（S＝1／4）　N-２地点

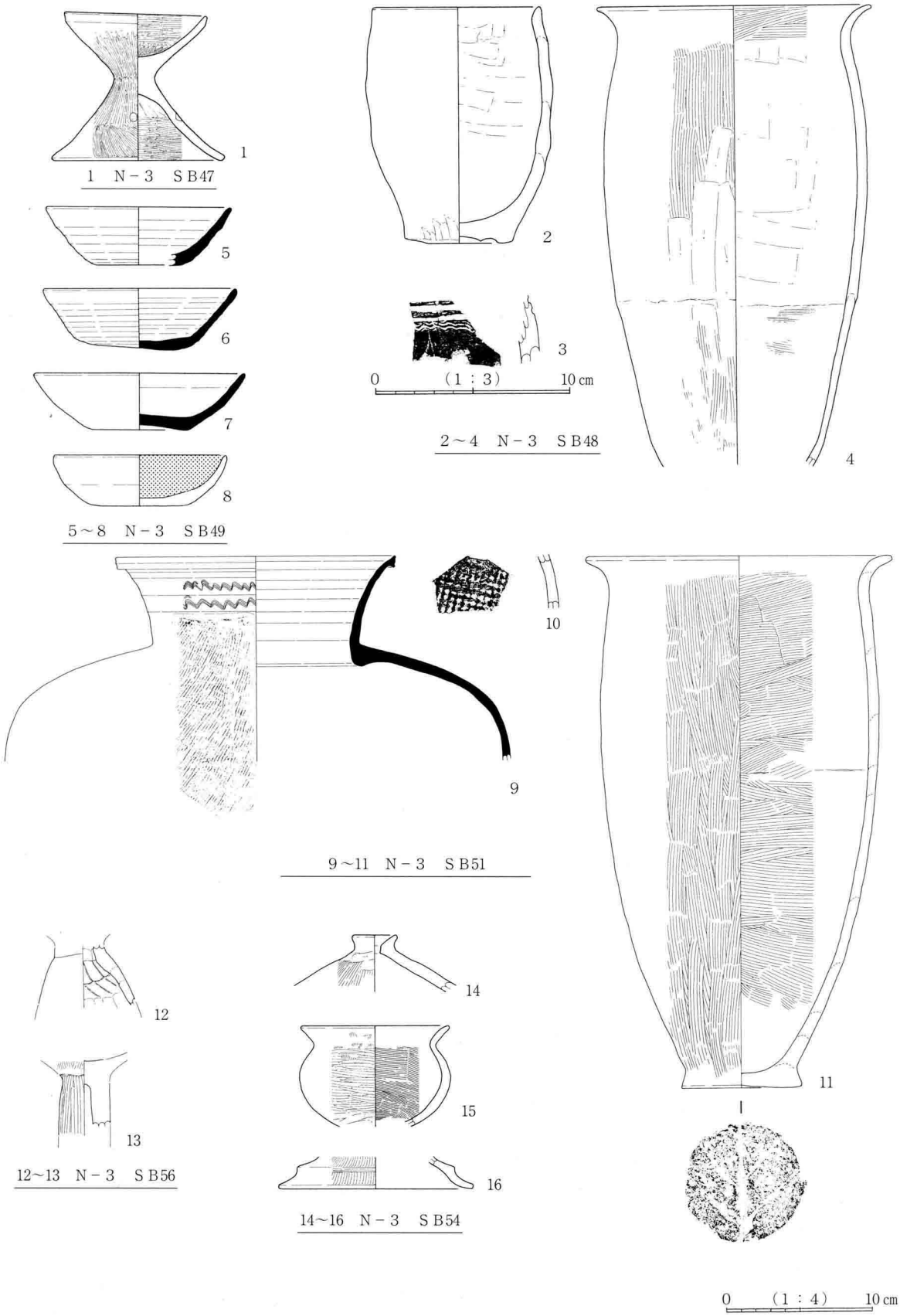


図230　Ⅷ区１次面出土土器実測図③（S＝1／4）　N－３地点

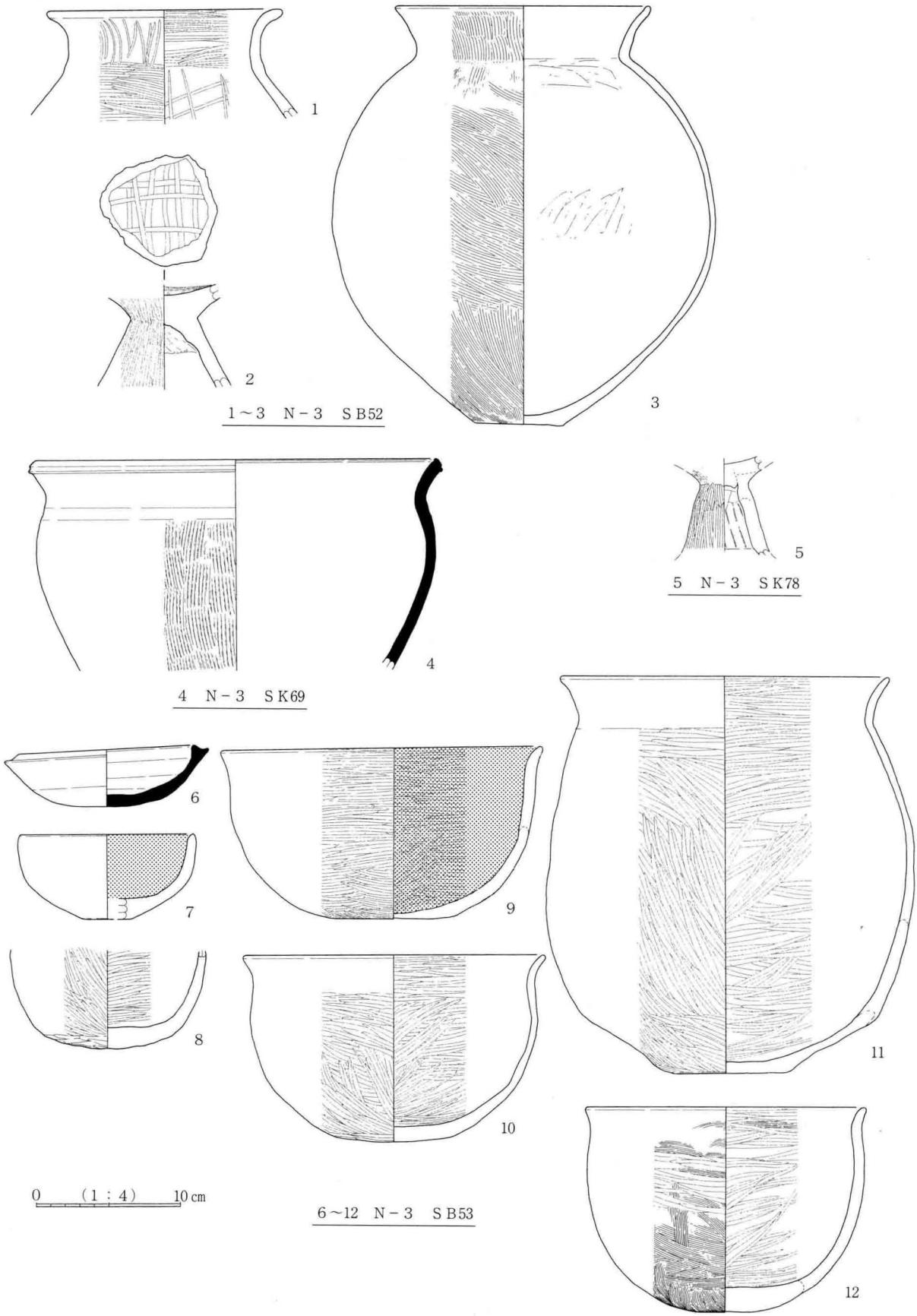


図231　Ⅷ区１次面出土土器実測図④（S＝1／4）　N－３地点

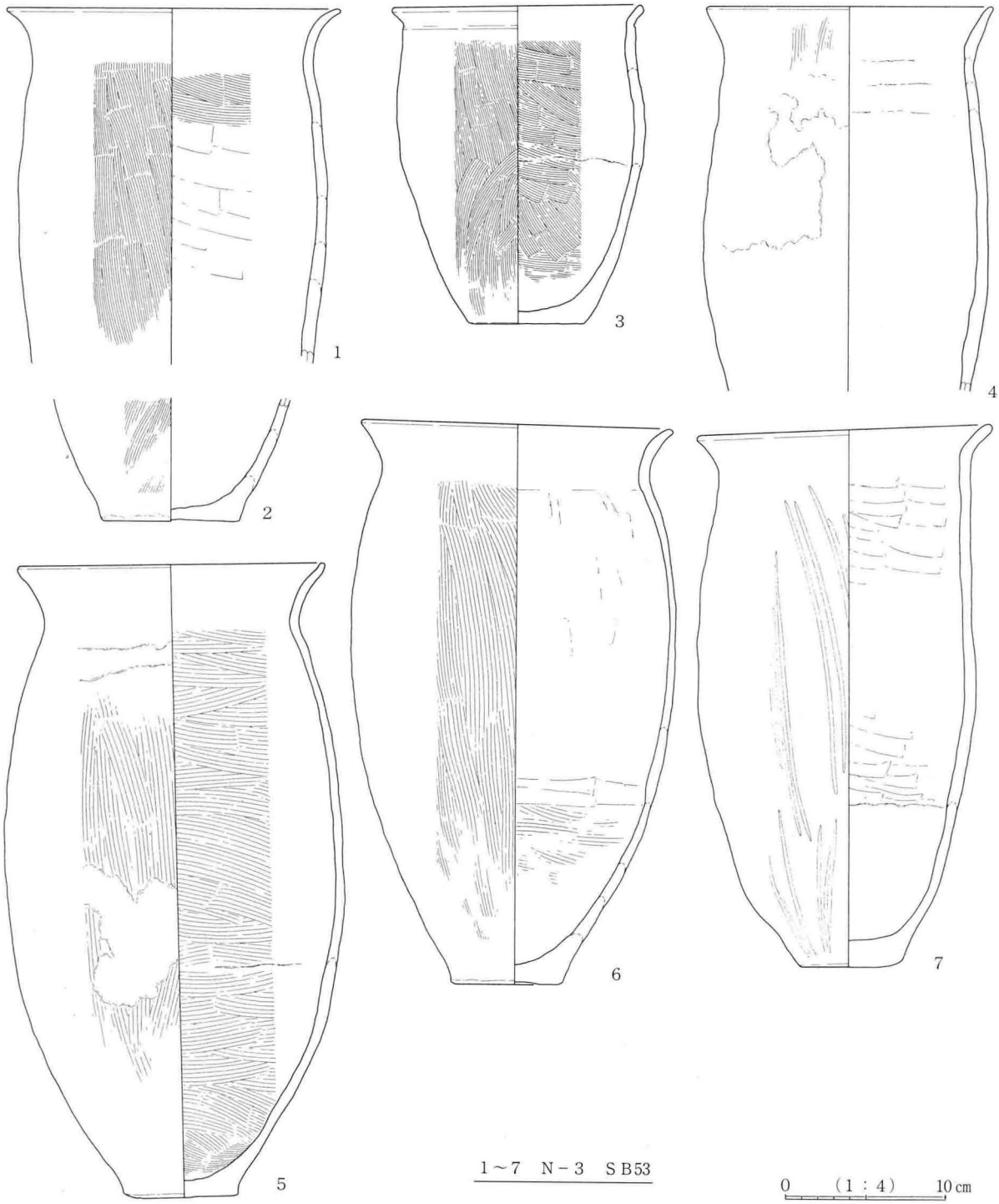


図232　Ⅷ区１次面出土土器実測図⑤（S＝1／4）　N-３地点

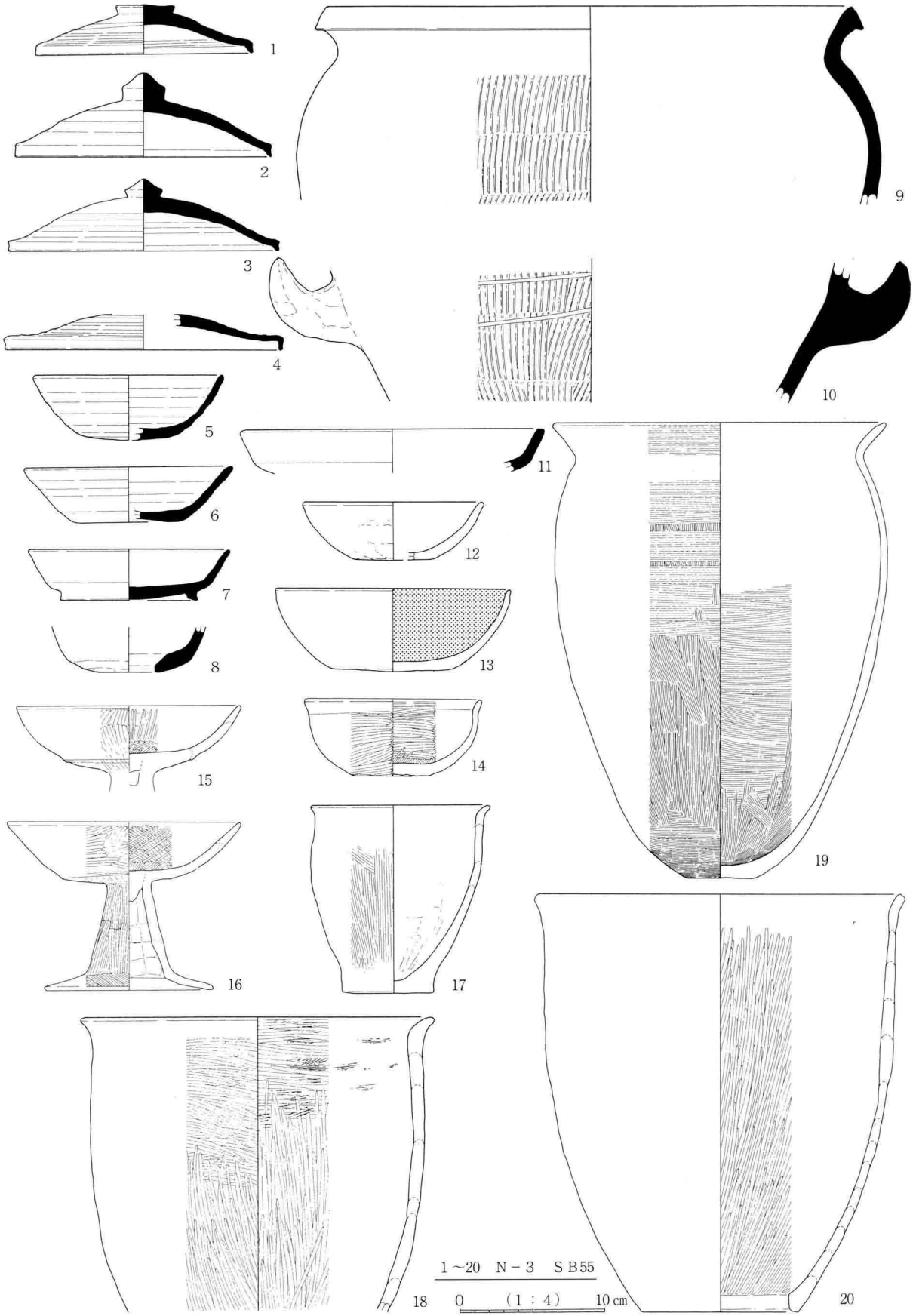


図233　Ⅷ区１次面出土土器実測図⑥（S＝1／4）　N－３地点

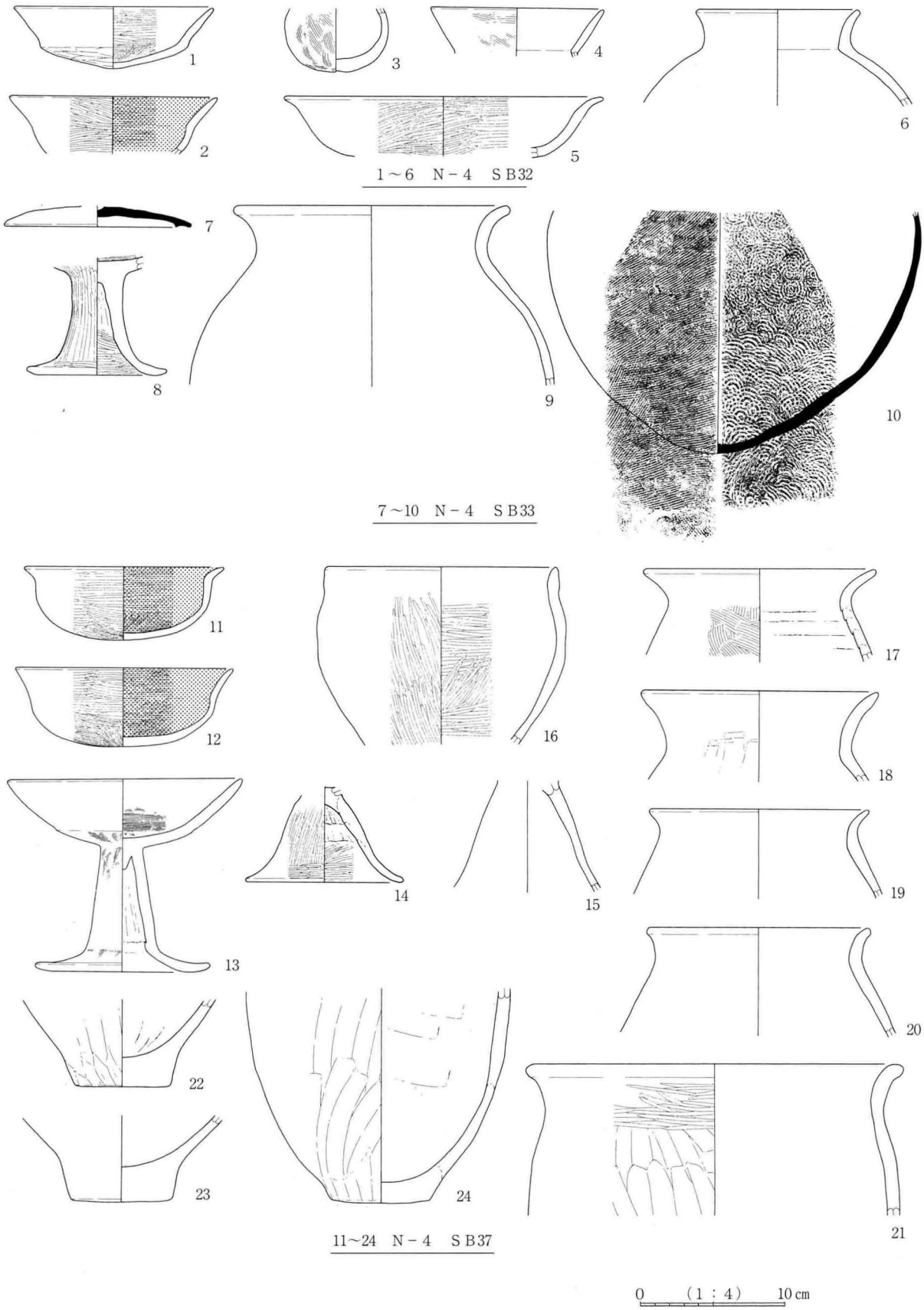


図234　Ⅷ区１次面出土土器実測図⑦（S＝1／4）　N－４地点

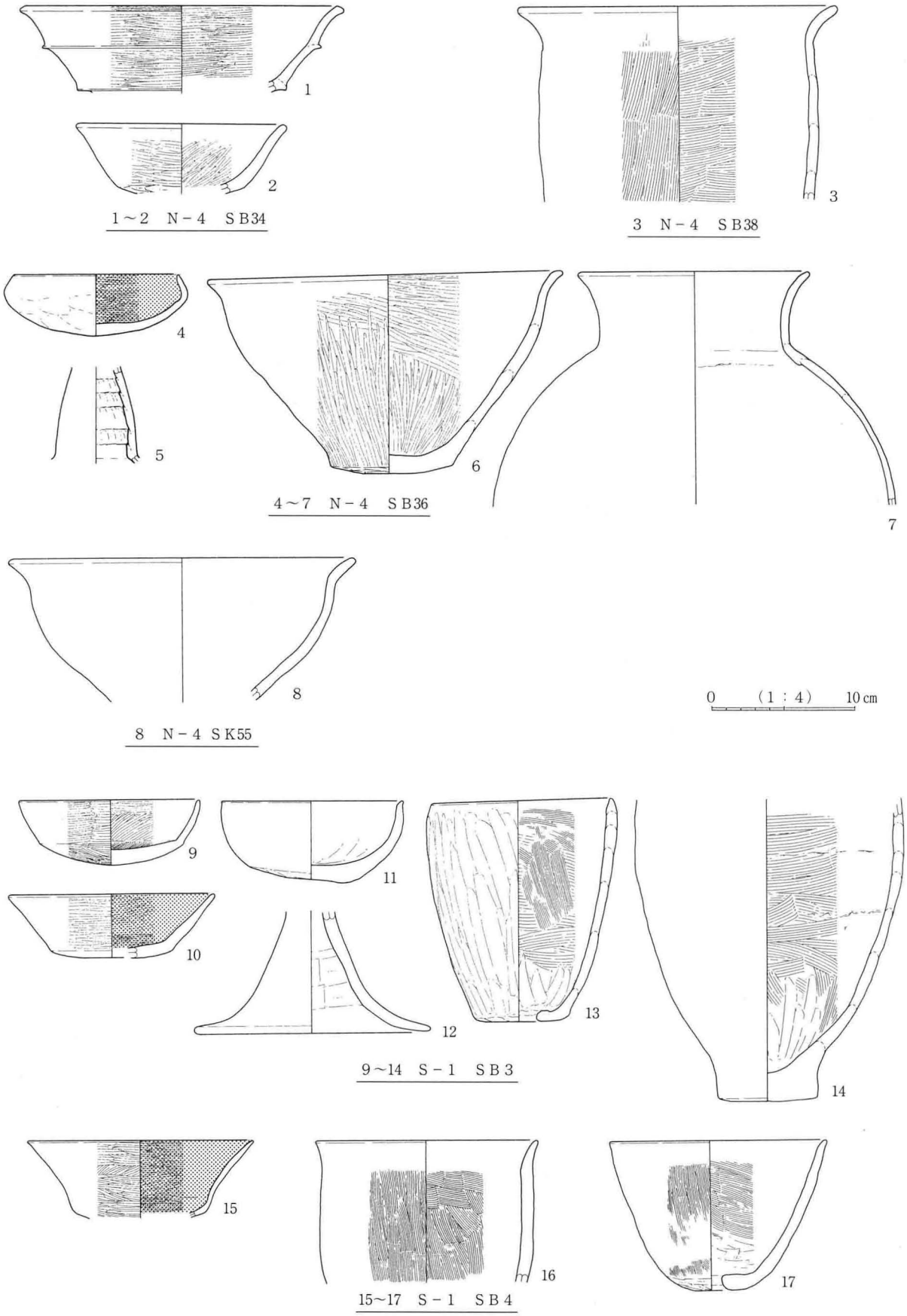


図235　Ⅷ区１次面出土土器実測図⑧（S＝1／4）　N－４・S－１地点

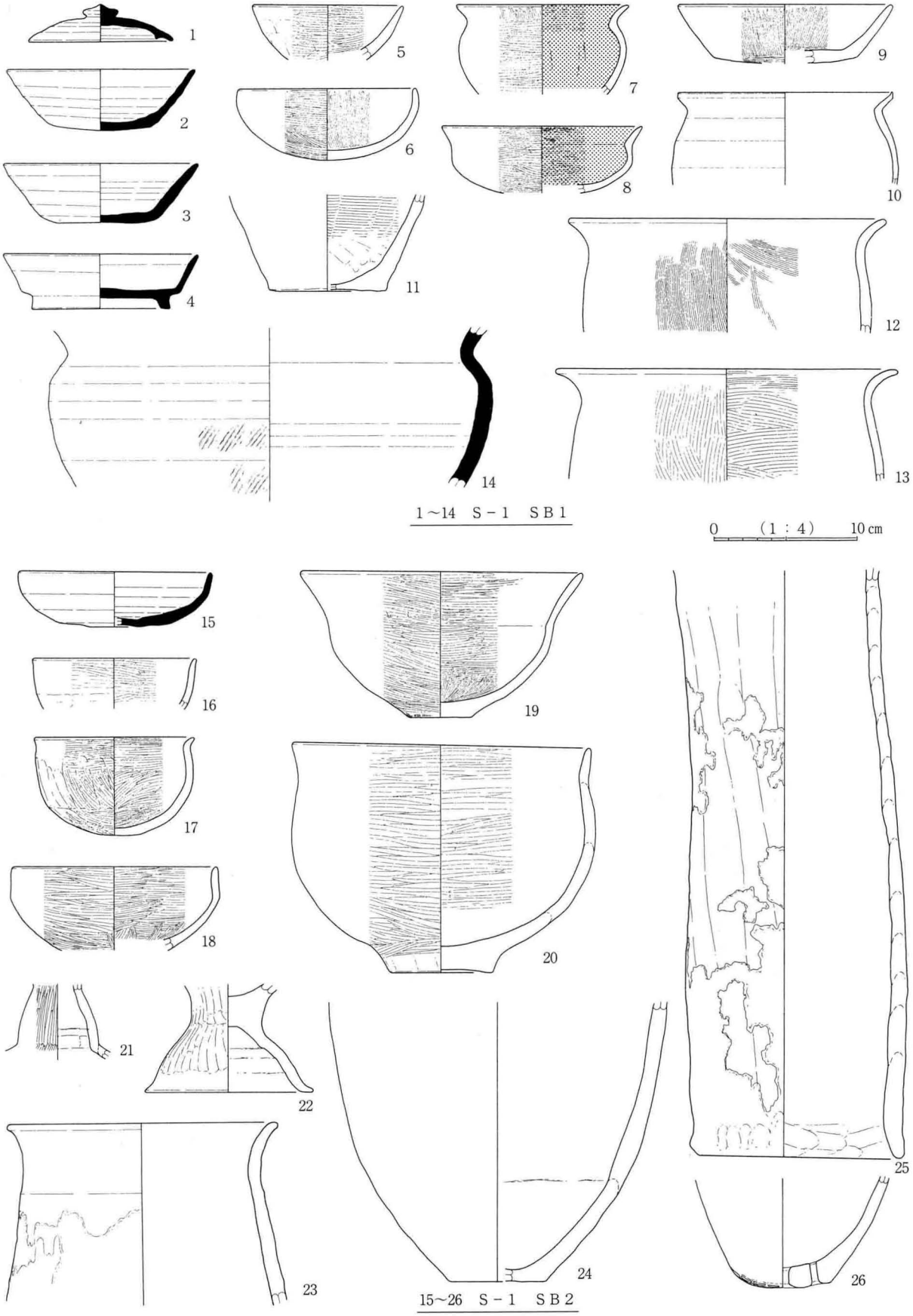


図236　Ⅷ区１次面出土土器実測図⑨（S＝1／4）　S-１地点

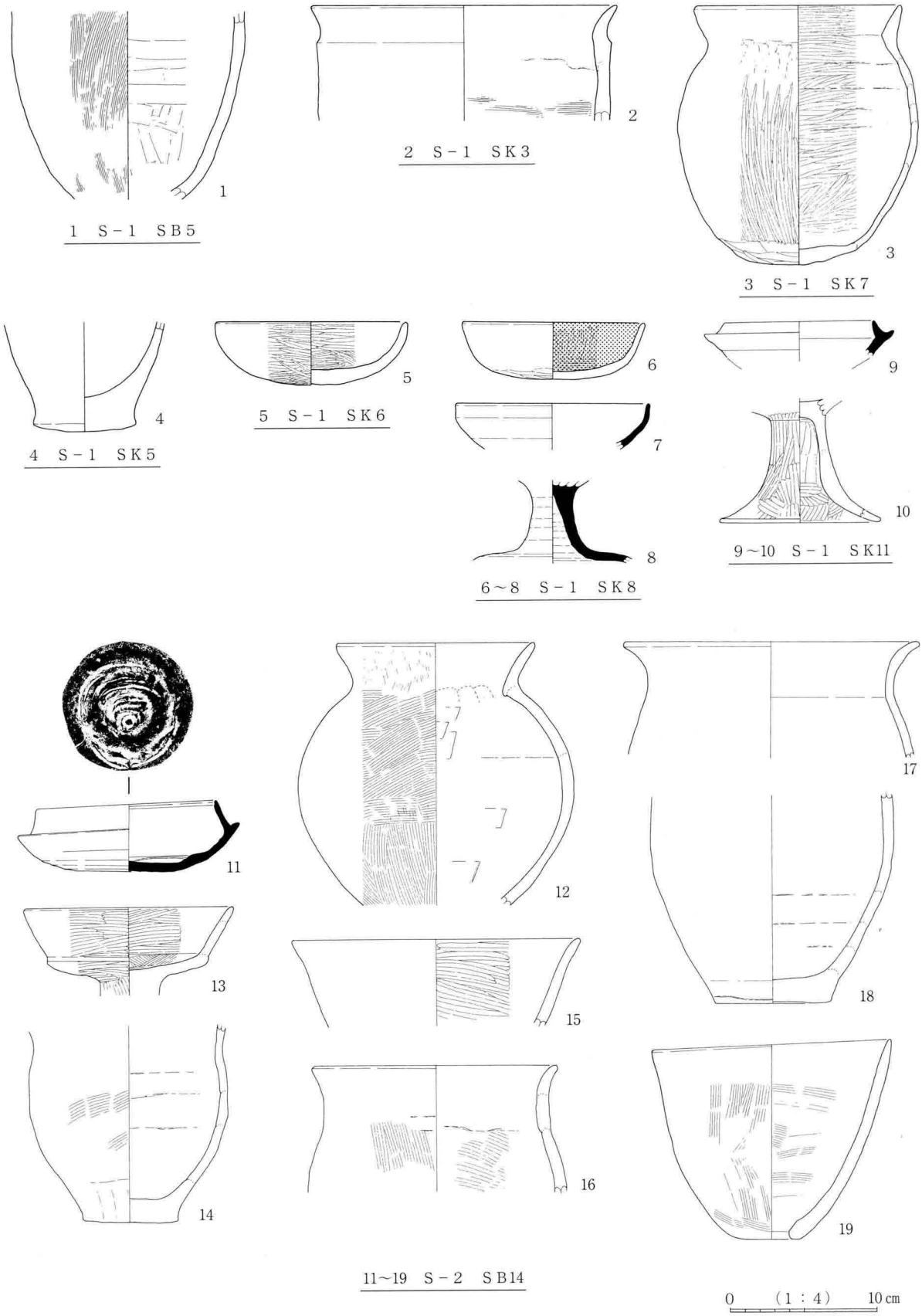


図237 Ⅷ区１次面出土土器実測図⑩（S＝1／4） S-１・S-２地点

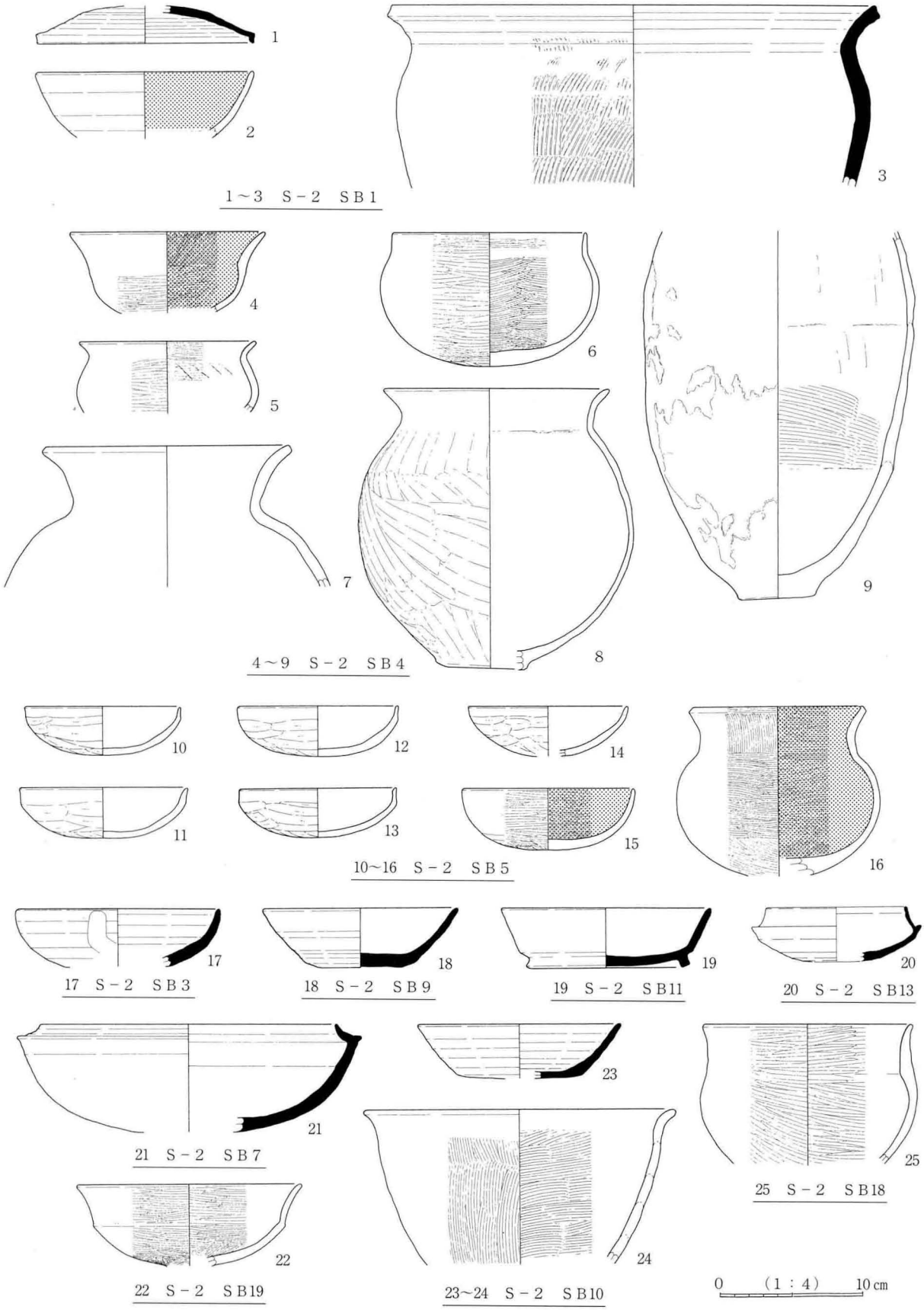


図238 Ⅷ区１次面出土土器実測図⑪（S＝1／4） S-２地点

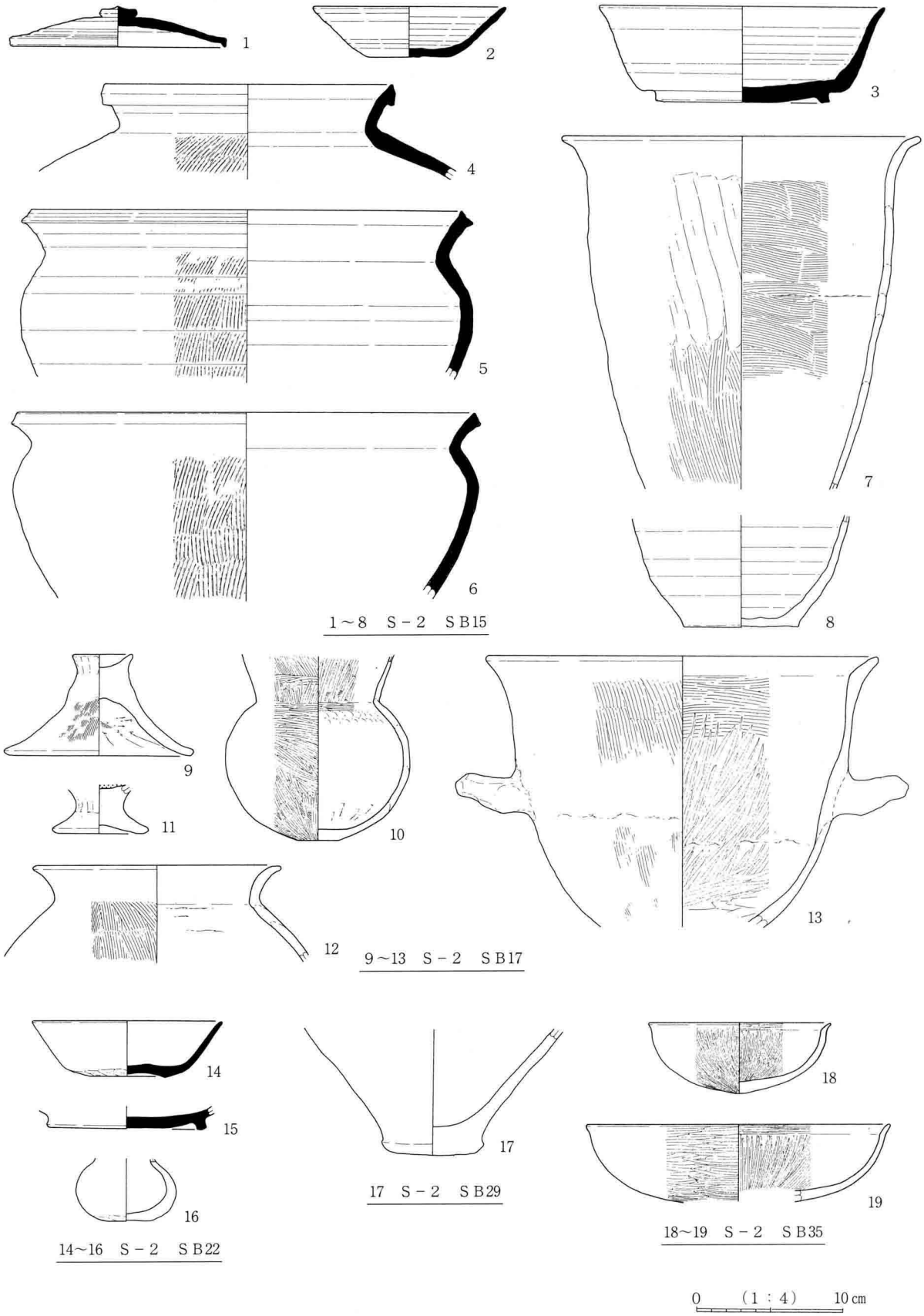


図239　Ⅷ区１次面出土土器実測図⑫（S＝1／4）　S-２地点

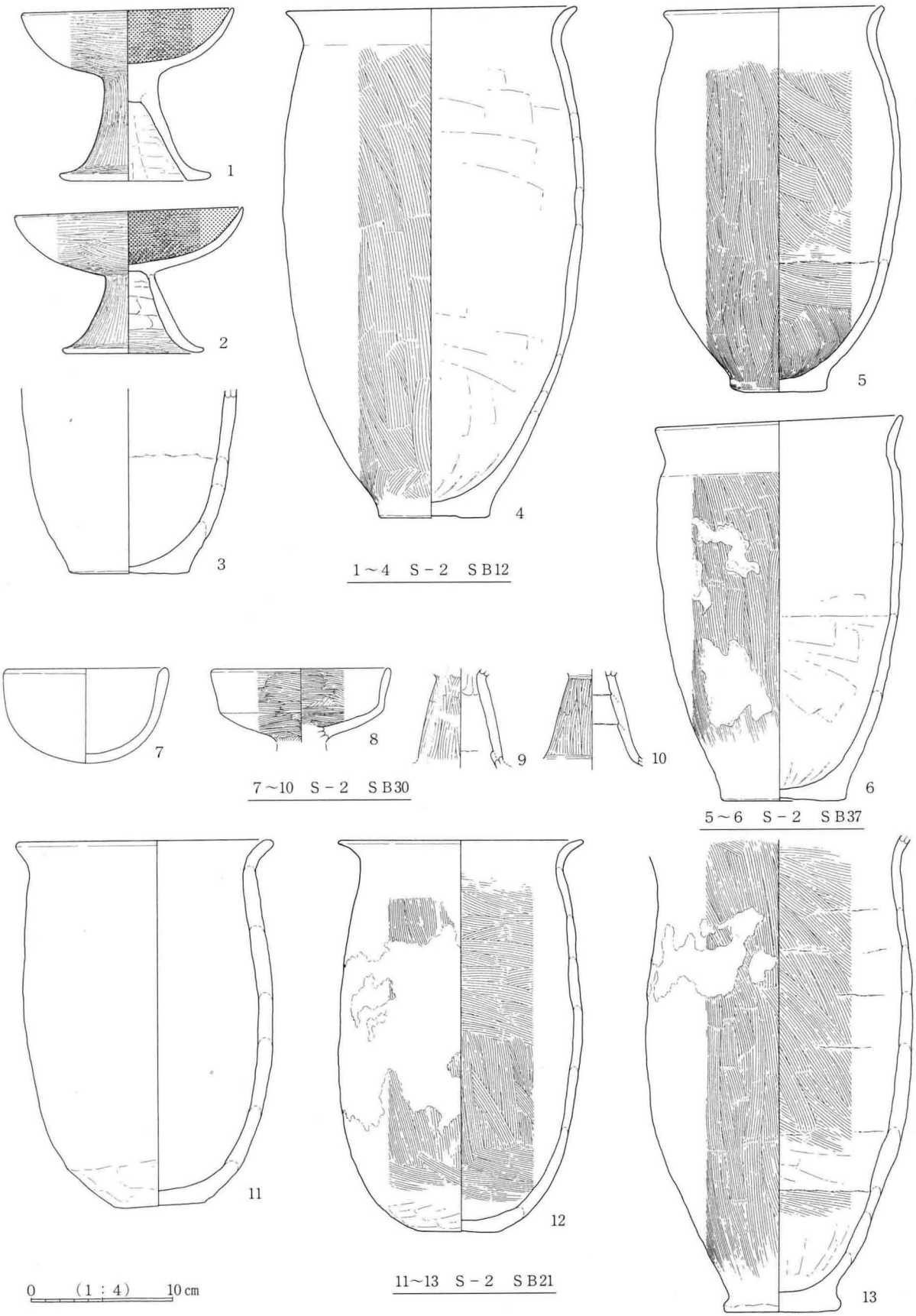


図240　Ⅷ区１次面出土土器実測図⑬（S＝1／4）　S－２地点

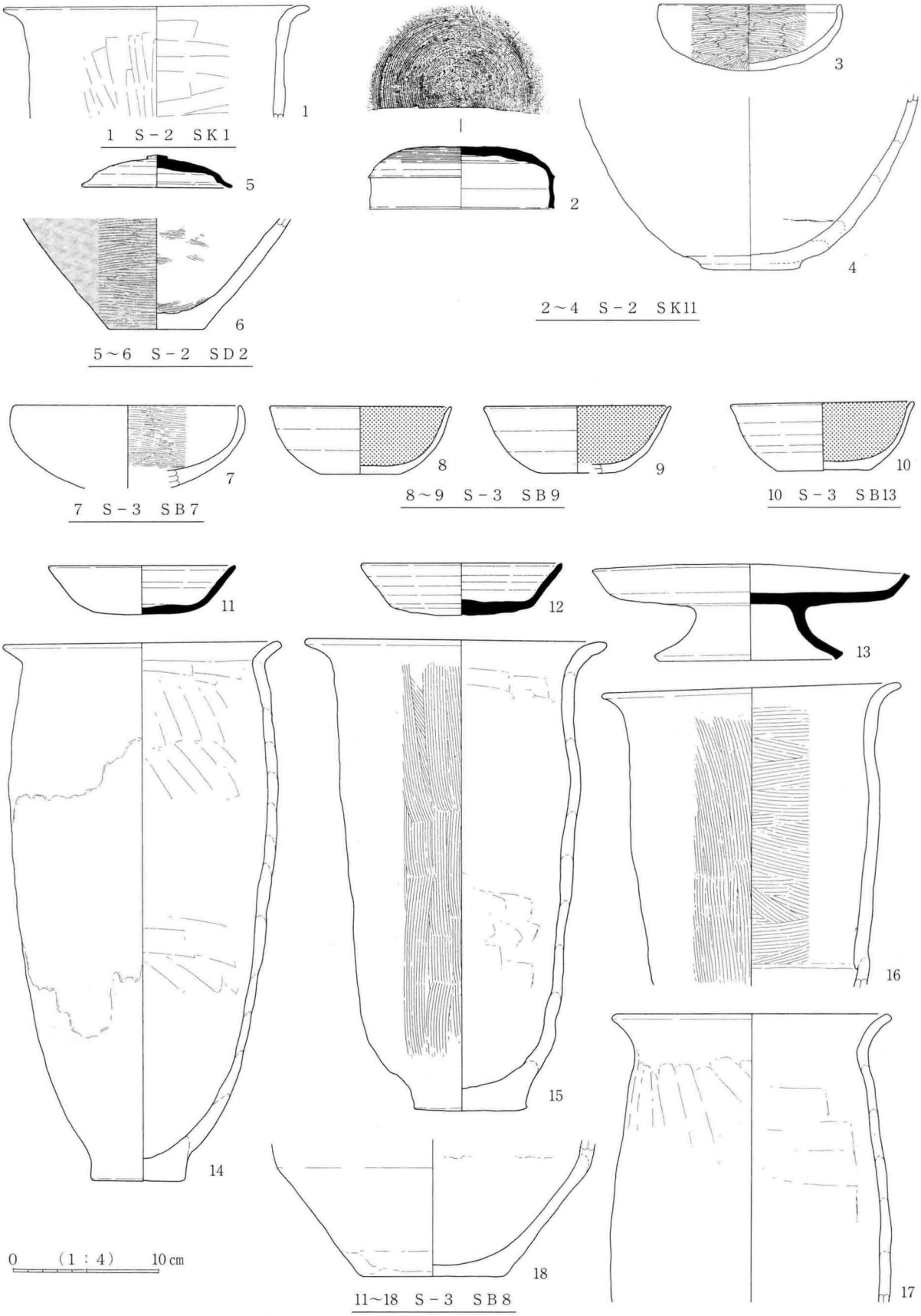


図241 Ⅷ区１次面出土土器実測図⑭（S＝1／4） S-２・S-３地点

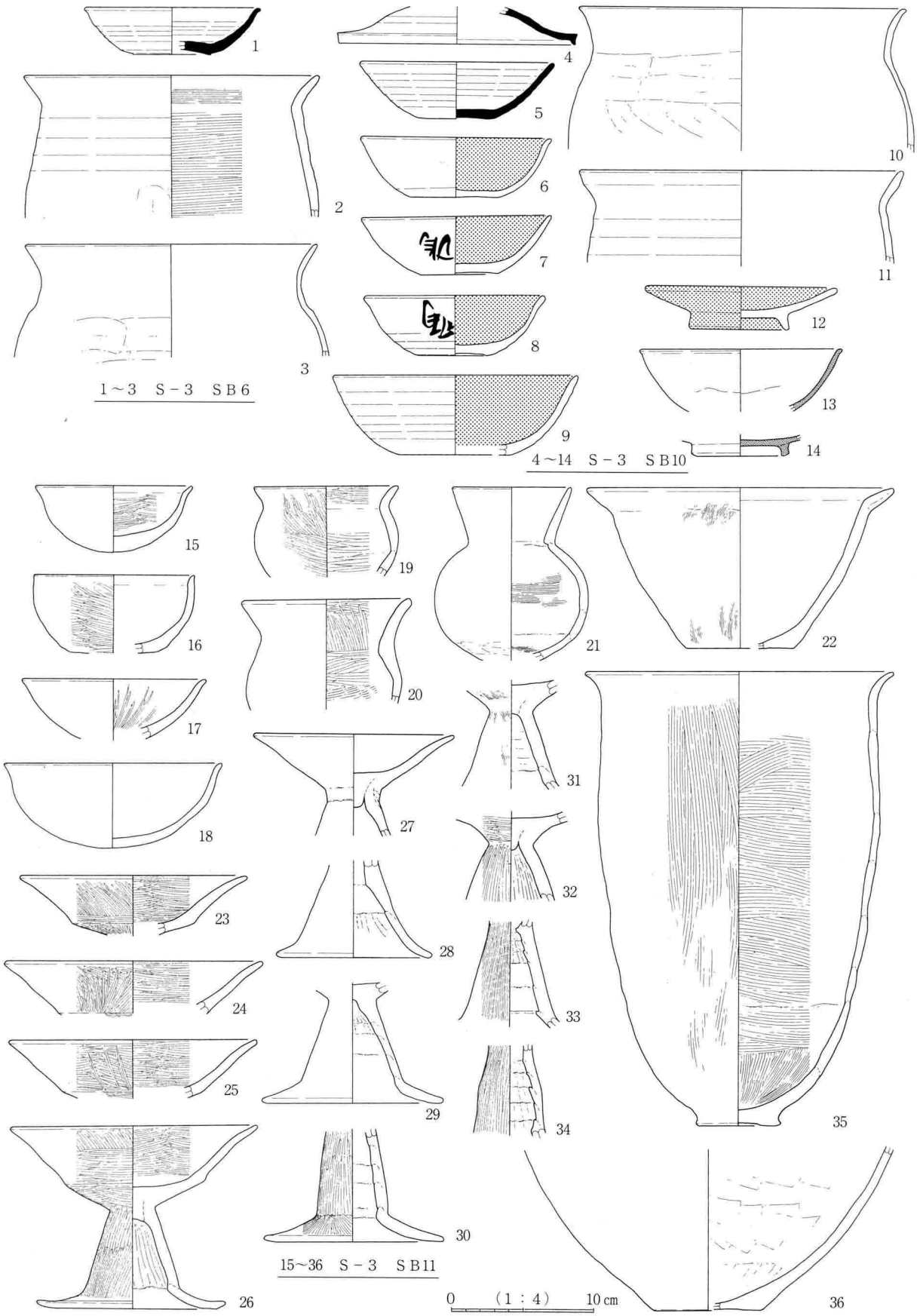


図242　Ⅷ区１次面出土土器実測図⑮（S＝1／4）　S－３地点

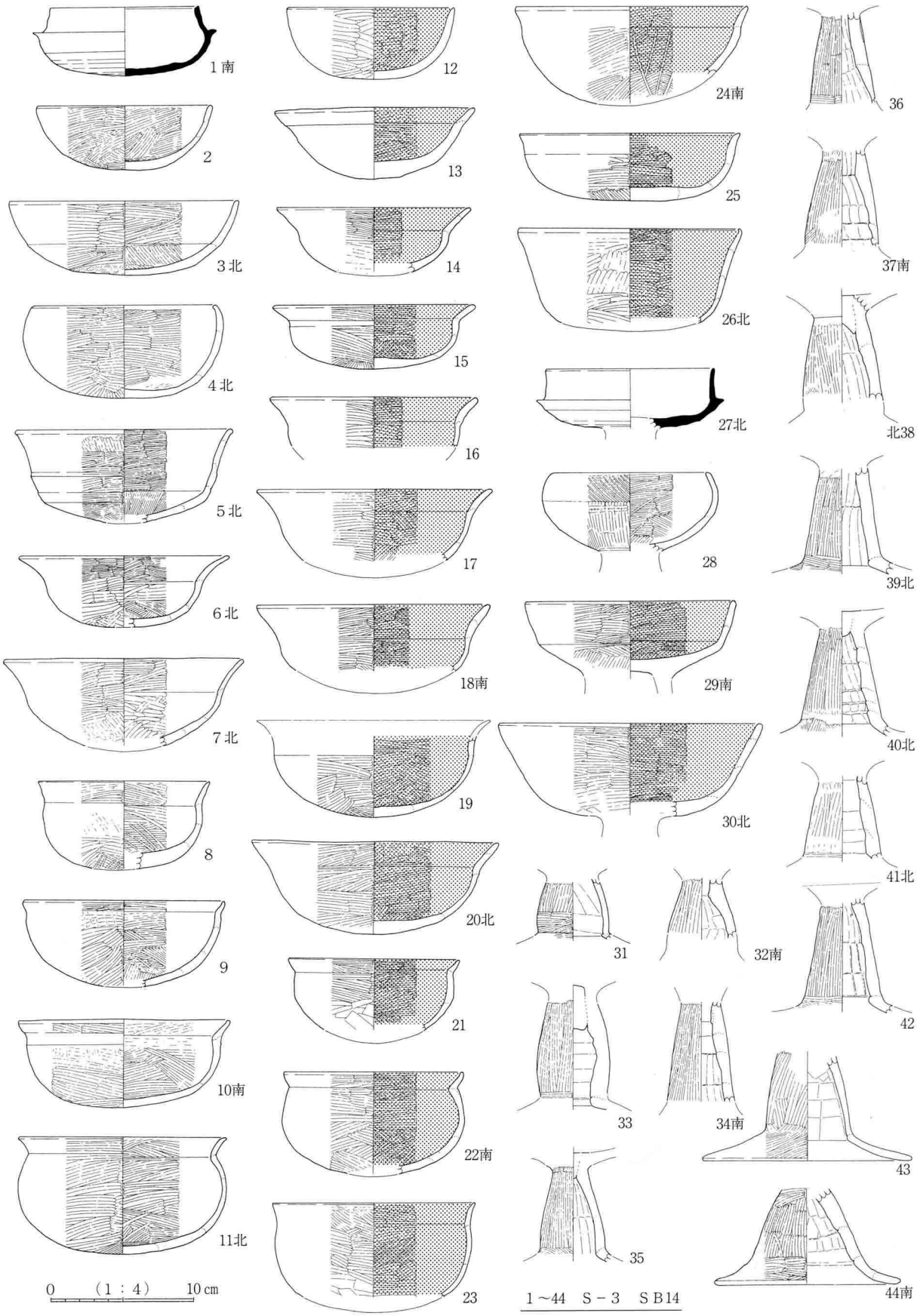


図243 Ⅷ区１次面出土土器実測図⑯（S＝1／4） S-３地点

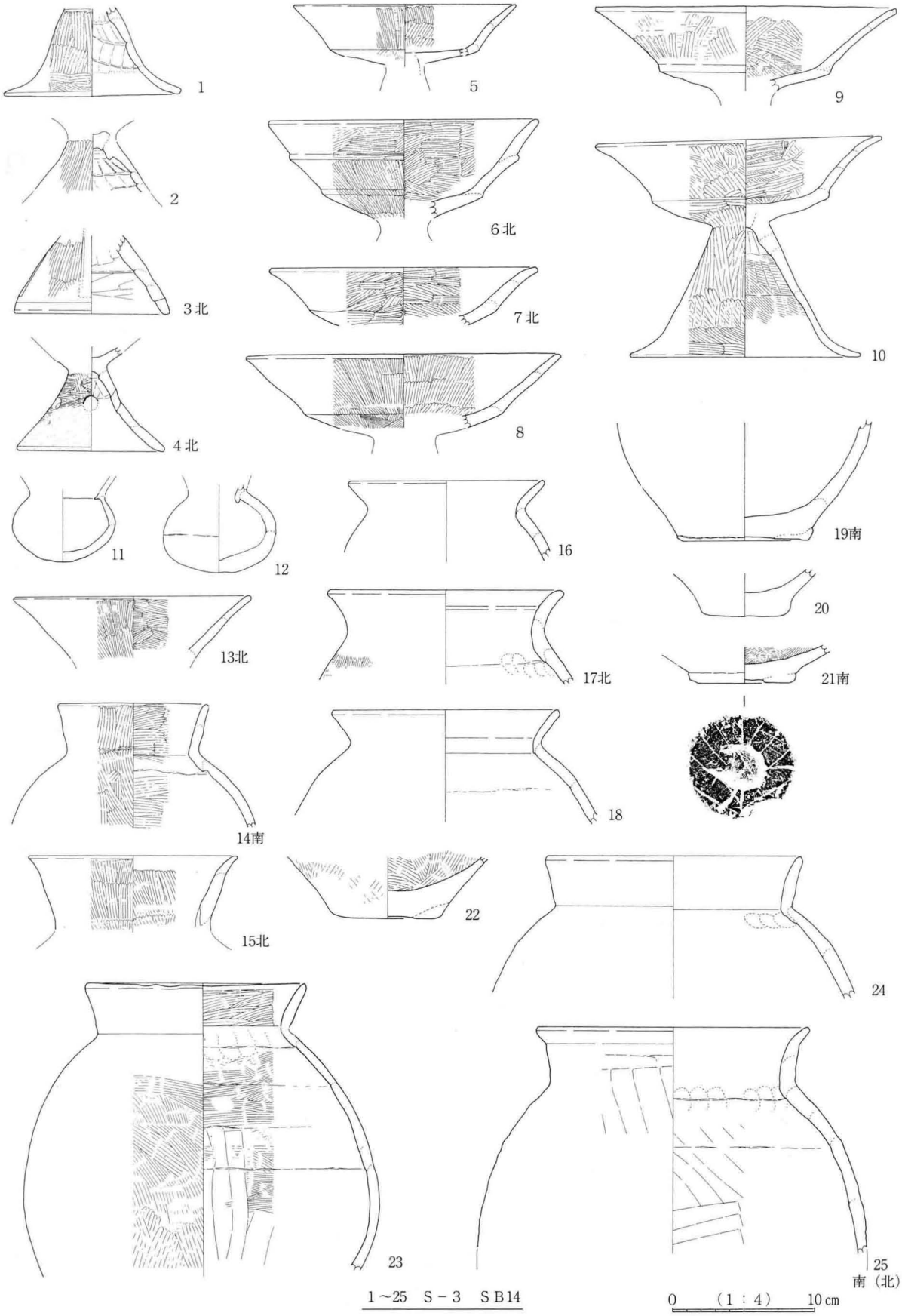


図244　Ⅷ区１次面出土土器実測図⑰（S＝1／4）　S－３地点

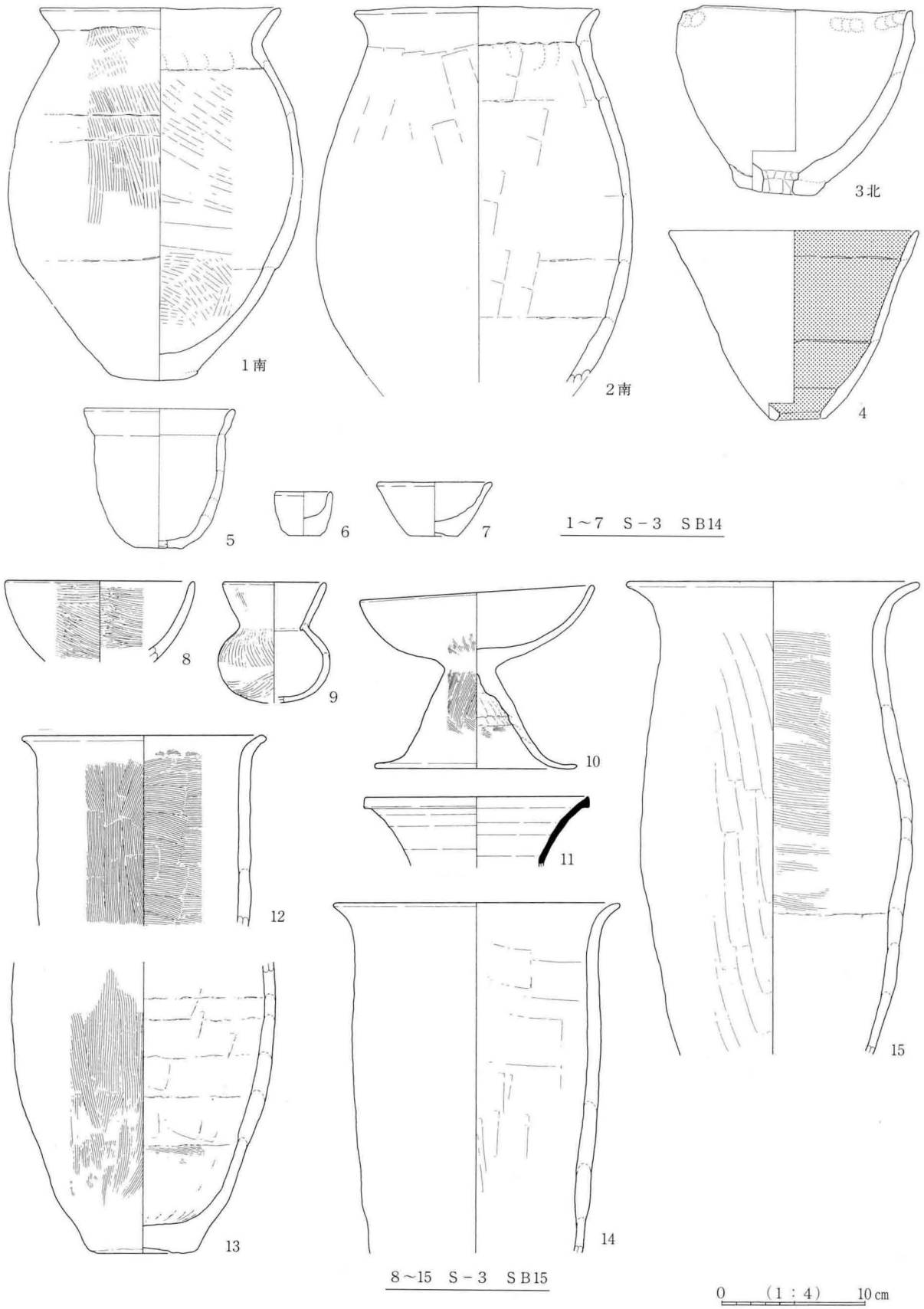


図245　Ⅷ区１次面出土土器実測図⑱（S＝1／4）　S-３地点

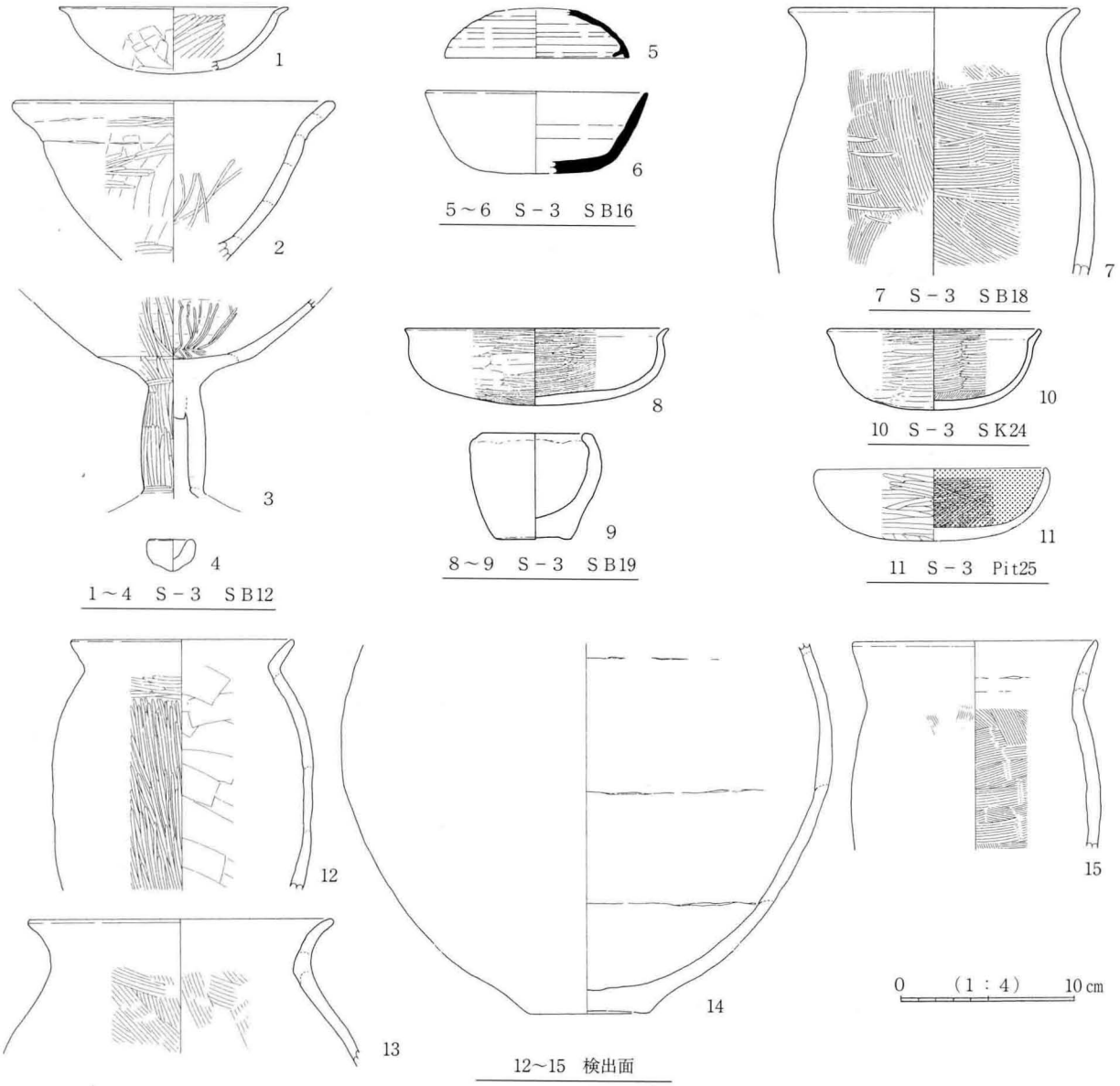


図246　Ⅷ区１次面出土土器実測図⑲（S＝1／4）　S-３地点

2　2次面の調査

写真216　N-１地点全景（西から）

２次面は１次面遺構直下に存在する遺構の確認面で、垂直方向に１次面と連続している。古墳時代中期を主体とするが、１次面調査遺構下に存在する古墳時代後期ならびに奈良時代遺構の調査も実施している。

古墳時代　古墳時代中期の竪穴住居・土坑などが検出されている。１次面調査遺構と合わせると、調査区のほぼ全面に該期住居が展開している。住居主軸は北西-南東方向が大半で、北東-南西方向をとるものが一部みられる。カマド布設住居もみられるが、炉を持つものが比較的多く確認され、炉からカマドへの転換期に位置付けられる。この点、カマド布設住居のみが確認された１次面検出遺構との重複関係にも矛盾しない。

写真217　N-２地点全景（東から）

N-４地点SB57では炉周辺より高杯脚部の転用羽口と鉄滓小片が出土し、鍛冶工房の可能性が考えられる。石川条里遺跡高速道地点では古墳時代前期後半代にすでに鍛冶の存在が確認されているが、一般集落においても該期に鍛冶が導入されている点は注目される。

N-１地点SB23は１次面検出遺構であるが、SB44の調査に伴い貼床を外したところ、直下より滑石製臼玉の集中的出土が確認された。40cm四方の範囲内より臼玉が50点ほど出土し、他に例をみない出土状況であった。SB44床面高とほぼ同じであるが、貼床は確認されず、SB23掘り方内に存在する。また、掘り方内よりも個々単独ながら少なからぬ臼玉の出土がみ

写真218　S-１地点全景（東から）

写真219　S-２地点全景（東から）

写真220　S-３地点全景（西から）

られ、床面構築以前に多量の玉類が使用されたことが確実視される。

S-１地点SB24ではSD24との重複部分の床面直上（SD24覆土最上層直上）から10点の石製模造品有孔円板が臼玉とともに出土している。相互に紐状のもので緊縛された、あるいは何かに釣り下げられた状況ではなく、いずれもが表裏面を上に向けた状態で、一定範囲内より点在して単独で出土している。周辺よりは臼玉が出土しているが、同様に個々に単独出土である。また、SD24の北側延長部付近でも臼玉がまとまって出土しているが、こちらには石製模造品は伴っていない。なお、臼玉は１次面同様に各遺構覆土内より出土している。N-１地点SB23・S-１地点SB24を除き、多くは１次面同様に広く多量に出土している。

地点名	遺構名	時代	重複関係		床面	付属施設	特記事項	備考	遺構図版番号	土器図版番号	写真番号
			先	後	柱穴						
S-3	SB40	古墳	SB42・43		貼床 4	炉（北側柱穴間）	臼玉出土		247	267	240
S-3	SB42	古墳	SB43		貼床 2	カマド（東壁）	臼玉出土 カマド構造不詳	SB42・43は同一住居の可能性が想定され、炉からカマドへの転換期に位置付けられる可能性が高い	247	267	241
S-3	SB43	古墳		SB42	貼床か？ 1	炉 Ｐ１～Ｐ５･Ｐ７	帰属遺構はSB42貼床下で検出		247	266	242
S-3	Pit 36	奈良	SB42・43						247	268	
N-4	SB57	古墳			貼床 3	炉 炉周辺より鉄滓出土	鉄滓および高杯脚部転用羽口出土	床面上に大量の炭散布	248 257 258	260 261	233 234 235 236
S-3	SB41	古墳			貼床 2		北西壁に焼土分布	勾玉・臼玉出土	248 256	265 266	231 232
S-3	Pit 25	古墳							248	268	
S-2	SB12	古墳	SB36		脆弱 1	カマド残欠 （調査区際で火床）	１次面SB14と合致し、同一遺構（掘り方）の可能性あり	臼玉出土 床面下より土器と柱状の石材が出土	249 255	263	229 230
N-3	SB53	古墳	SB15		硬化面 2	カマド（北壁）	S-２地点SB10と同一遺構	１次面SB53と同一住居	250	231 232	
S-2	SB10	古墳			硬化面 なし		N-３地点SB53と同一遺構	確認深度は極めて浅い	250	263	
N-3	SB15	古墳		SB53	脆弱 なし				250	259	
N-3	SB13	古墳		SB14	脆弱 なし	炉 北側焼土が炉、南側は焼土分布	出土破片資料は古墳時代が主体を占め、該期と判断される。掲載遺物は１次面SB55に属し、SB55出土として掲載した土器のうち、古墳時代土器が当住居に伴う可能性が高いと考えられる		250 251	259	227
N-3	SK34	奈良か	SB13					SB13上面で検出	250	260	
S-2	SB36	古墳	SB12	SB23	硬化面 なし		床面上広範囲に炭散布	１次面で調査を実施したが、遺構図は２次面に掲載	250	264	239
S-2	SB11	古墳			確認されず なし			２次面調査遺構で、SB36掘り方に該当する	250	263	
S-2	SB23	古墳	SB36		硬化面 なし			１次面で確認されたが、プラン未確定で２次面SB09として確認	250		
S-2	SB09	古墳			確認されず なし			SB23と同一住居	250	263	
S-2	SK26	奈良	SB23					１次面で確認	250	264	
S-2	SK29	古墳							250	264	
N-3	SB14	古墳			脆弱 なし		S-２地点SK01と同一遺構	住居跡角部として調査したが方形土坑と判明	251		
S-2	SK01	古墳			脆弱 なし		N-３地点SB14と同一遺構 土器群と臼玉が出土	１次面SB10･11によって破壊され、遺構プランは不明瞭	251	264	

地点名	遺構名	時代	重複関係		床面	付属施設	特記事項	備考	遺構図版番号	土器図版番号	写真番号
			先	後	柱穴						
N-3	SK32	古墳		SK33			不整方形土坑		251	260	
N-3	SK42	古墳							251	260	
S-2	SB04	古墳か		SB02・03	なし 2	北壁付近に焼土分布 煙道状部分は不明瞭	掘り方のみ確認 臼玉出土		251		
S-2	SB03	古墳か	SB04	SB02	なし なし	北壁に焼土分布	掘り方のみ確認 臼玉出土		251		
S-2	SB02	古墳か	SB03・04		貼床 3		南壁際に焼土あり		251		
N-2	SB46	古墳		SB30(1)	硬化面 3	炉？ （北東側に焼土）	S-2地点SB01と同一遺構		252	259	225
S-2	SB01	古墳			貼床（一部） 1	壁溝	N-2地点SB46と同一遺構		252	263	
S-2	SB05	古墳か		SB06	脆弱 1	炉か？	焼土塊・炭の散布あり	臼玉出土	252		
S-2	SH04	古墳か	SB01		SK08で確認		SK07～10の4基の土坑配列により想定されるが、SK08以外では柱穴は確認されず		252		
S-2	SK11	古墳			平坦 なし		楕円形土坑	SH04とは別遺構	252	241	
N-2	SH02	古墳後期以前		SH03	各掘方内で確認		柱穴4より構成	遺物の出土はないが、SB29下で検出されたことにより時期が推定される	253		226
N-2	SH03	古墳後期以前	SH02				柱穴2で全体形不明	SH02同様、SB29下で検出	253		226
S-1	SB26	奈良			硬化面 2	カマド（北壁）	南側柱穴は検出されず	古墳時代土器の混入あり	253	262	228
S-1	SB27	古墳		SB33	脆弱 なし			確認深度は浅く、詳細不明	253 254	262	
N-1	SB44	古墳		SB23 （1次面）	脆弱 なし		北壁は調査区外、西壁は不明確	臼玉出土	254	259	221
N-1	SB23	古墳					床面直下より勾玉1と臼玉が集中的に出土	1次面SB23の継続調査	254		221 222
S-1	SB33	古墳	SB27		硬化面 2	検出されず	床面上より多量の炭化材・焼土検出　臼玉出土	中央部土坑は別遺構	254	262	237
S-1	SB28	古墳			硬化面 なし	カマド（西壁） （煙道のみ確認）	SB32との重複関係は明確に把握できなかった	臼玉出土	254	262	238
S-1	SB32	古墳			脆弱 なし		SB28との重複関係は明確に把握できなかった	臼玉出土　N-1地点で確認されず、住居跡である可能性低い	254	263	
S-1	SB25	古墳か	SB34		貼床 1	カマド残欠？（東壁） 焼土が広く散布	上面SB04と同一遺構の可能性が高い		254	262	
S-1	SB34	古墳		SB25	脆弱 なし		管玉・臼玉出土	SB24調査後に確認。検出状況は極めて不明瞭でSB24と同一住居の可能性もあり	254	263	
S-1	SB24	古墳	(SB34)		硬化面 なし		石製模造品(有孔円板)・臼玉が多量にし出土	西側壁が明瞭に確認されず、プランは不明。床面高はSB34とほぼ同じで、同一遺構か	254	262	223 224
S-1	SD24	古墳か		SB24	平坦		覆土上面のSB24床面～直上レベルで多量の有孔円板・臼玉が溝内に落ち込む様に出土。SB24に帰属。		254		223
S-1	SK100	古墳			平坦 なし		SB24に伴う可能性あり		254	263	

表20　Ⅷ区2次面主要検出遺構一覧表

写真221　N- 1 地点 SB44・SB23（SB23の土中は玉類）

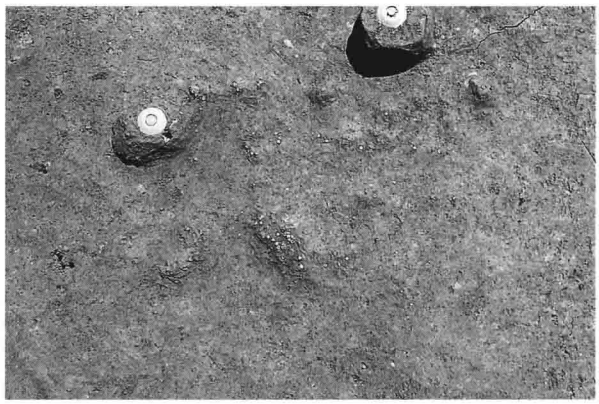


写真222　N- 1 地点ＳＢ23臼玉出土状況

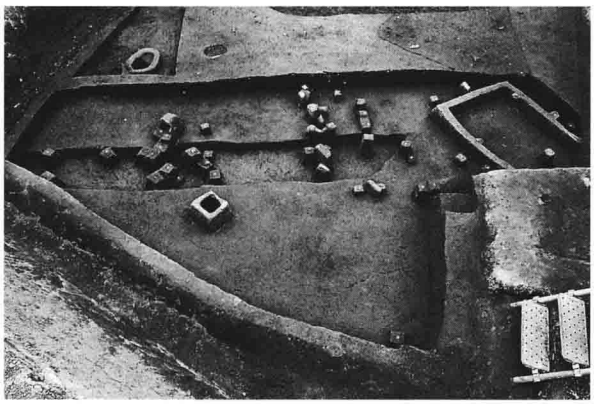


写真223　S- 1 地点ＳＢ24（土柱は石製模造品・玉類）

写真224　S- 1 地点ＳＢ24石製模造品出土状況

写真225　N- 2 地点ＳＢ46

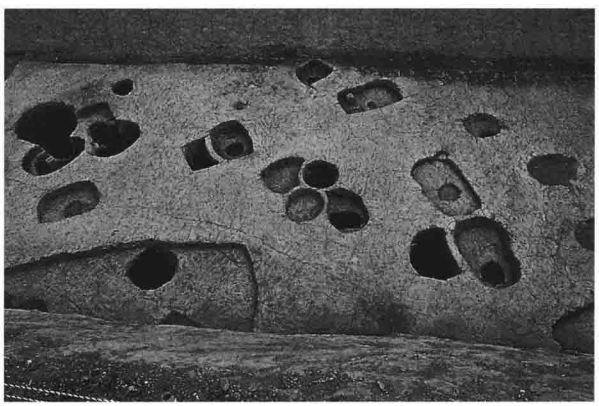


写真226　N- 2 地点ＳＨ02

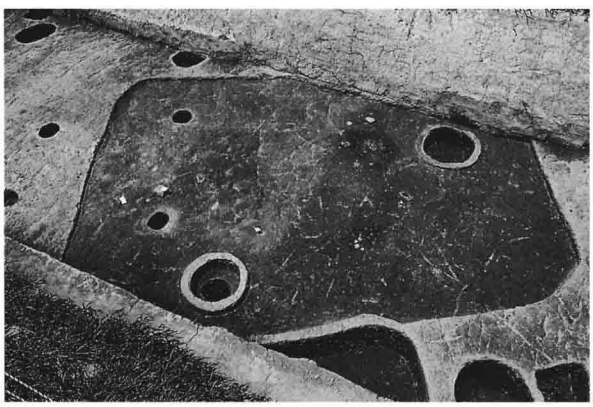


写真227　N- 3 地点ＳＢ13

写真228　S- 1 地点ＳＢ26

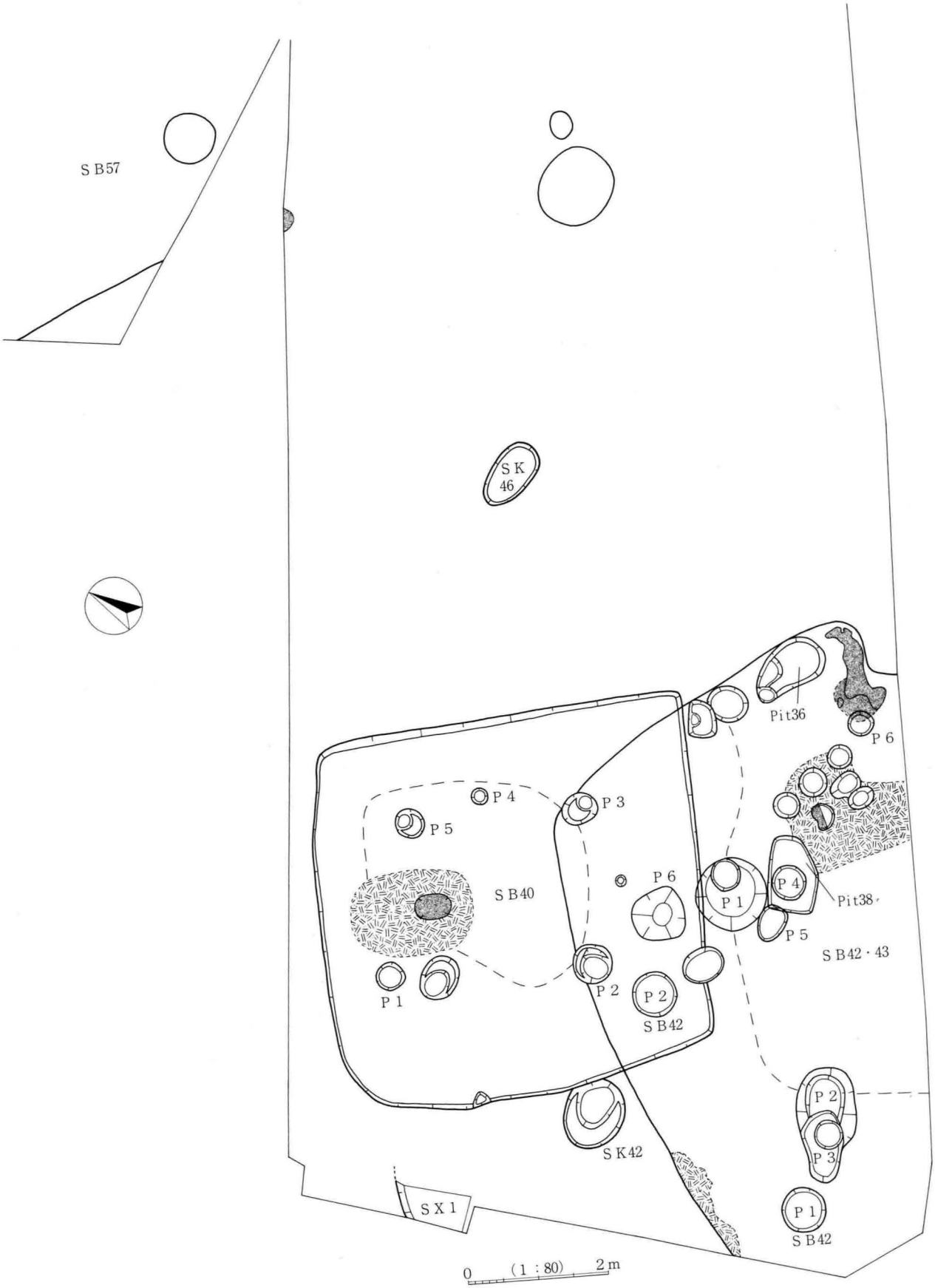


図247　Ⅷ区２次面遺構実測図①（S＝1/80）　S-３区

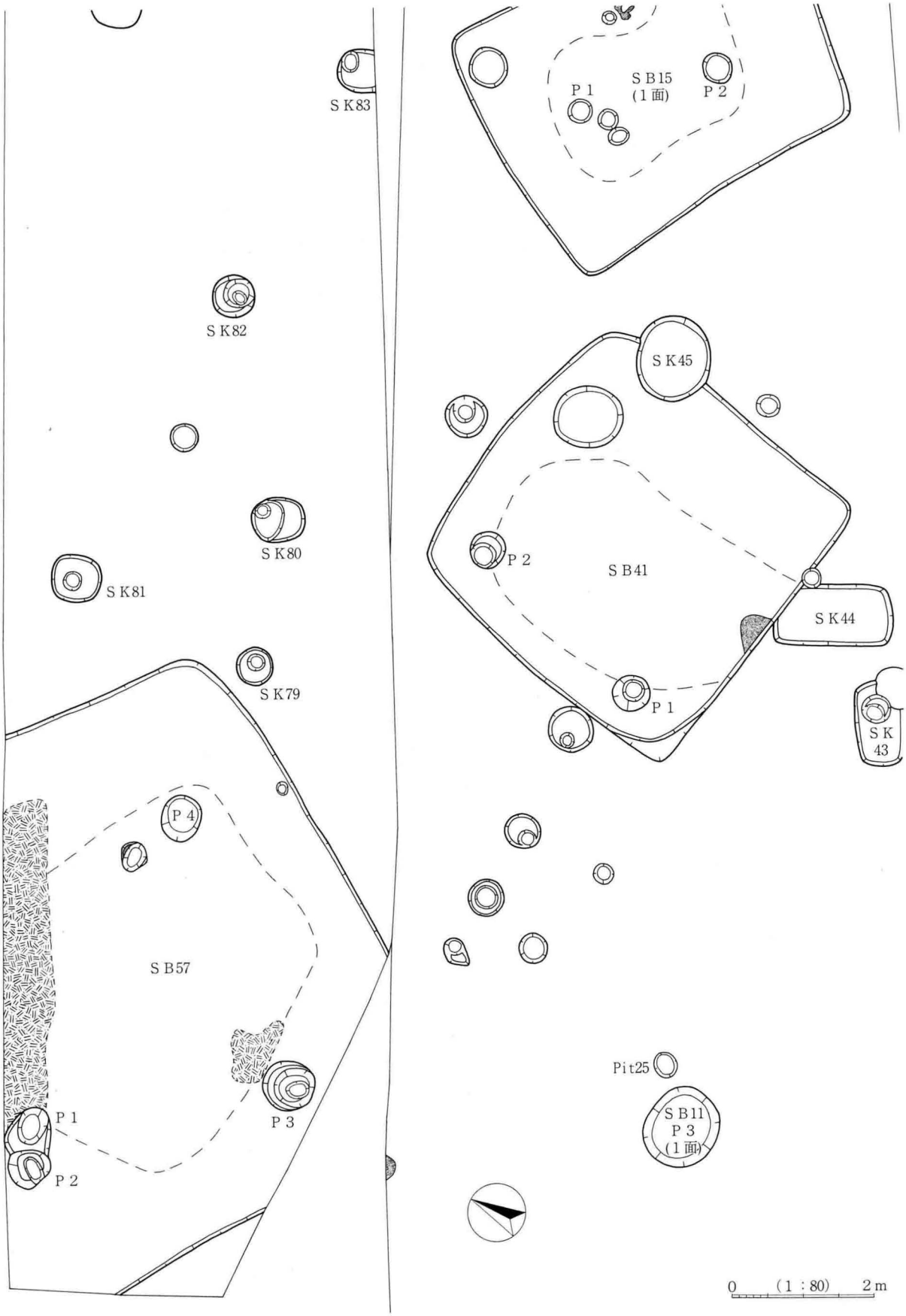


図248　Ⅷ区２次面遺構実測図②（S＝1/80）　N-４・S-３区

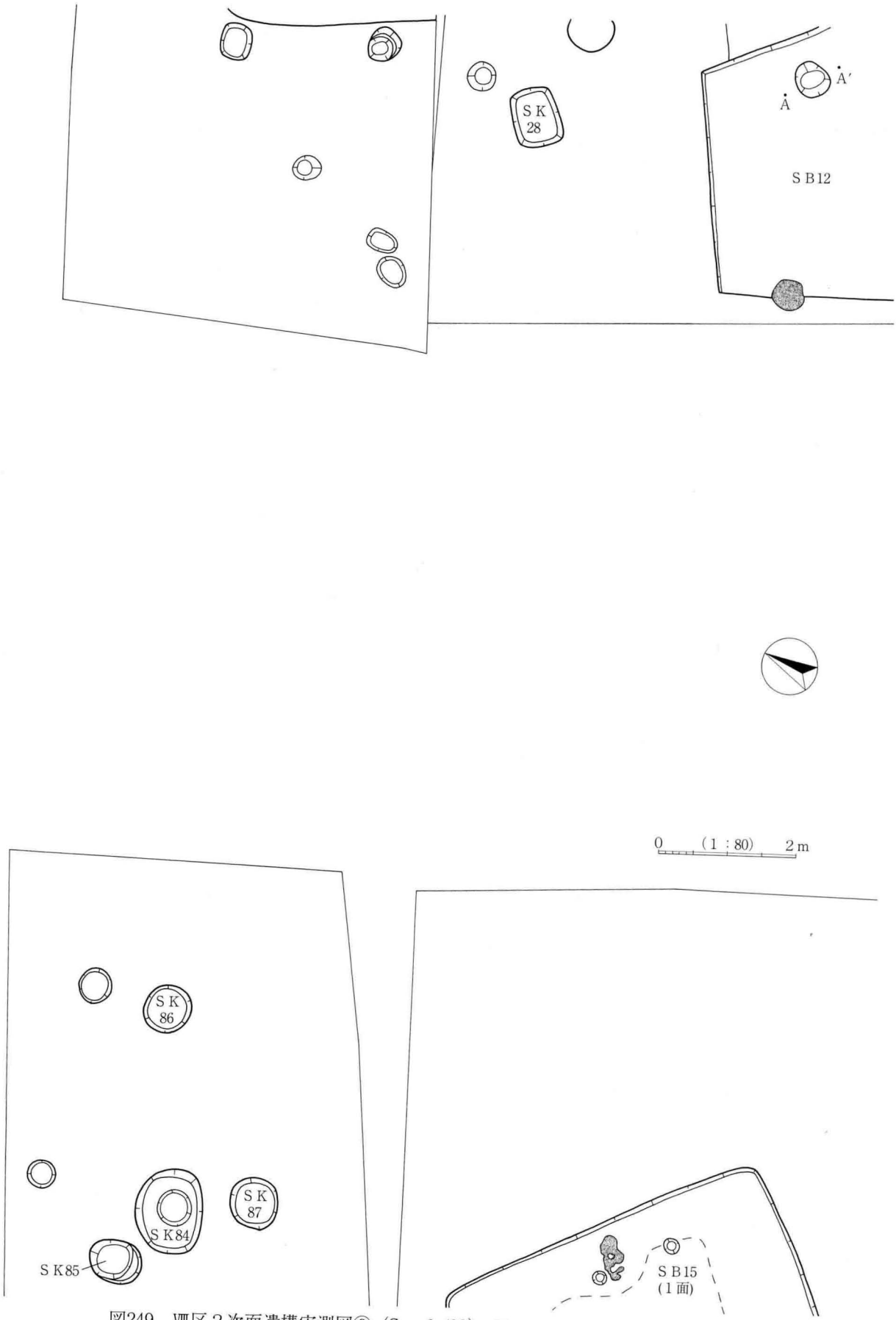


図249　Ⅷ区２次面遺構実測図③（S＝1/80）　N-４・N-３・S-３・S-２区

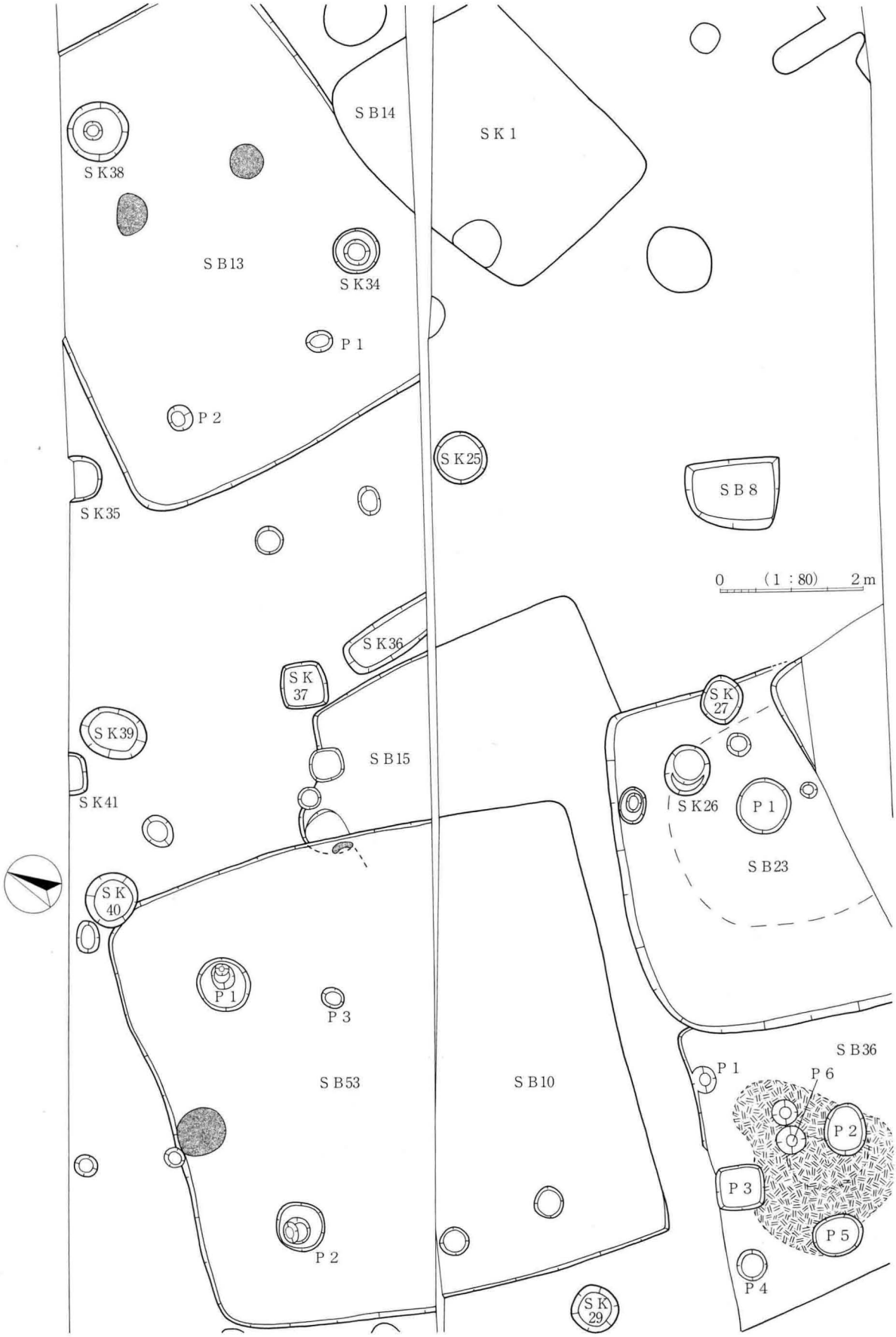


図250　Ⅷ区２次面遺構実測図④（S＝1/80）　N-３・S-２区

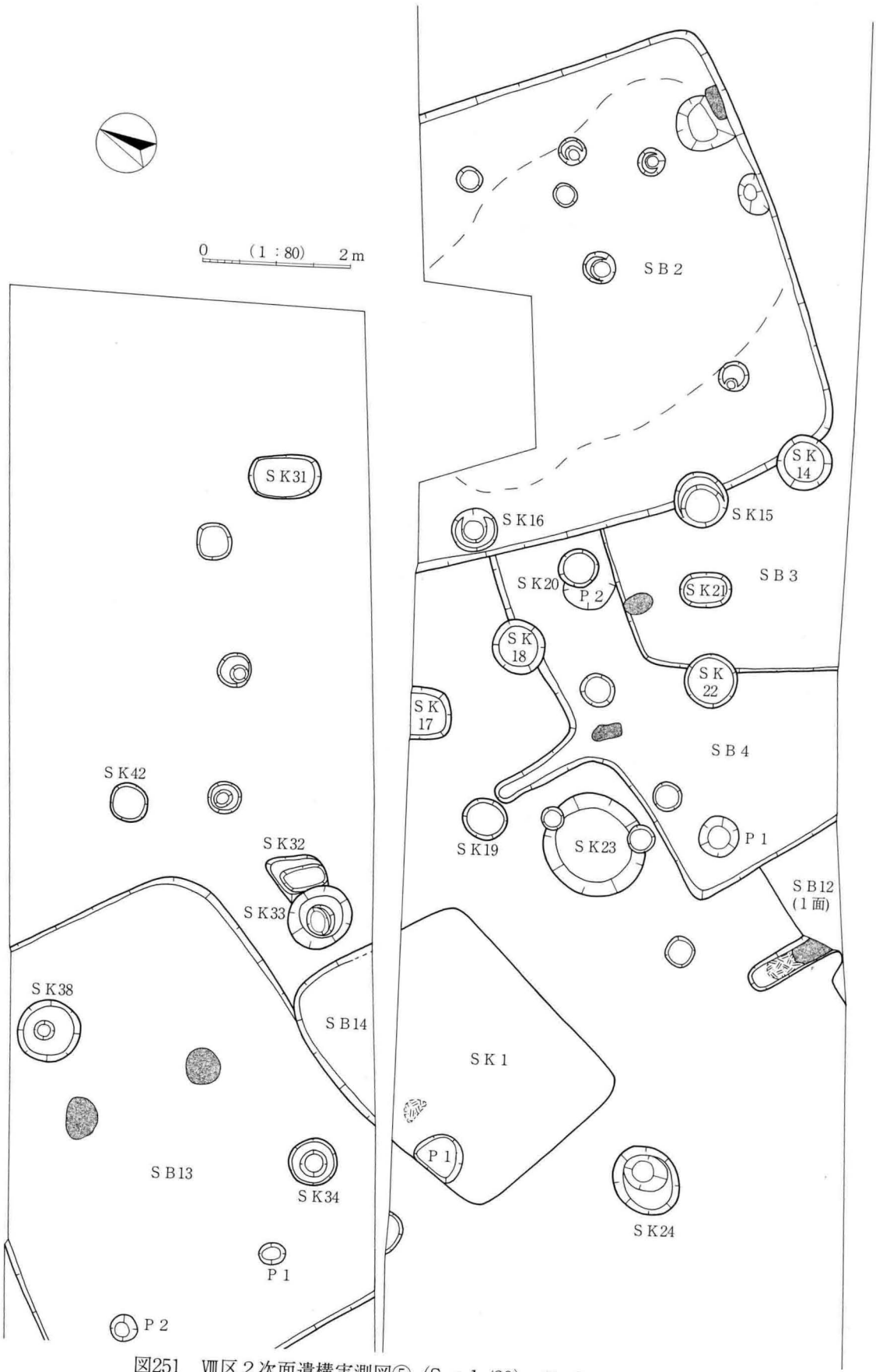


図251　Ⅷ区２次面遺構実測図⑤（S＝1/80）　N-３・S-２区

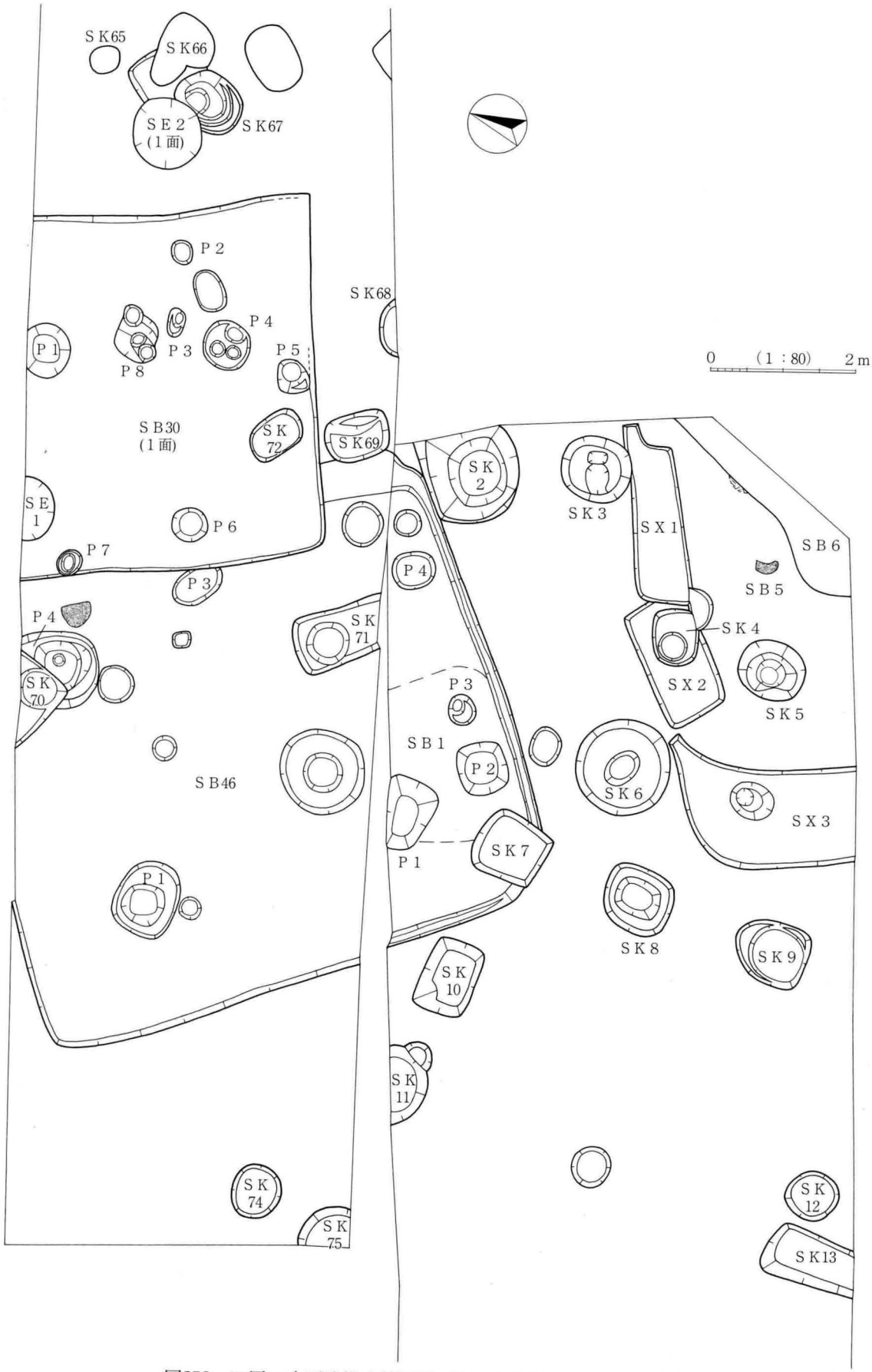


図252　Ⅷ区２次面遺構実測図⑥（S＝1/80）　N-２・S-２区

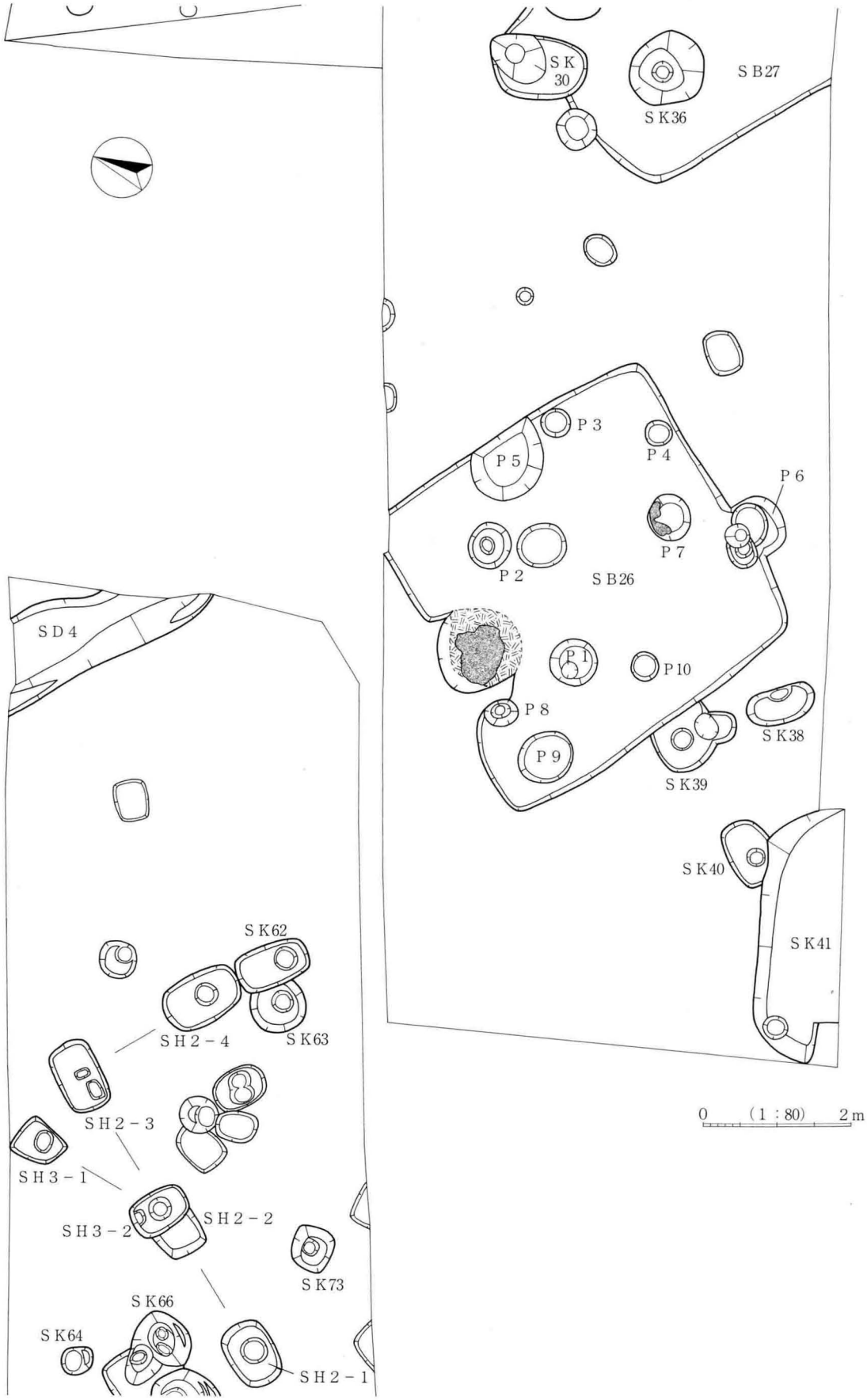


図253　Ⅷ区２次面遺構実測図⑦（S＝1/80）　N-２・S-１区

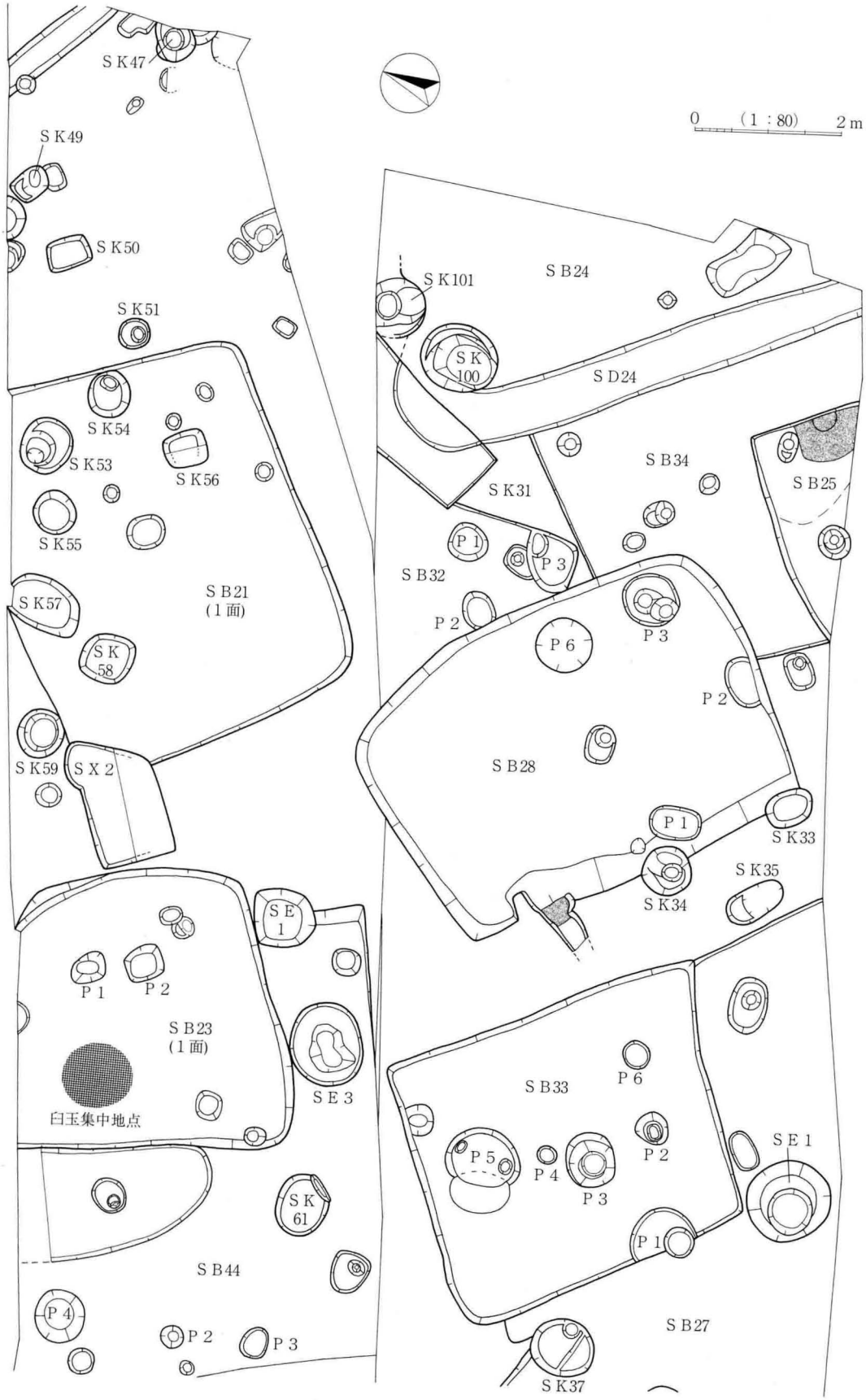


図254　Ⅷ区２次面遺構実測図⑧（S＝1/80）　N-１・S-１区

S-２地点 SB12　調査区南西際で検出された竪穴住居で、西ならびに南側が調査区外となる。西側隅部で火床が検出され、カマドが付されていた可能性が考えられる。

火床東側対面の床面では、浅い掘り込み内より柱状の石材が土器とともに出土している。柱状石は長さ約40cm、幅約５cmを測り、二つに折れて出土した。柱状石材は支脚の事例が認められるが、他例に比して長く、確認されたカマド部分でも抜き取り痕跡等が認められないことから、カマド構築材の可能性も想起される。

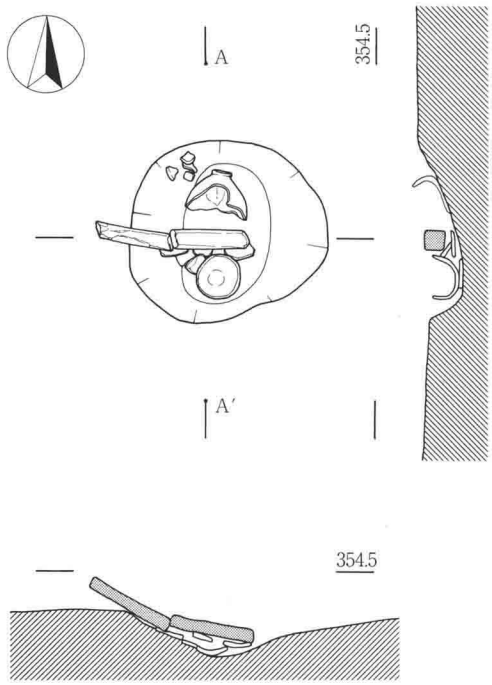


図255　ＳＢ12柱状石出土状況（S = 1 /20）

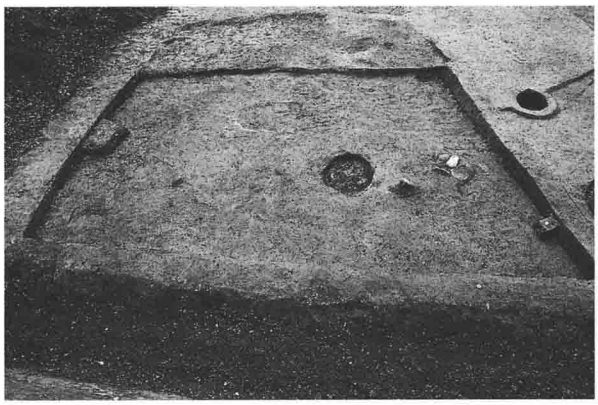


写真229　S-２地点ＳＢ12

写真230　S-２地点ＳＢ12柱状石出土状況

S-３地点 SB41　一辺4.7mを測る方形の竪穴住居である。炉・カマドは検出されなかったが、北壁中央部に残存する焼土がこれに関わるものと考えられる。柱穴は主軸東側に二カ所検出されたに止まる。床面は住居中央部に貼床が確認された。この貼床上からは多量の土器が出土している。ほぼすべてが細片で出土し、完形での出土個体は認められない。甕・壷・高杯・小型丸底土器より構成されるが、甕の比率が最も高く、他事例との相違点となる。須恵器共伴直前期の住居内出土土器群して把握することが可能な一括資料である。

写真231　S-３地点ＳＢ41

写真232　S-３地点ＳＢ41遺物出土状況

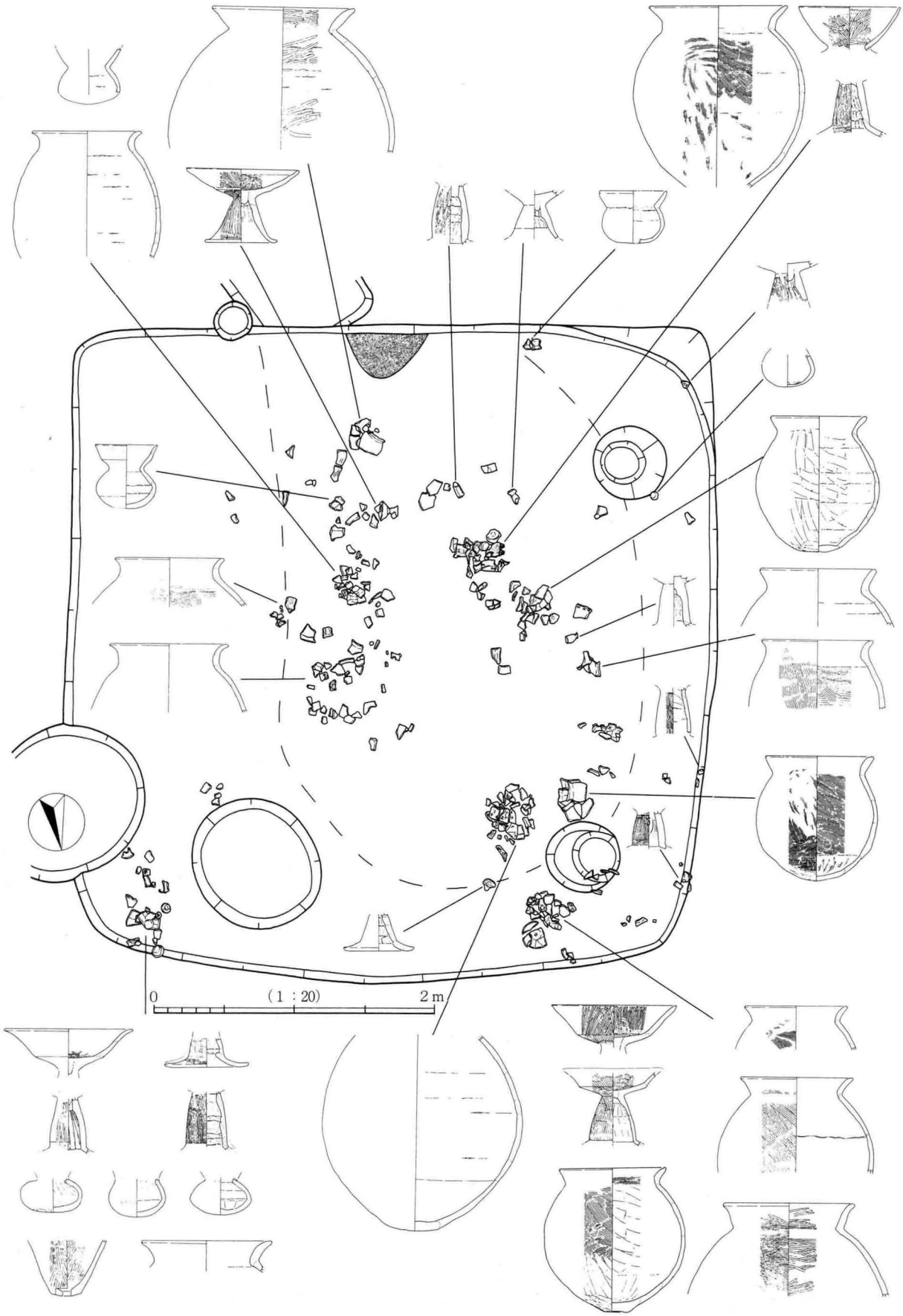


図256　S-３地点ＳＢ41土器出土状況実測図（S＝1/40）

N-４地点SB57　東側および北西角部が調査区外となるが、一辺7.3mと想定できる竪穴住居である。柱穴は３カ所確認される。床面は貼床で、床面上より多量の土器群と焼土混じりの炭層が検出されている。土器群は南北二カ所に集中して出土し、高杯と小型丸底土器を構成主体とする。甕等を含まないあり方は生活品の廃棄とは異なる背景が想定される。また、離れた破片が接合した椀が１点あり、意図的な破砕行為の可能性も指摘される。

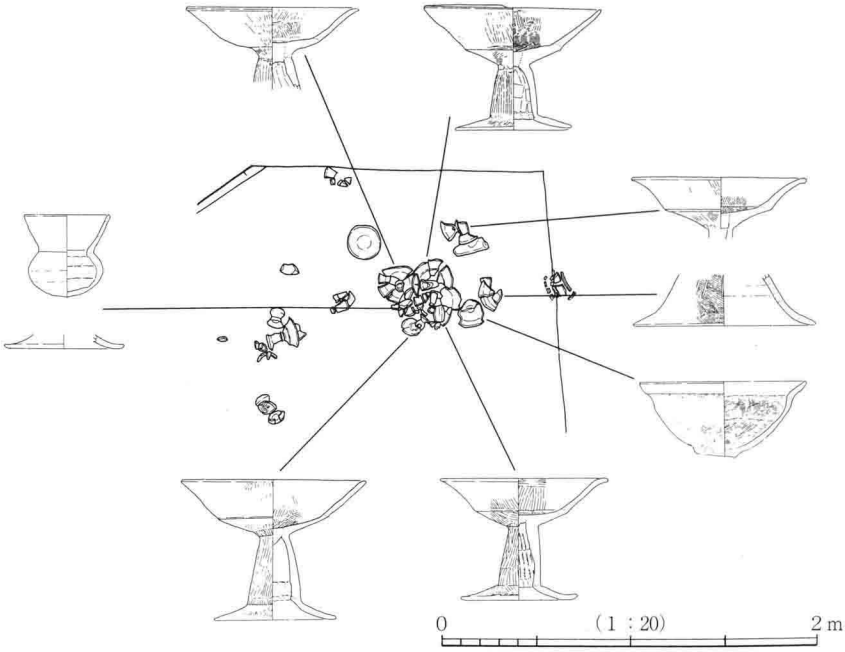


図257　N-４地点ＳＢ57北側土器集中地点出土状況実測図（S＝1/40）

南側土器集中付近よりは、炉が１基確認されている。この炉周辺からは若干量ではあるが鉄滓が検出された。さらに、炉周辺より出土した高杯脚部（右図▲付）には外面に高温で溶解した付着物が認められ、転用羽口とみられる。多量の炭も合わせ、小規模な鍛冶遺構と想定される。ただし、上層遺構の掘り込みが深いため、炉の上部構造は定かにはできなかった。

土器様相からは集落への鍛冶波及期と判断され、床面上出土土器群も良好な一括資料と把握される。

写真233　N-４地点ＳＢ57

写真234　N-４地点ＳＢ57遺物出土状況①

写真235　N-４地点ＳＢ57遺物出土状況②

写真236　N-４地点ＳＢ57遺物出土状況③

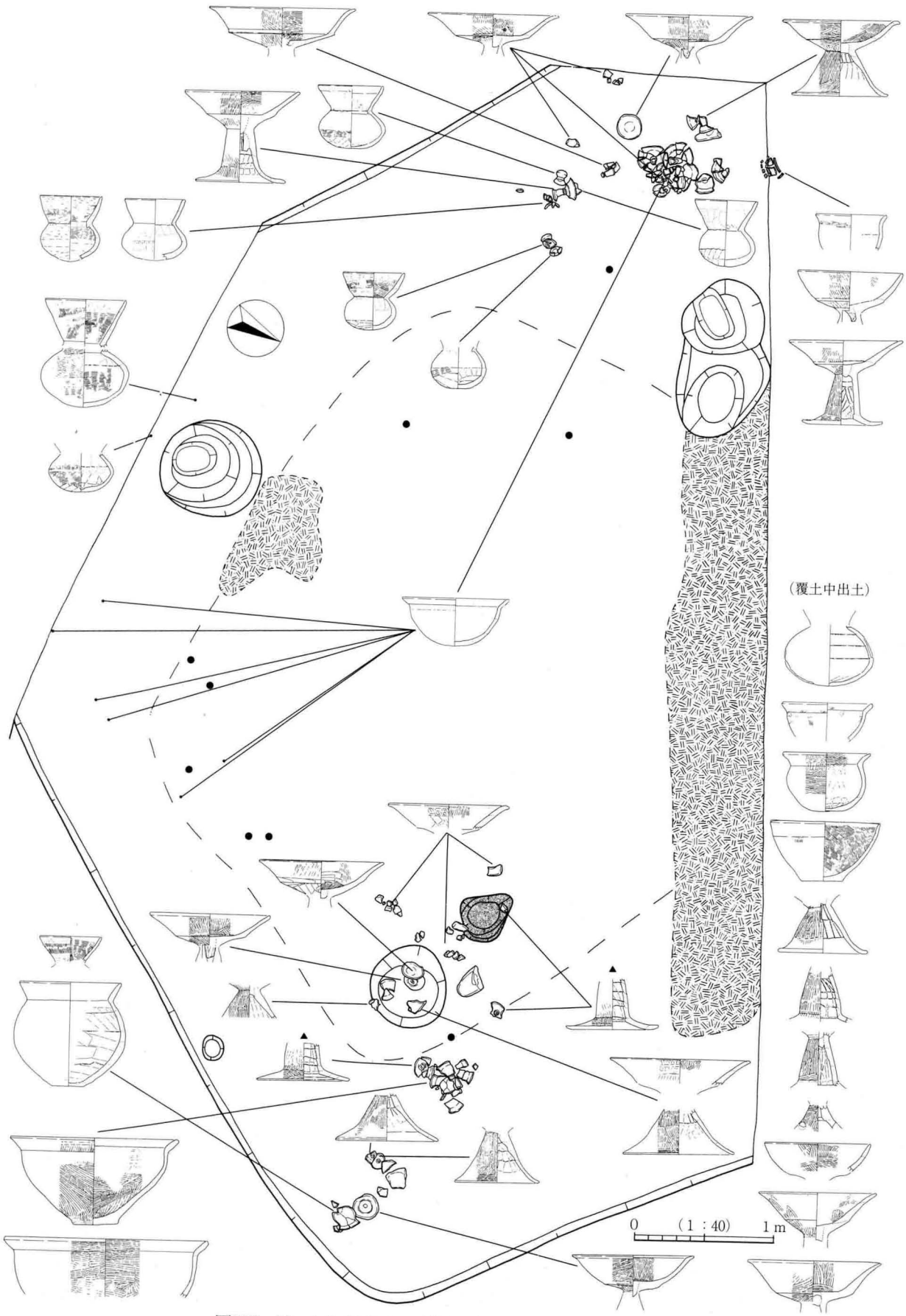


図258　N-４地点ＳＢ57遺物出土状況実測図（S＝1/40）

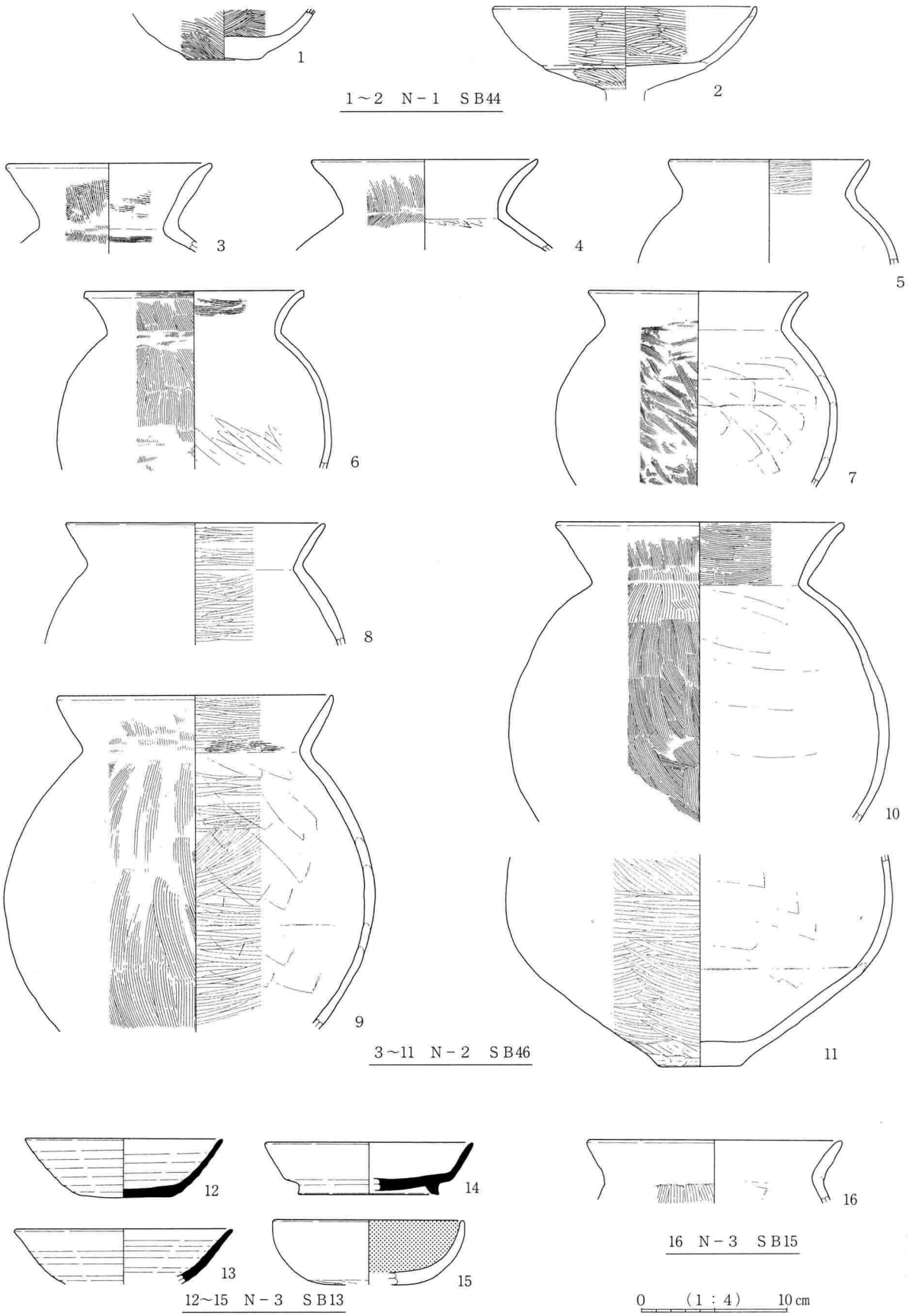


図259　Ⅷ区２次面出土土器実測図①（S＝1／4）　N-１・N-２・N-３地点

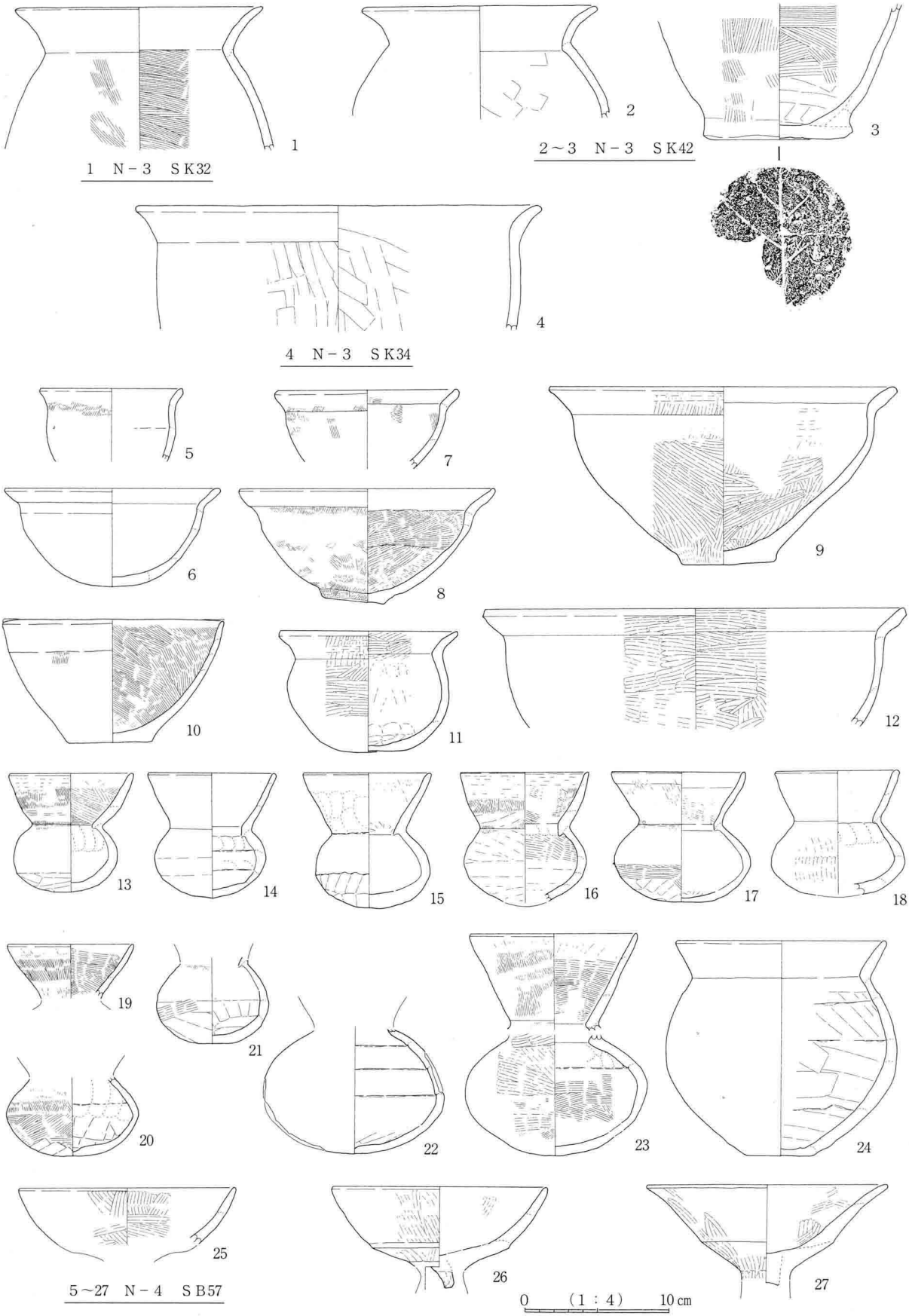


図260 Ⅷ区２次面出土土器実測図②（S＝1／4） N－３・N－４地点

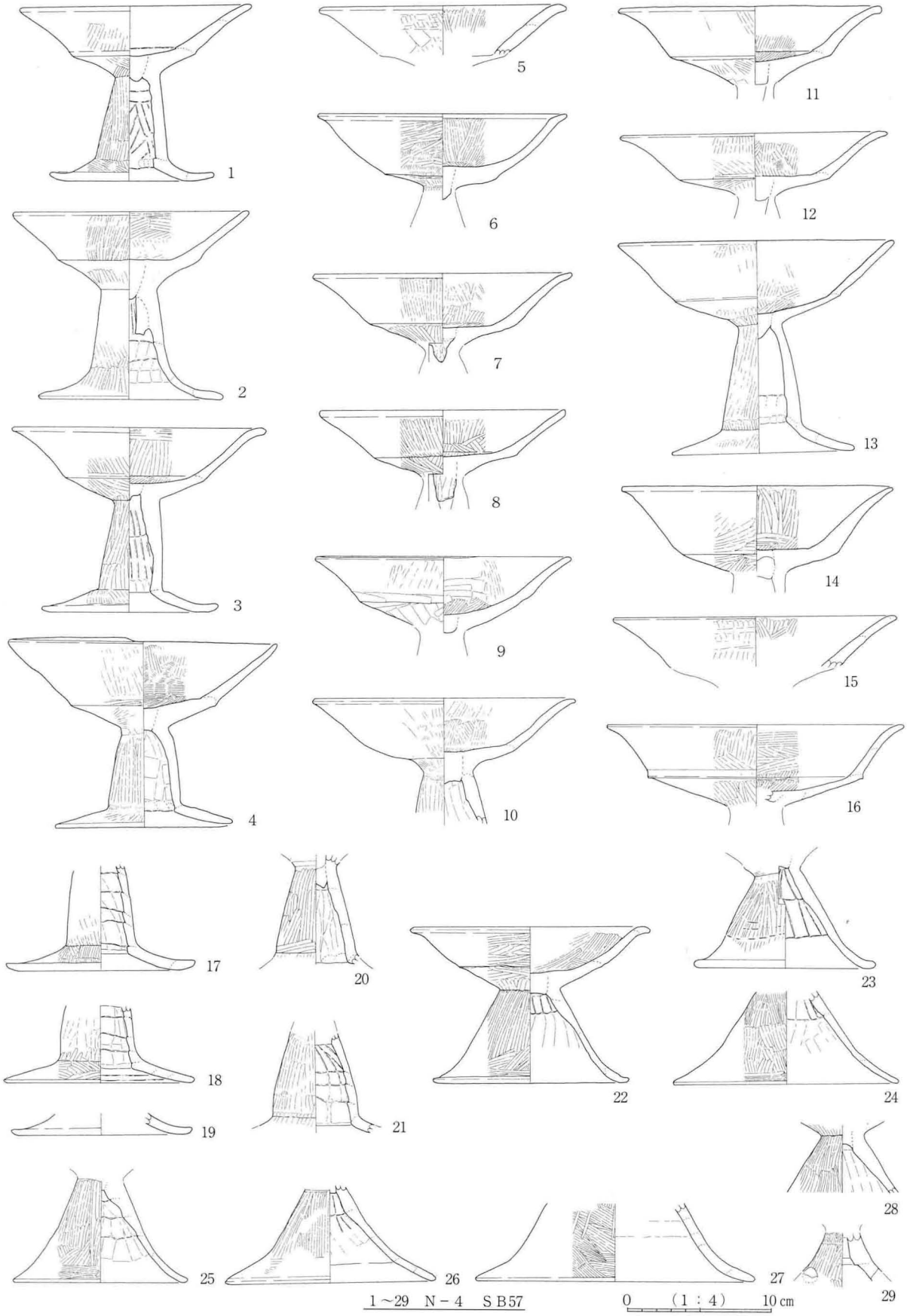


図261　Ⅷ区２次面出土土器実測図③（S＝1／4）　N－４地点

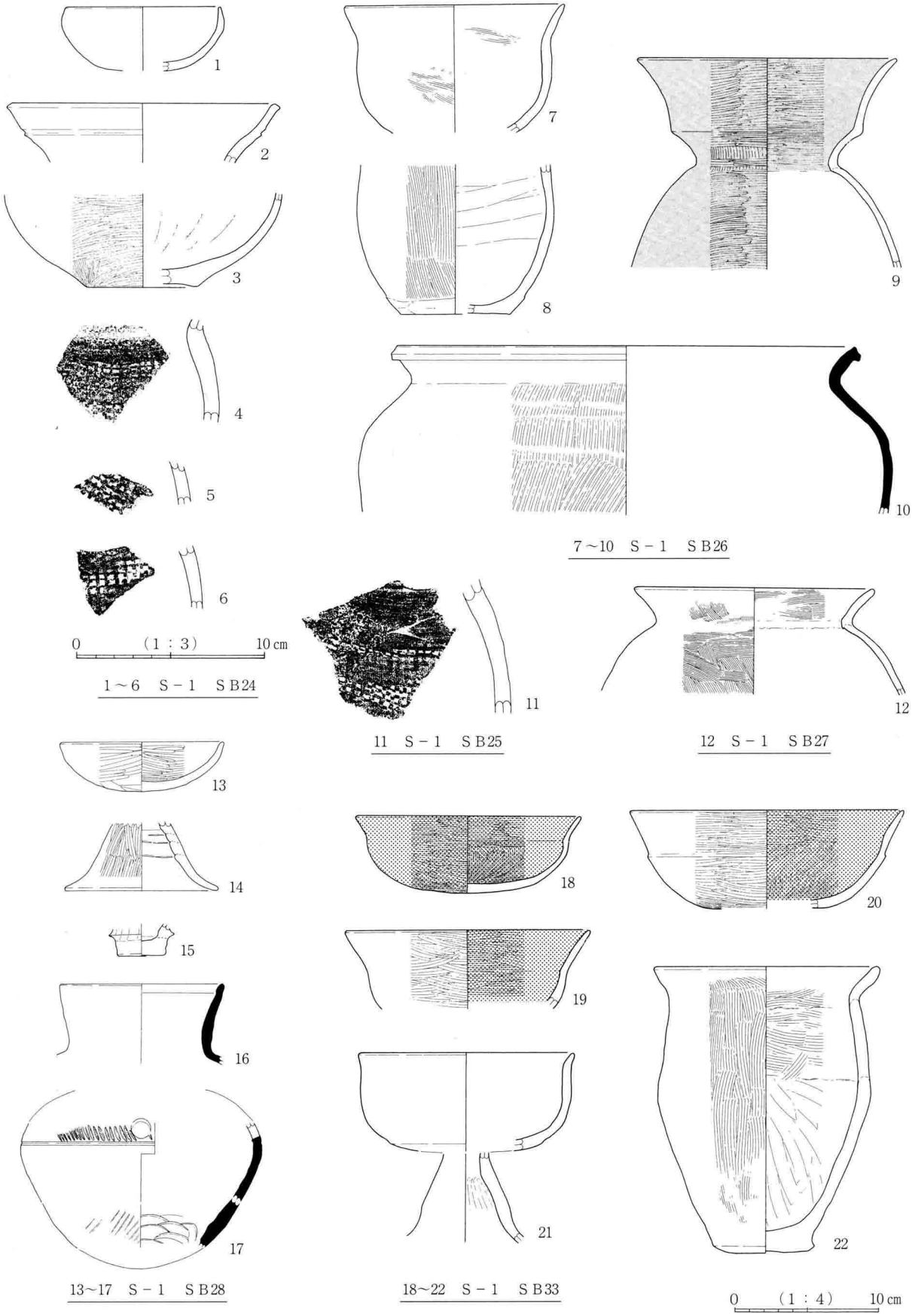


図262 Ⅷ区２次面出土土器実測図④（S＝1／4） S-１地点

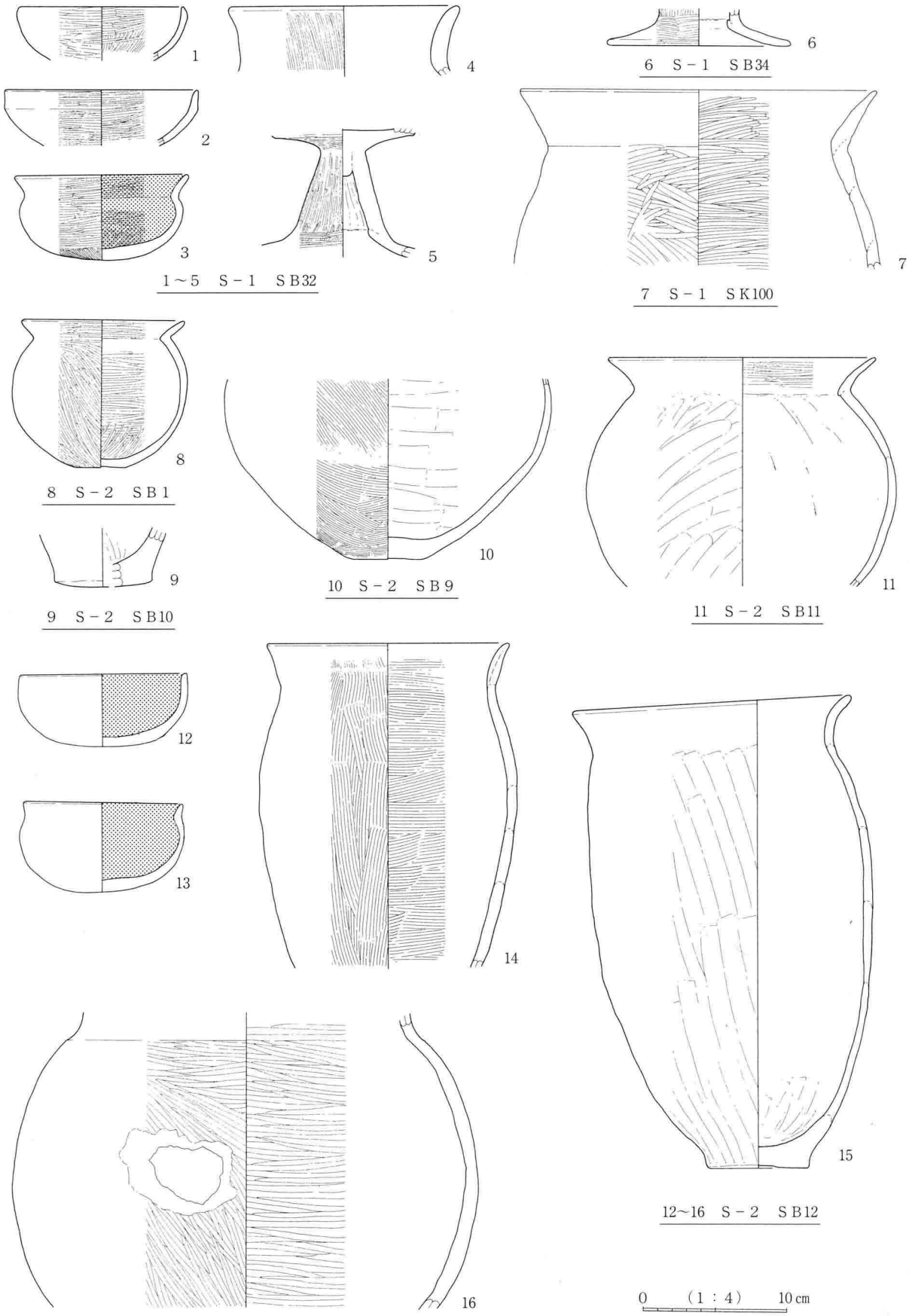


図263　Ⅷ区２次面出土土器実測図⑤（S＝1／4）　S-１・S-２地点

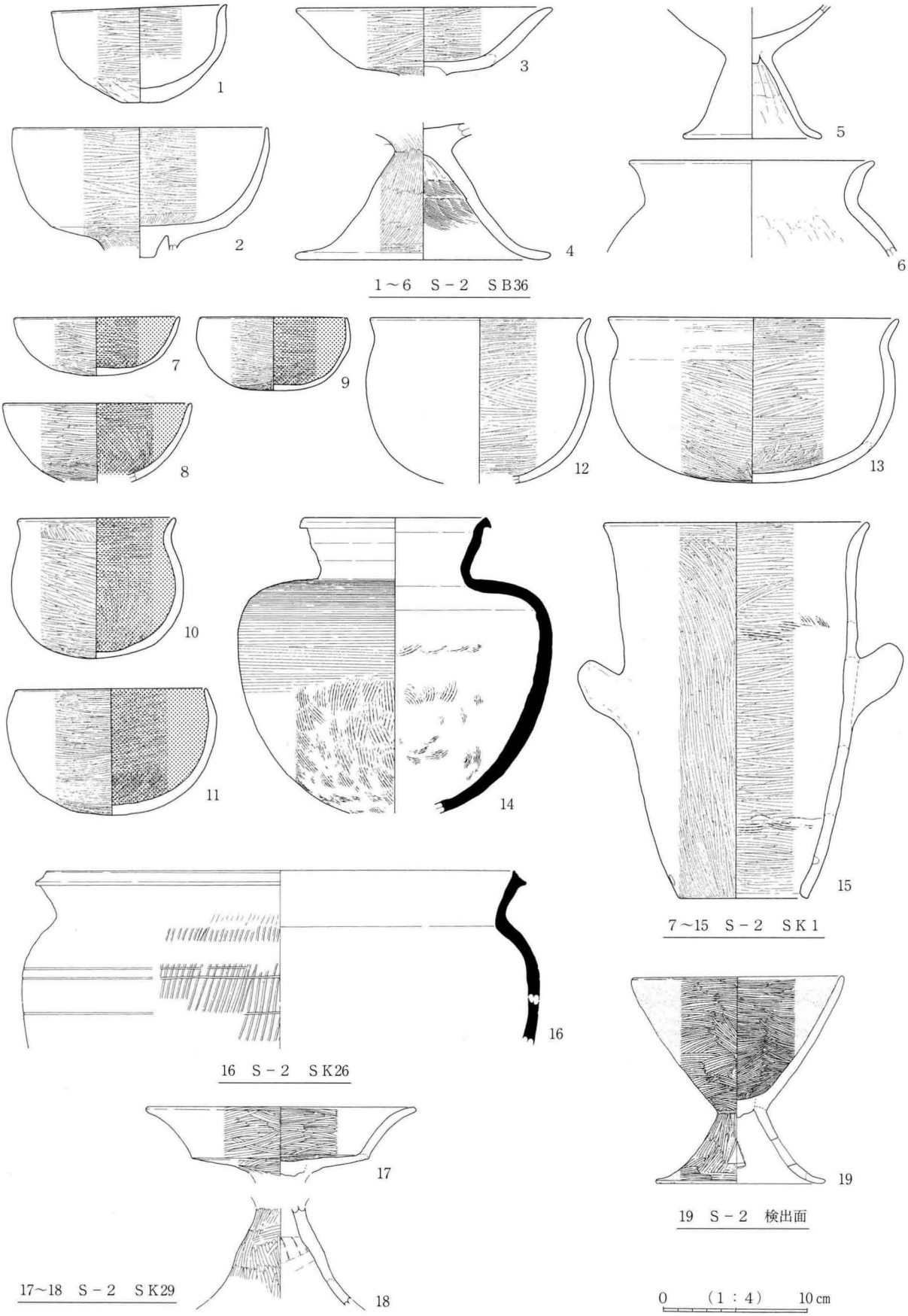


図264　Ⅷ区２次面出土土器実測図⑥（S＝1／4）　S-２地点

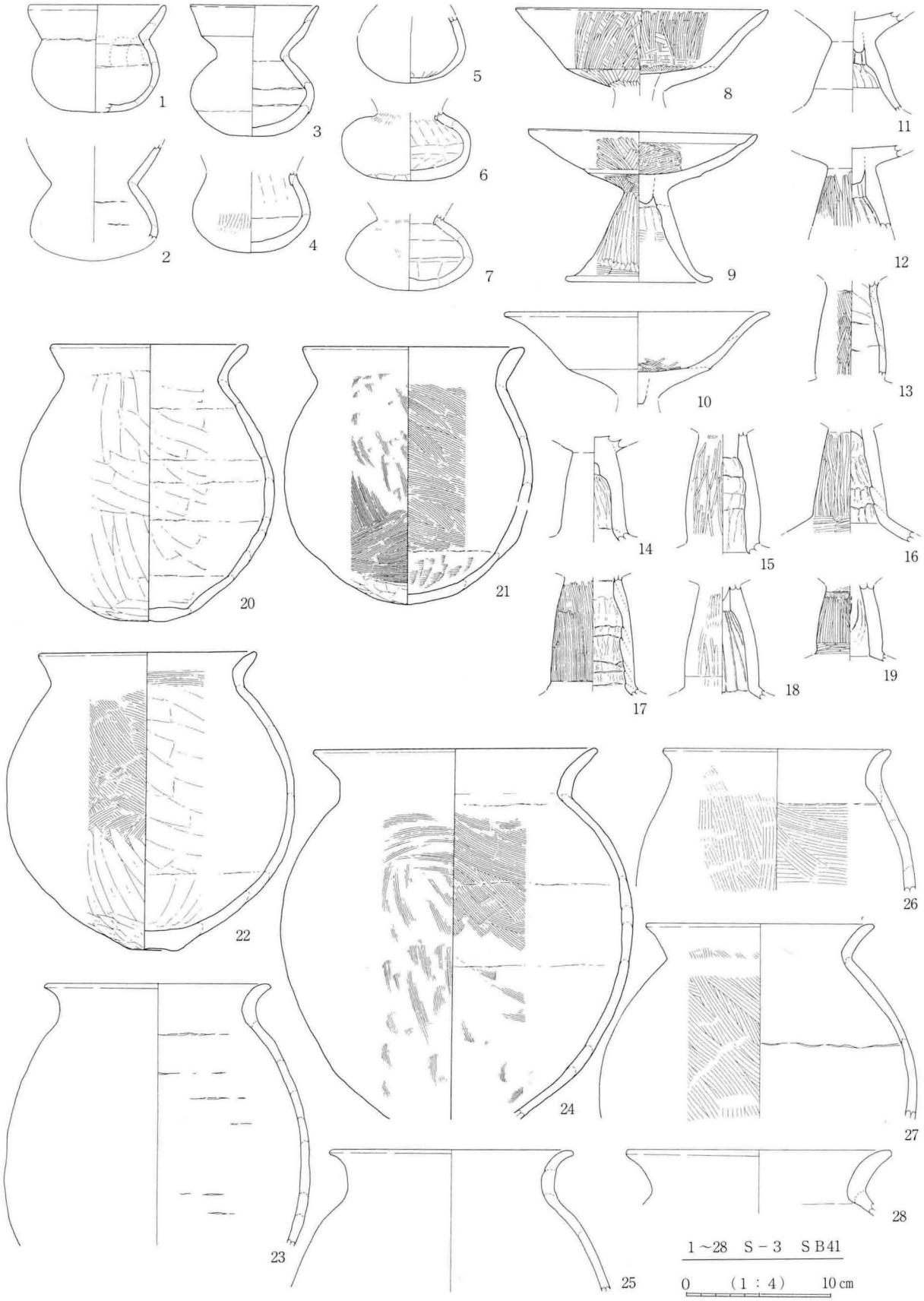


図265　Ⅷ区２次面出土土器実測図⑦（S＝1／4）　S-３地点

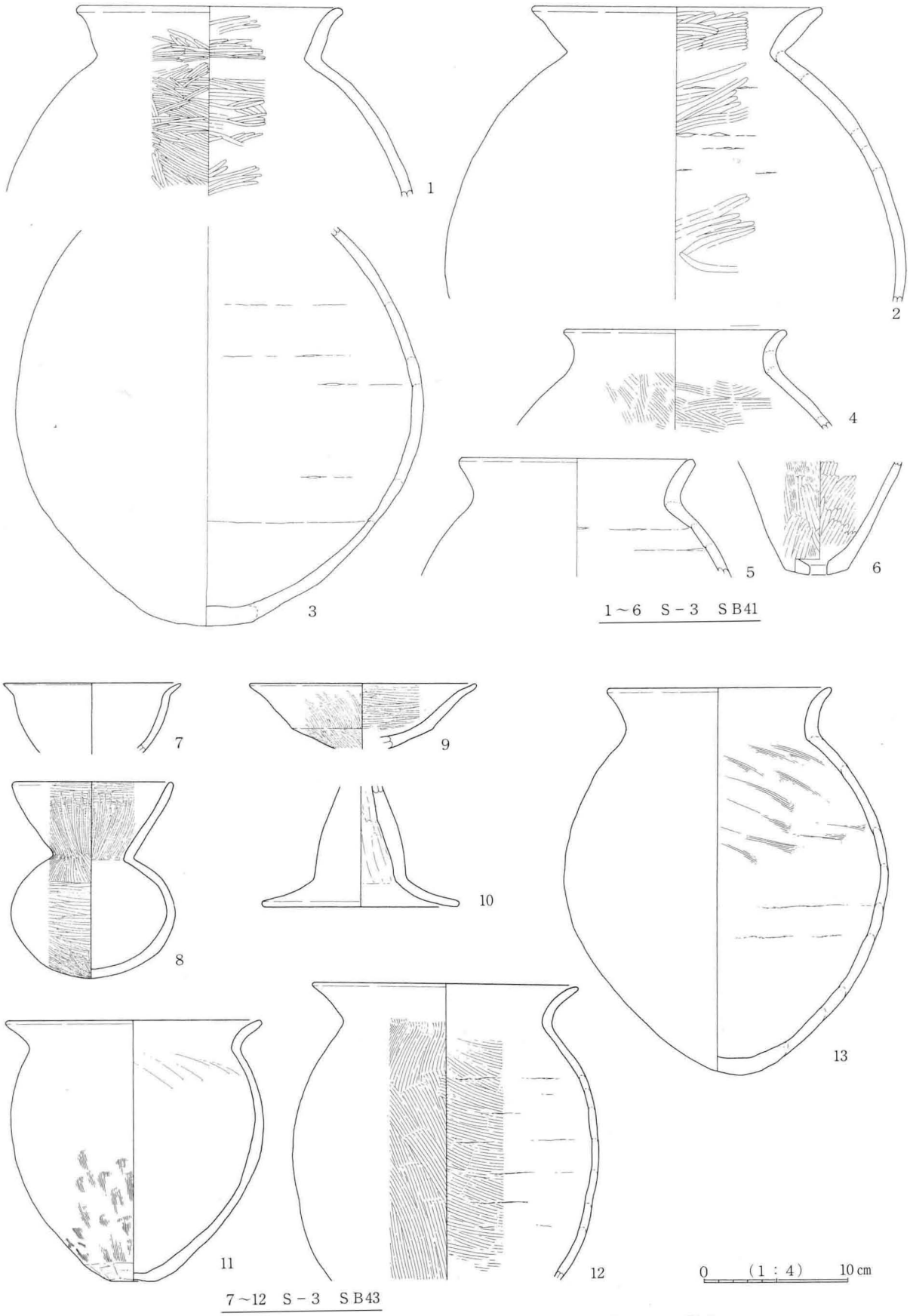


図266　Ⅷ区２次面出土土器実測図⑧（S＝1／4）　S-３地点

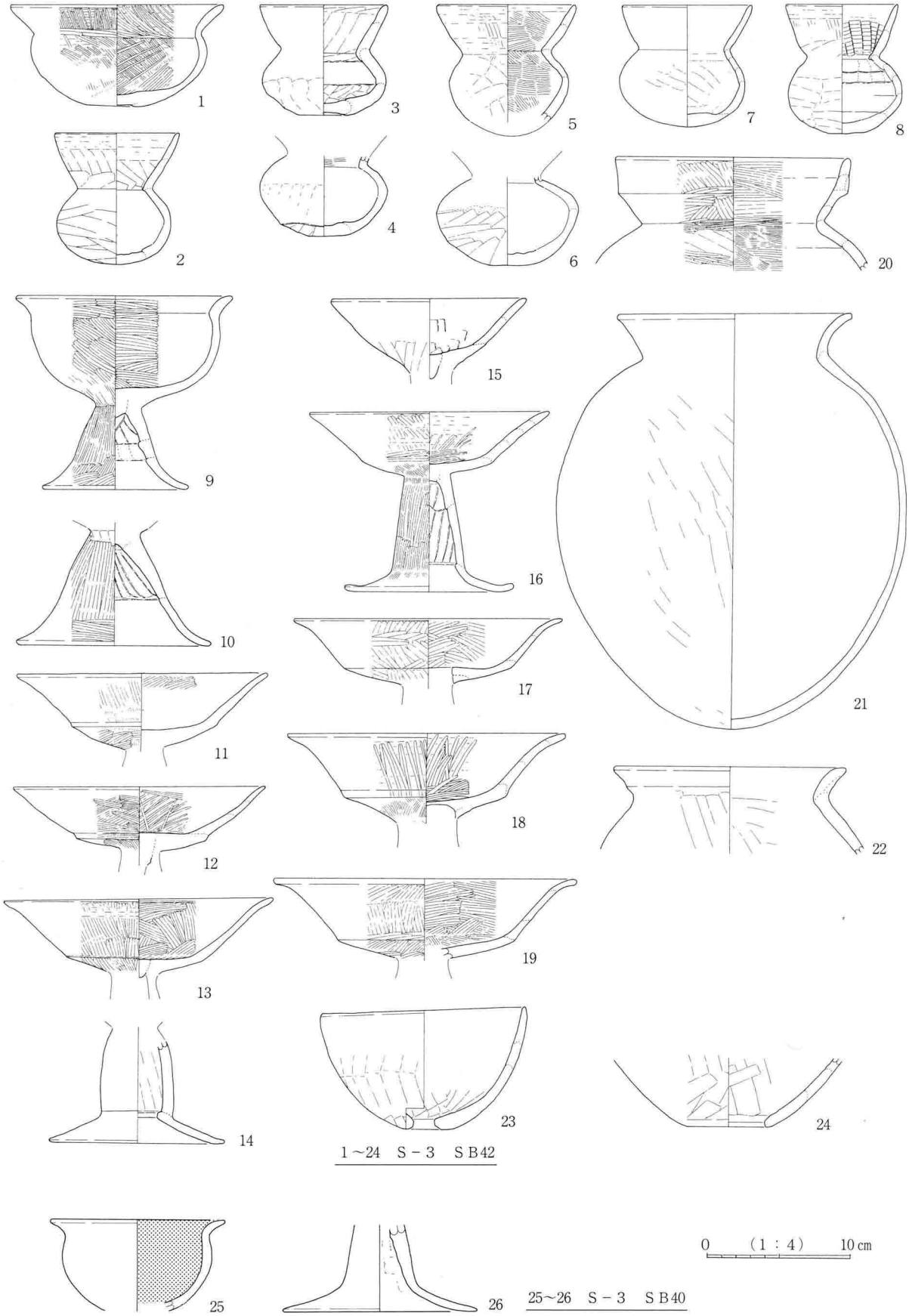


図267　Ⅷ区２次面出土土器実測図⑨（S＝1／4）　S-３地点

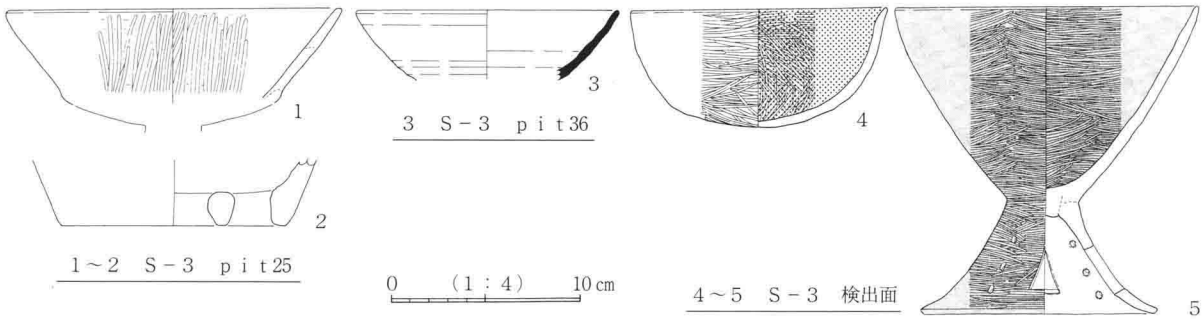


図268　Ⅷ区２次面出土土器実測図⑩（S＝1／4）　S－３地点

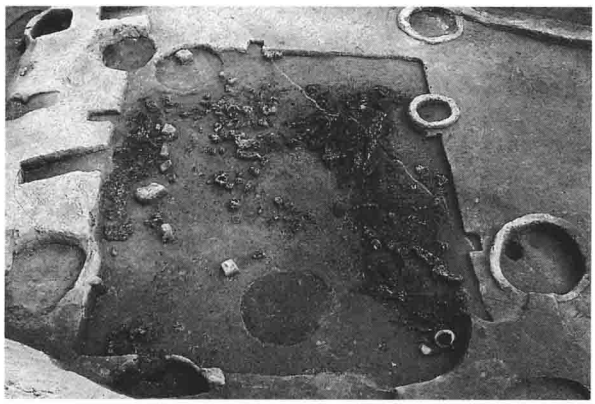


写真237　S－１地点ＳＢ33

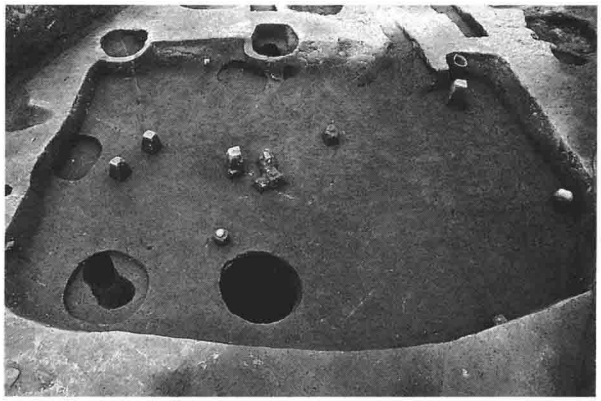


写真238　S－１地点ＳＢ28

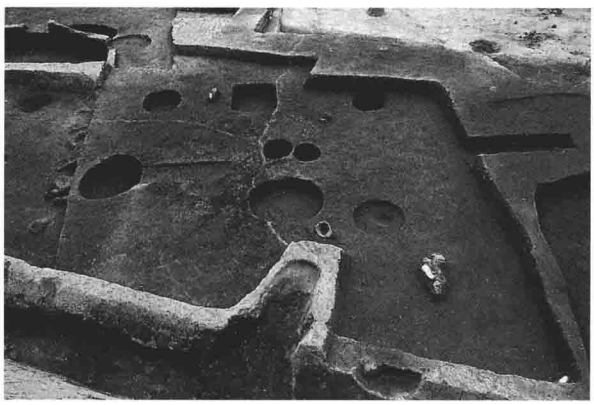


写真239　S－２地点ＳＢ36

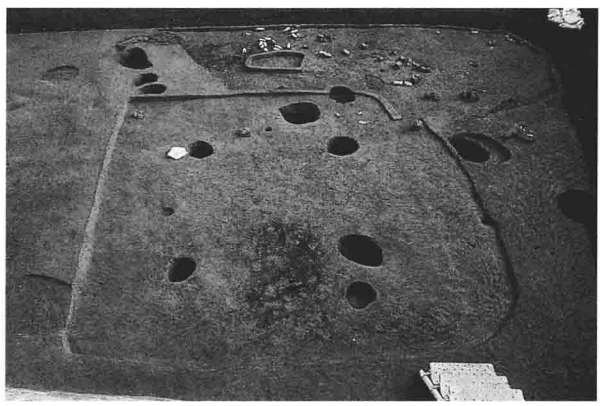


写真240　S－３地点ＳＢ40

写真241　S－３地点ＳＢ42

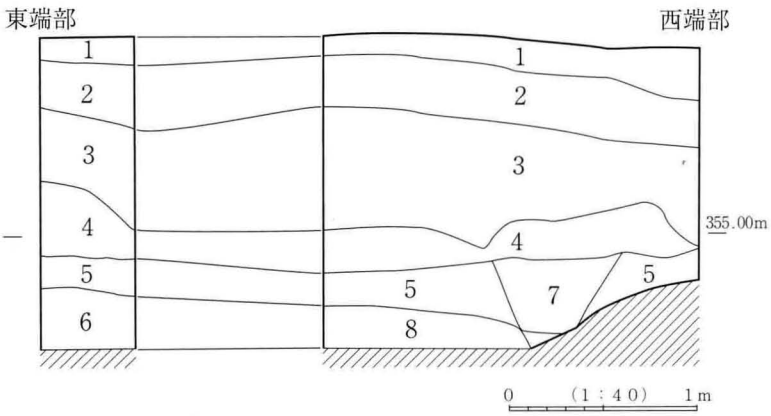
写真242　S－３地点ＳＢ43

Ⅻ　Ⅸ区の調査

1　調査実施範囲の確定経過

Ⅸ区は調査対象地の西端で、西側では国庫補助事業地点Ｘ区へと続き、北側では市道塩崎中央線地点と直交して位置する。この直交する本区ならびに市道塩崎中央線地点には北側の県道77号線からの搬出入路として北陸新幹線建設時以来、工事用仮設道路が設置されていた。本区調査時は既に新幹線開業後であったが、引き続き本事業建設工事の搬出入路として使用され、工事用道路の確保は継続課題であった。工事用道路は工事計画との調整によって、Ⅵ～Ⅷ区Ｓ地点の発掘が完了した時点で南側への一斉切り替えを実施した。ただし、本区は直角に折れ曲がるうえ工事用車両の交換場を兼ねていたこともあって、北側用地際に設置されていた既存の仮設道を使用することが安全確保のうえで最も有効と判断されたことから、切り替えは実施しなかった。これにより工事用道路以南を調査対象地とした。また、調査の進捗状況に伴う工事用車両の交換場確保の計画策定のため、先行して試掘調査を実施した。試掘坑は東側と西側に各１ケ所設定して行った。東側の試掘坑（第１試掘坑）では遺構の存在が確認されたが、西側の試掘坑（第２試掘坑）では基盤層上まで撹拌が及んでおり、包含層の堆積ならびに遺構の存在を確認することはできなかった。このため、さらに西側でもう１ケ所試掘坑（第３試掘坑）を掘削したが、第２試掘坑と同様の結果であった。遺構が確認された第１試掘坑と確認されなかった第２・３試掘坑は畑が異なる。果樹と一般畑地という土地利用状況も異なっていて、従前の畑地区分が遺構の残存状況に大きく関わっていると予測された。この点より、第１試掘坑が位置する東側の旧果樹畑を調査対象地として選定した。

表土掘削は東側より着手して順次西へと拡大したが、調査区西端部で遺跡基盤層である黄褐色粘質土層が急激に立ち上がることが確認された（図269）。調査区西壁では遺構の存在は確認されず、包含層内での遺物包含量が極端に低下することから遺構分布が希薄になることが確実視された。前記した隣接畑地との位置関係や調査区隣接地への出入口の確保を踏まえ、この地点までを調査範囲と確定した。これにより、Ⅸ区は長さ約36m、幅約12m の範囲に対して発掘調査を実施している。なお、工事用道路下については、盛土造成ということもあって遺構が路床下に保存されていることを確認している。



土層注記
1　表土
2　耕作土層
3　明黄褐色砂層（暗褐色粘質土ブロックの混入多い）
4　暗褐色砂質土層（暗褐色粘質土ブロックの混入多い）
5　暗褐色粘質土層（包含層）
6　暗褐色粘質土層（ＳＢ03 覆土）
7　暗褐色粘質土層　炭含む（ピット覆土）
8　暗褐色粘質土層　炭含む（ＳＢ17 覆土）

基本層序との対応　（13 頁図６）
第１層(1)
第２層(2)
第３層(4)
第３層(4)
第４層
遺構覆土
遺構覆土
遺構覆土

図 269　Ⅸ区土層堆積状況実測図（S ＝ 1 /40）

2　調査の概要

調査面は他地区同様に調査限界点となる南壁際に排水溝を設定し、この壁面観

写真 243　Ⅸ区全景（西から）

写真 244　Ⅸ区全景（東から）

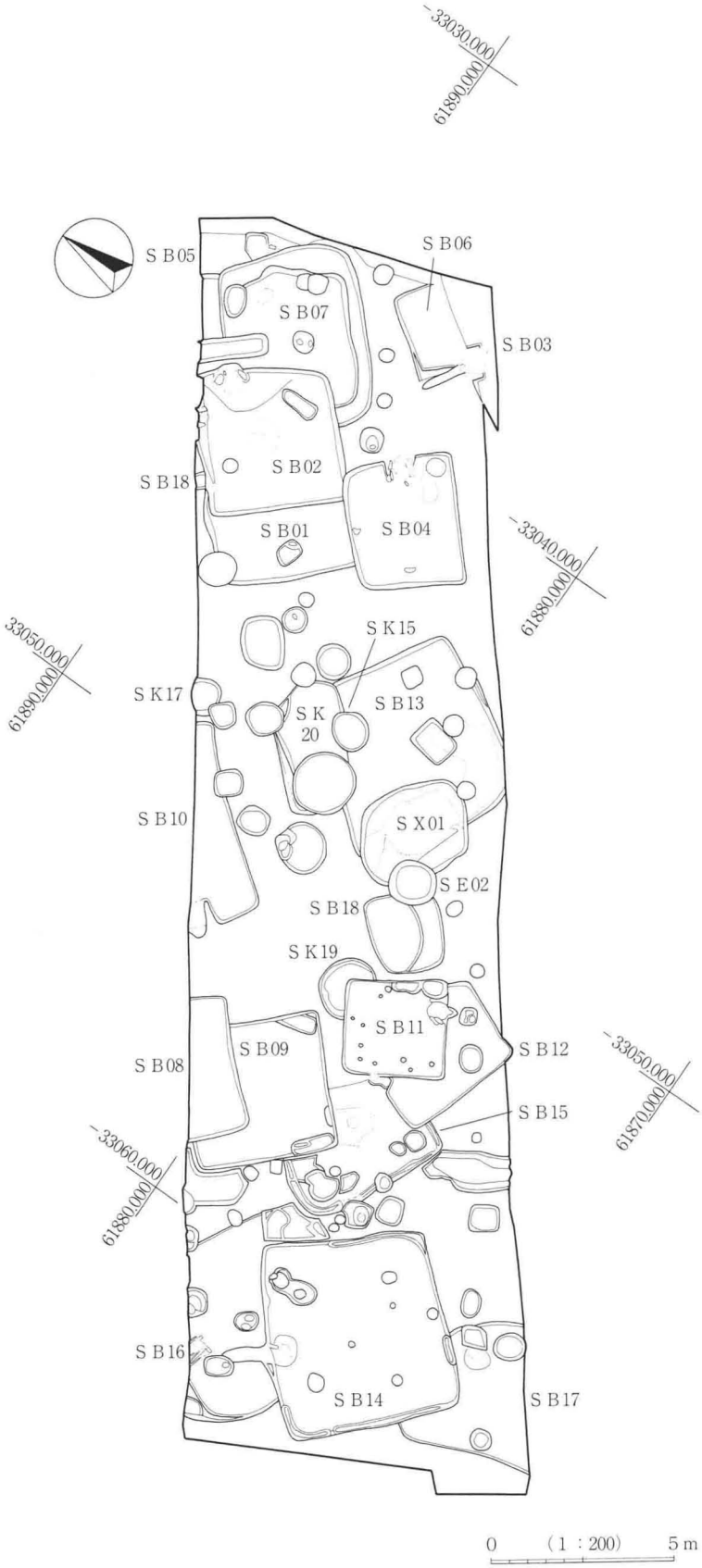


図 270　Ⅸ区遺構分布図（S = 1 /200）

察によって確定する方法をとった。包含層の堆積厚は他地区に比べて薄いうえ、排水溝内での観察によって下層遺構の存在は確認されなかった。また、検出遺構の底面断割によって下層遺構の存否についても逐一確認しながら、単一面で調査を実施している。

方形ピット群　部分的ではあるが、黄褐色砂を覆土とする方形ピットが検出された。列をなす状況の確認はなかったが、本来は他地区同様、面的に展開した可能性が想定される。また、遺物の出土はなかったが、確認された重複関係からは最も新しい時期と考えられる。

平安時代　竪穴住居４軒・土坑１基ほかが検出された。全体が検出されたSB04・11は石芯構造と考えられるカマドを布設した小型住居である。カマド方位は北西・東・南東と各住居それぞれ各々異なって一定しない。東側に隣接するⅦ区では西端部付近で該期住居が密集して検出されており、これらとまとまりを持つと想定される。

奈良時代　竪穴住居２軒（SB02･18）、土坑１基（SK20）ほかが確認された程度で、遺構の分布密度は低い。東

地区名	遺構名	時代	重複関係		床面	付属施設	特記事項	備考	遺構図版番号	土器図版番号	写真番号
			先	後	柱穴						
Ⅸ １次面	SB14	古墳	SB16・17		硬化面 4	カマド（北壁） 壁溝	覆土中より獣骨細片ならびに臼玉出土	南壁中央にコモ石状の石材集中	271	273	253
Ⅸ １次面	SB16	古墳		SB14	貼床 1（SK25）	カマド（北壁）	６点の連珠状を含め、床面上より臼玉出土		271	275	
Ⅸ １次面	SK25	古墳						SB16柱穴	271	275	
Ⅸ １次面	SB17	古墳		SB14	貼床 なし	カマド残欠（東壁）	臼玉出土		271		254
Ⅸ １次面	SB15	古墳		SB09・12	貼床 2	炉 壁溝	炉周辺に炭散布 臼玉出土		271	275	
Ⅸ １次面	SB12	奈良	SB15	SB11	硬化面 なし	北壁に焼土 （カマド残穴？）	カマド前面で貼床確認	Ｐ１覆土中より青銅製巡方出土	271		
Ⅸ １次面	SB11	奈良～平安	SB12 SK19		貼床 なし	カマド（南壁） 石材あり	覆土上層より臼玉出土	小型住居	271	275	251
Ⅸ １次面	SB08	平安	SB09		貼床 なし				271	273	250
Ⅸ １次面	SB09	平安	SB15	SB08	硬化面 なし		墨書土器出土	覆土上層より管玉・臼玉出土	271	274	250
Ⅸ １次面	SK18	古墳		SE02					271	275	
Ⅸ １次面	SK19	古墳		SB11			覆土中に焼土・炭層あり		271	276	
Ⅸ １次面	SE02	平安以降	SK18 SX01		（未完掘）	素堀	覆土上層より管玉・臼玉出土	古墳時代遺物を含むが重複関係より平安時代以降であることが明らか	271	276	
Ⅸ １次面	SB10	古墳			貼床 なし	カマド残欠（西壁） 柱状の石材出土支脚？	臼玉出土		271 272	274	
Ⅸ １次面	SK17	古墳							272	275	
Ⅸ １次面	SB13	古墳	SK15	SK20 SX01	貼床 なし		南西側床面上に炭散布 臼玉出土	SX01から出土した石製模造品・臼玉は本遺構に帰属すると判断される	272	274	252
Ⅸ １次面	SX01	平安か	SB13	SE02	平坦（不明瞭）	底面で検出された炭はSB13に伴うと判断される	炭上より石製模造品（有孔円板）・臼玉出土	覆土は強粘質土	272		
Ⅸ １次面	SK15	古墳		SB13 SK20			SB13およびSK20底面で検出		272	275	
Ⅸ １次面	SK20	奈良か	SB13 SK15				底面でSK15検出	土師器はSB13に帰属する可能性高い	272	276	
Ⅸ １次面	SB01	古墳 （～奈良）		SB02・04 SE01	脆弱 なし	煙道（北壁）			272		
Ⅸ １次面	SB02	奈良	SB07・18	SB01・04	貼床 なし	カマド（北壁） 石材あり	青銅製環状品出土	中央部で検出された焼土・炭は貼床のように非常に締っている	272	273	245
Ⅸ １次面	SB18	古墳～奈良	SB01	SB02	未検出 未検出	カマド（北壁）		SB02以北の壁際で確認	272		
Ⅸ １次面	SB07	奈良か	SB05	SB02	貼床 なし	カマド残欠（東壁）			272		245
Ⅸ １次面	SB05	古墳～奈良		SB02・07	脆弱 未確認	カマド（東壁） 石材ならびに石抜痕あり	SB07により破壊		272		249
Ⅸ １次面	SB04	平安	SB01・02		貼床 なし	カマド（東壁） 石芯構造（立石あり）	南東側床面上に炭散布		272	274	247 248
Ⅸ １次面	SB03	古墳か	SB06		貼床 未検出	カマド（北壁）	覆土上層より臼玉出土		272	273	246
Ⅸ １次面	SB06	古墳後以前		SB03	脆弱 なし		臼玉出土	竪穴住居の可能性低い	272		246

表21　Ⅸ区主要検出遺構一覧表

側のⅦ・Ⅷ区でも密集せずに広く点的に分布する状況は同様で、一連のあり方と評価される。出土遺物ではSB12覆土中より青銅製巡方が1点出土しており、注目される。

古墳時代　古墳時代は中期から後期の竪穴住居・土坑が検出されている。古墳時代後期後半代は遺物量が少ないため定かでないが、調査区東端部のSB05・07が該当し、奈良時代に継続するとみられる。古墳時代中期は調査区中央より西側に重複関係をほとんど有さずに展開する。竪穴住居5軒、土坑4基以上が検出された。SB15は確実に炉を有し、SB13は不明、他はカマドを有する。カマド導入直前期に集落の形成が開始される点はⅧ区と共通する。また、調査区西端部のSB14は中期住居に重複し、模倣杯・長胴甕を土器組成に加える。図化・掲載資料がないがSB01を含め、後期前半代に位置付けられる。なお、古墳時代中期集落は全体的にⅧ区に比して新しい傾向が伺われ、住居密集域が西側へ拡大した可能性が想起される。

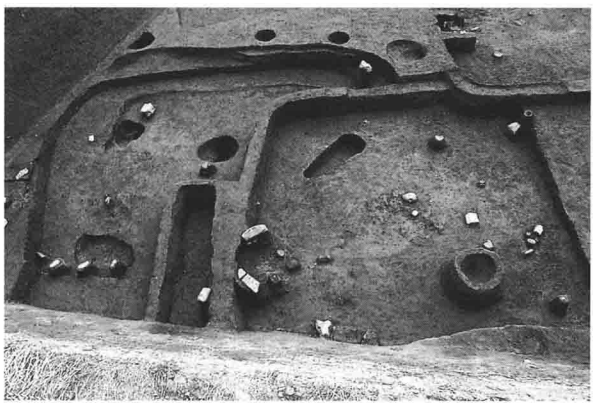


写真245　ＳＢ02・ＳＢ07

写真246　ＳＢ03・ＳＢ06

写真247　ＳＢ04

写真248　ＳＢ04カマド（石芯）

写真249　ＳＢ05

写真250　ＳＢ08・ＳＢ09

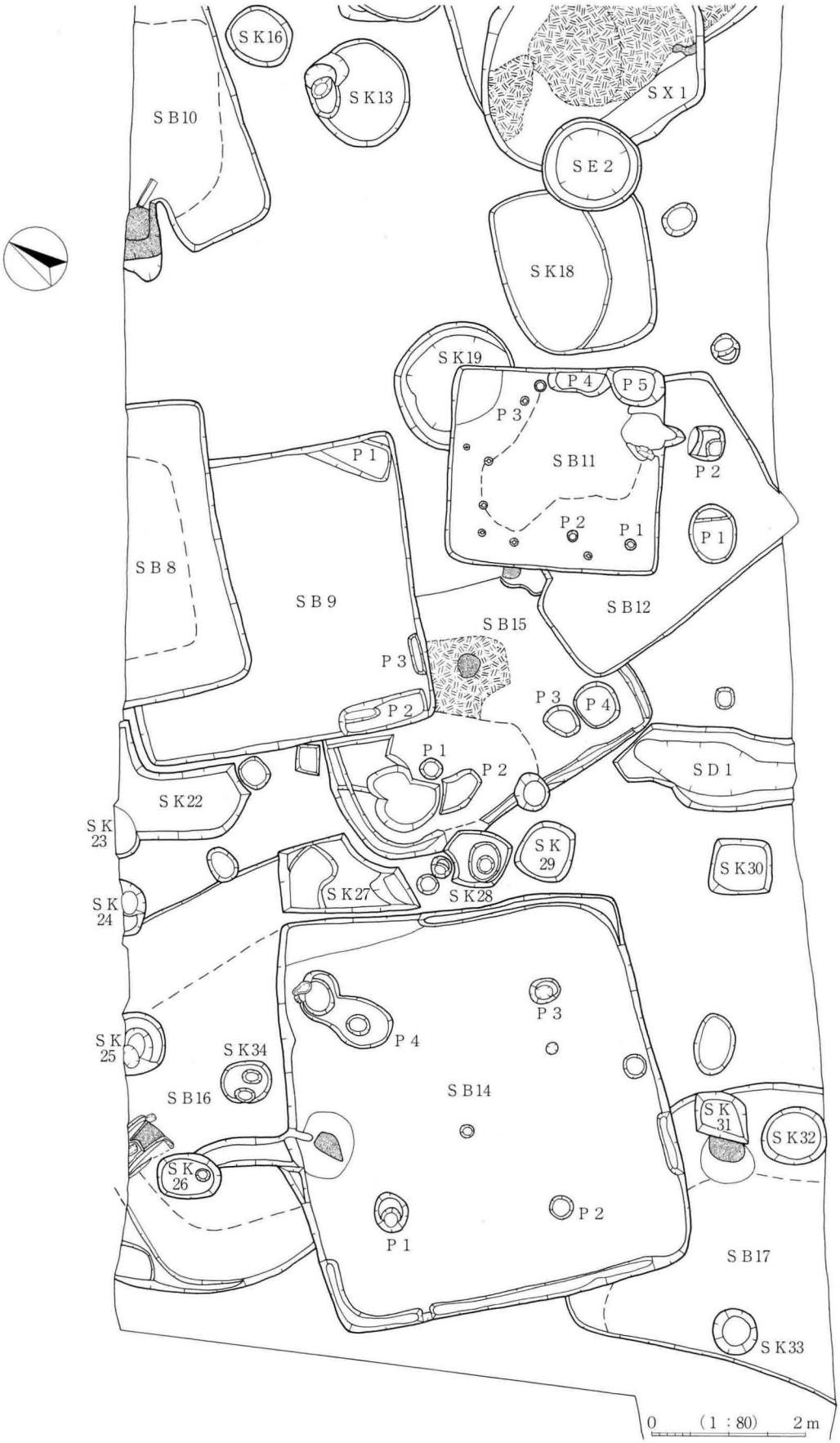


図271　Ⅸ区遺構実測図①（S＝1/80）

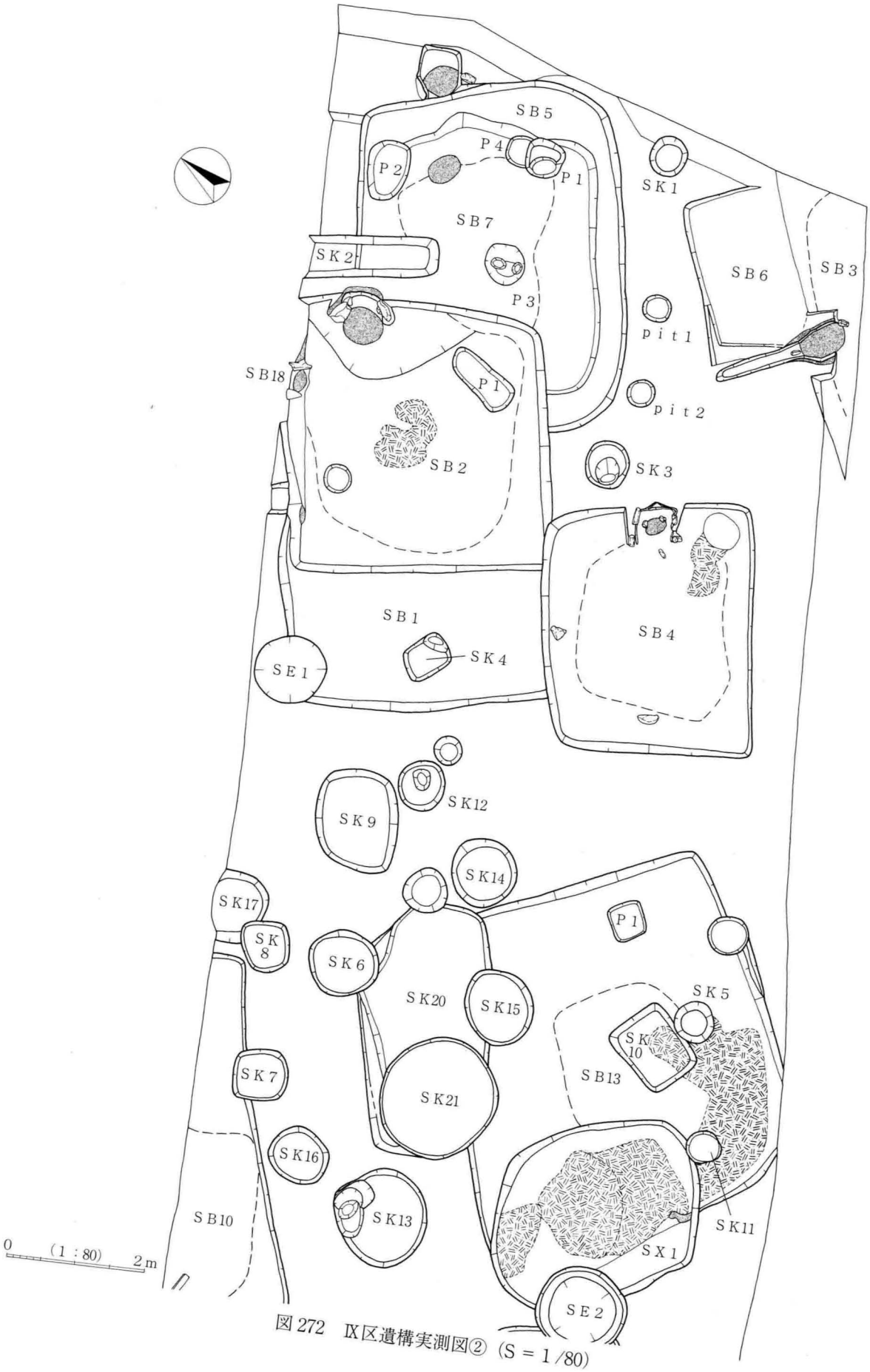


図272　Ⅸ区遺構実測図②（S＝1/80）

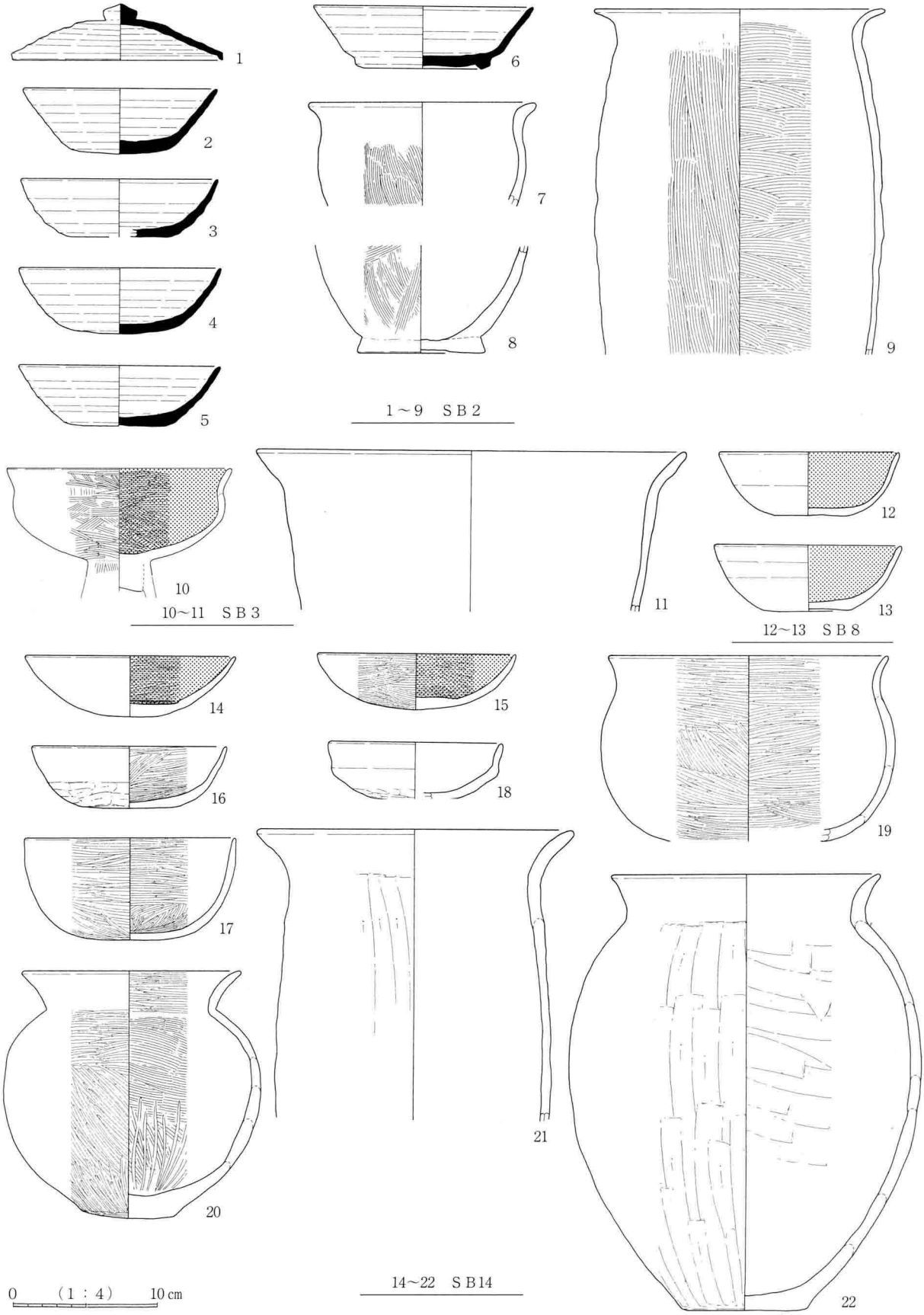


図 273　Ⅸ区出土遺物実測図①（S = 1 / 4）

図 274　Ⅸ区出土遺物実測図②（S = 1 / 4）

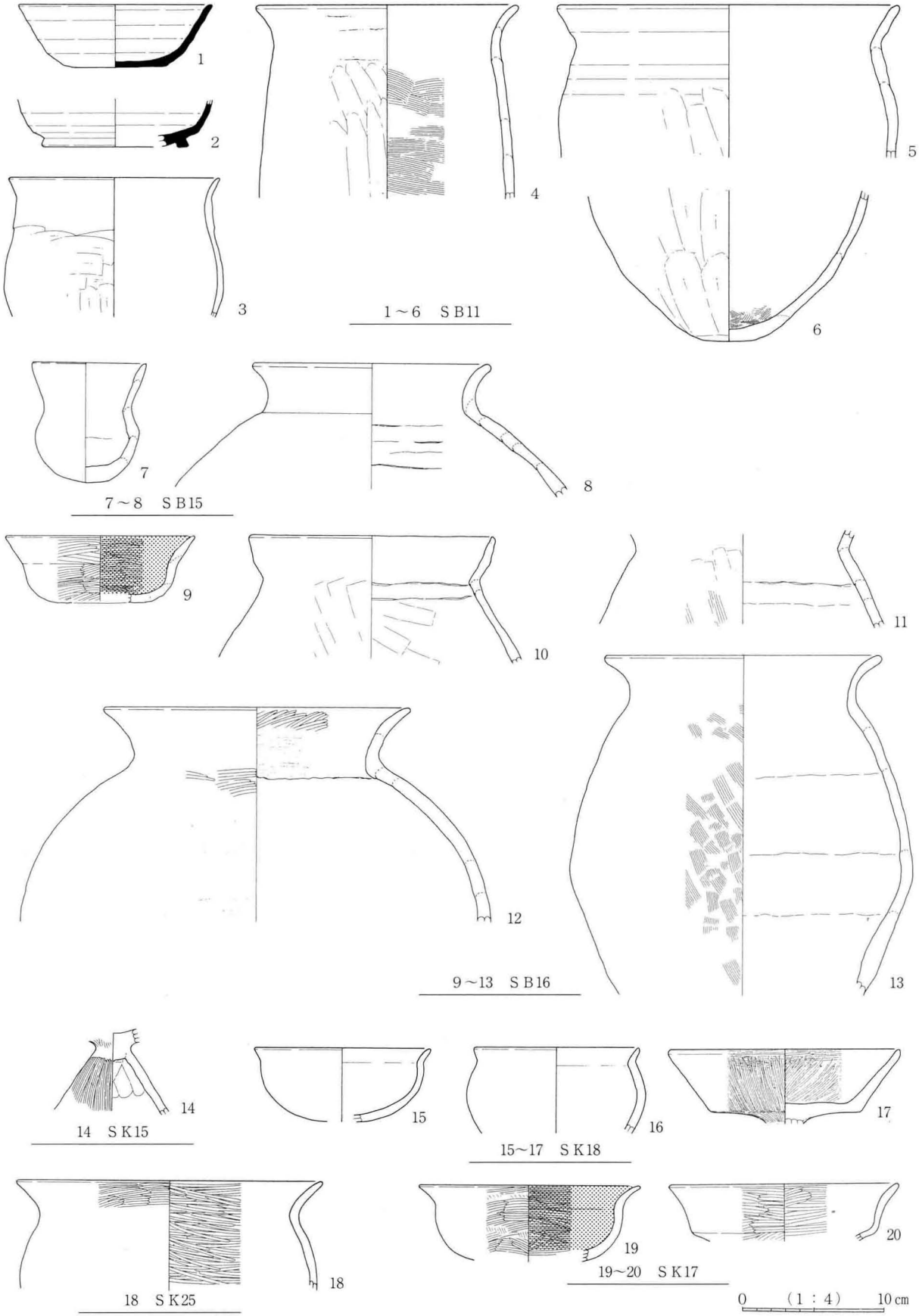


図 275　Ⅸ区出土遺物実測図③（S = 1／4）